

第 部 教員の総合的業績評価について

第I部

教員の総合的業績評価について

第1章 教員の教育，管理運営，社会貢献業績について

「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の目的，検討経緯及び今後の課題

目的

大学の点検評価は，大学が国内外において社会が求める教育・研究機関として十分責任を果たしているか否か点検評価し，不十分な点に改善を加え，不断に改革することを目的とするとともに，点検評価の結果の公表によりアカウンタビリティを果たすことを目的としている。この場合，大学が機関として社会における役割を果たしているかどうかを問うのであるが，その機関の機能は構成員個々の活動や業績と不可分のものである。大学の果たすべき役割は高度の教育と研究の維持・発展であり，個々の教員について教育活動と研究活動の双方にわたり，その貢献を適切に評価する必要がある。また，組織に効率的な管理運営がなければ個別の教育，研究における成果も期待できない。一方，複雑に高度化した現代社会において，大学や専門家としての教員には社会へのさまざまな役割が期待されており，これらの社会貢献活動も大学及び教員の業績の一部として評価される必要がある。このような目的で北海道大学及びその構成教員の自己点検評価が実施されている。

検討経緯 平成4年度より13年度に至るまで

北海道大学では，平成4年度から教育活動，研究活動，管理運営に関する自己点検評価の検討を開始した。この内，教員の研究活動の評価方法については平成4～7年度に種々検討され，平成8～9年度に個々の教員の研究業績データベース構築がなされ，それにより調査された教員個々の研究業績は，平成10年度よりホームページによる公表が行われている。

一方，教員の教育業績評価に関しては，平成4～7年度に「学生による教育指導の評価」や「教官のための教育指導研究会」，さらに「学生による教育指導の評価による教員の意識と行動の変化の評価」が検討，実施された。これらの動きの中で教員の教育活動・教育業績の評価の

必要性が明らかになるとともに、平成8年度には、教育業績、研究業績とともに管理運営への貢献についても総合的に評価する必要性が明らかにされた。さらに、平成9年度は「学業成績評価についてのアンケート調査」が実施され、教員業績評価は、教育改善のための「ファカルティ・ディベロップメントの実施」とともに取り組むべき重要な方策とされるに至り、平成10年度は教育業績評価実施のためのフォーマットが作成された。教育、研究、管理運営や社会貢献に関する活動については、平成4年度より議論されてきたが、平成8年度に「教員の総合的評価と流動化」が課題として示され、個々の教員の教育業績、研究業績、学部、大学への貢献及び社会への貢献を総合的に評価するシステム構築の検討が必要となった。平成10年度から「教育、管理運営、社会貢献の業績」調査実施について検討され、平成11年度に調査が実施された。平成12年度はフォーマットをさらに検討、改善して調査を実施し、87.3%（1,865名）の回答を得た。この調査結果は個人データとして冊子体に掲載・公表された。

平成13年度は、12年度とほぼ同様であるが、新たに「教員の教育、管理運営、社会貢献業績について」個々の教員の考え方や実績を記述できる自由意見欄を設けたフォーマットで、北海道大学に在籍する教員2,075名について調査を実施したところ、全体の89.7%にあたる1,861名の回答を得た。平成12年度と同様、13年度も個人データは冊子体として公表される。なお、自由意見欄に記載された意見を参考に、次年度以降におけるデータベース化を目的として、そのための調査項目、フォーマット等について検討することになっている。

今後の課題

大学が真に果たすべき役割に向けて大学を改革するために、大学についての点検評価とともに、大学を構成する個々の教員の活動の点検評価も必要である。また個々の教員の業績の点検評価にあたり、教育、研究、管理運営及び社会貢献の活動にわたって、総合的に評価する必要があることは、目的の欄に記したとおりである。しかし、現時点では、教育活動や教育業績に関する評価システムが確立されておらず困難である。同様に、管理運営や社会貢献に関しても困難な点が多い。したがって当面、教育、管理運営、社会貢献に関する業績についてデータの集積と呈示を続ける一方、これらと併行して教員のもつ適性、特性を調べ、その評価基準の設定等、評価システムの構築について検討を進める必要がある。また、今後、調査結果を活用する方法について、検討を進める必要がある。

平成14年度への提言事項

1 「教育，管理運営，社会貢献業績調査票」の記入方法の改善

「教育，管理運営，社会貢献業績調査票」の記入方法については，記入する教員の負担軽減を図るとともに，調査票の提出率の向上を図るため，各教員がパソコンから各業績を入力できるよう検討する必要がある。

2 「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」のデータベース化

「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」をデータベース化するとともに，研究業績データベース等の利用による効率化を検討する必要がある。

3 「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の公表方法について

「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の公表方法について，冊子により公表することの是非，CD・ROMとすることの是非，更に，データベースのみとし冊子やCD・ROMによる公表を廃止することの是非の検討が必要である。

4 「教育，管理運営，社会貢献に係る業績」の評価のあり方について

現在の「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」は，個々の教員のデータ提示であって，指標による重み付け等による評価にまでは踏み込んでいない。将来の教員の総合的な業績評価にむけて，評価のあり方の検討を継続する必要がある。

また，調査結果を活用するための評価システムの検討が必要である。

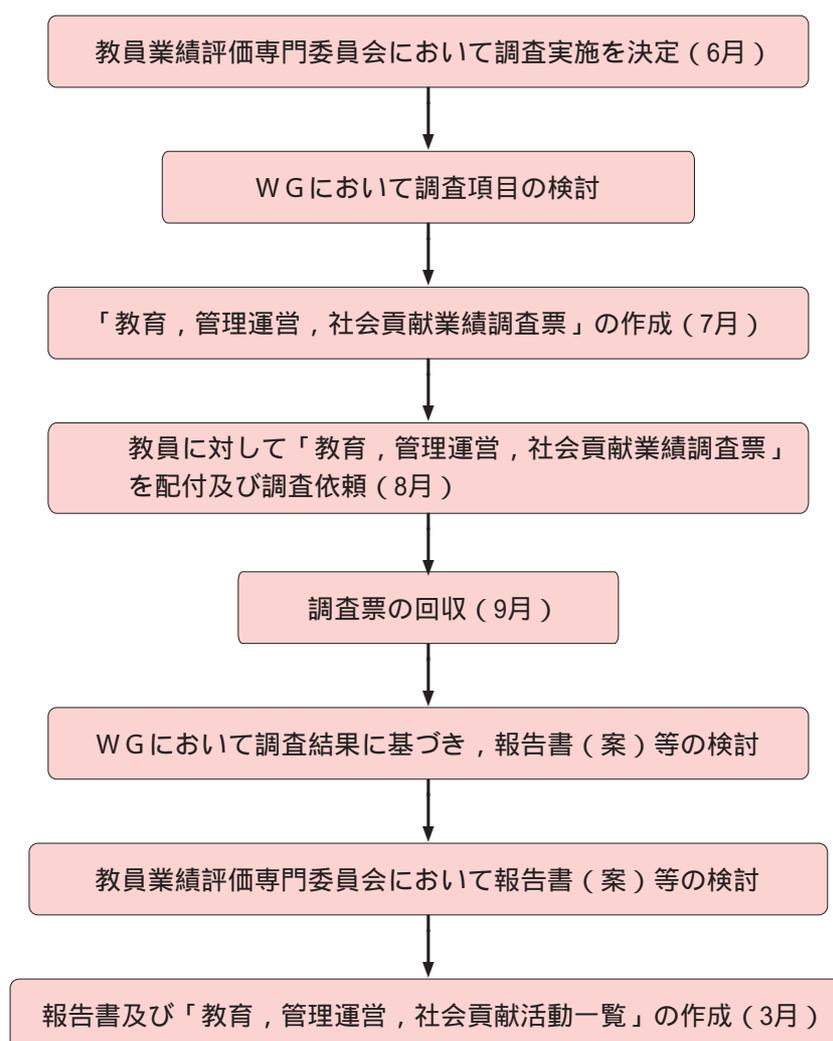
教員の「教育，管理運営，社会貢献業績」の調査から報告書及び「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の作成まで

この調査は，平成13年8月～9月に本学の専任教員（調査時点で本学に在籍し，平成12年4月から平成13年3月の間に本学に在籍していた教授，助教授，講師及び助手）を対象に実施した。

調査票のフォーマットは，昨年度のものをベースとしているが，業績一覧WGにおいて，学内から寄せられた本調査に係る意見を参考の上，調査項目の修正・追加作業を行った。

調査票の回収後，同WGにおいて「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の掲載事項及び公表方法の検討，並びに報告書の取りまとめ作業を行った。

報告書及び「教育，管理運営，社会貢献活動一覧」の作成に係る流れ図は次のとおりである。また，調査の依頼文書及び調査票等を次頁以降に示す。



平成13年8月

教 員 各 位

点検評価委員会教員業績評価専門委員会
委員長（法学研究科長） 畠 山 武 道

教員の「教育、管理運営、社会貢献業績」の調査について（依頼）

点検評価委員会では「教員個々の評価は、教育、研究、管理運営及び社会貢献の業績を総合的に行う必要がある」との考えから、平成10年度から「教員の総合的業績評価の在り方」を課題の一つとして取り上げ「教員業績評価専門委員会」を設置して検討してまいりました。

今日の大学に課された役割が高度の教育と研究水準の維持にあることを考えると、教員についても、教育活動と研究活動の双方にわたり、その貢献を適切に評価する必要があります。また、組織の効率的な管理運営がなければ、個別の教育・研究における成果も期待できません。一方、複雑高度化した現代社会において、高度専門的な教育機関としての大学や専門家としての教員には、学生を対象とする教育活動や学界中心の研究活動の他に、さまざまな役割が期待されており、これらの社会貢献活動も、大学及び教員の業績の一部として評価される必要があると考えられます。

これらのことから、本専門委員会では、昨年に引き続き、本学の専任教員（調査時点で本学に在籍し、かつ平成12年4月から平成13年3月の間に本学に在籍していた教授、助教授、講師及び助手）を対象に「教育、管理運営、社会貢献業績」に係る業績調査を実施することといたしました。

趣旨をご理解いただき、ご協力方よろしく申し上げます。

つきましては、記入要領及び本年刊行した「教育、管理運営、社会貢献活動一覧」を参考の上「平成13年度 教育、管理運営、社会貢献業績調査票」に必要事項を記入し、調査票のみを所属部局の〆切日までに事務担当掛へ提出するようお願いいたします。

なお、調査結果は、個人ごとの一覧として刊行・公表させていただきますが、本調査結果が各教官の活動の客観的評価並びに自己啓発に有用な資料となるよう、今後も更に検討していきたいと考えております。

おって、不明の点は下記に照会願います。

調査に関する照会

教員業績評価専門委員会委員長 法学研究科長 畠 山 武 道（TEL 3116）

" 委員 薬学研究科長 野 村 靖 幸（TEL 3246）

事務担当

総務部企画室点検・評価担当 西田又は笹原（TEL 3600）

「平成13年度 教育,管理運営,社会貢献業績調査票」記入要領

平成12年4月から平成13年3月までの間の業績を記入してください

記入欄に付されている○数字は,データの集計・分析を電算処理するために利用するものです。
該当項目がないときは,0と記入してください。

所属部局,職名,研究分野,氏名,年齢

所属部局,職名及び年齢は平成13年4月1日現在で記入願います(①,②)。

所属部局名については,最初に研究科名とその専攻名,次に学部名とその学科名を記入してください。併せて下記の部局コード番号表を参考にしてコード番号も記入してください。

研究分野については,研究者総覧に倣って3つ以内を記入してください。

部局コード番号

部 局 名	番号	部 局 名	番号	部 局 名	番号
文学研究科・文学部	01	言語文化部	13	量子集積エレクトロニクス研究センター	27
教育学研究科・教育学部	02	地球環境科学研究科	14	エネルギー先端工学研究センター	28
法学研究科・法学部	03	国際広報メディア研究科	15	高等教育機能開発総合センター	29
経済学研究科・経済学部	04	低温科学研究所	16	先端科学技術共同研究センター	30
理学研究科・理学部	05	電子科学研究所	17	情報メディア教育研究総合センター	31
医学研究科・医学部	06	遺伝子病制御研究所	18	総合博物館	32
歯学研究科・歯学部	07	触媒化学研究センター	19	北方生物圏フィールド科学センター	36
薬学研究科・薬学部	08	スラブ研究センター	20	保健管理センター	33
工学研究科・工学部	09	大型計算機センター	21	体育指導センター	34
農学研究科・農学部	10	アイソトープ総合センター	22	医療技術短期大学部	35
獣医学研究科・獣医学部	11	機器分析センター	23		
水産科学研究科・水産学部	12	留学生センター	26		

研究科,学部の附属施設に所属する教官は,研究科・学部のコード番号を記入してください。

教育の業績

A 教育の指導に係る業績

1 教育の経験

1) 北海道大学における専任教員としての在籍年数

平成13年3月末日までの年数を記入してください。

1年未満の期間は月数を記入してください。例:0年6月

2) 北海道大学以外の高等教育機関(高等専門学校以上。以下同じ)における教育経験年数

3) 1)~2)に該当しない場合で,高等教育機関における非常勤講師の教育経験年数

2 学部教育の実績

1) 担当授業科目

担当授業科目について以下の項目を記入してください。担当授業科目とは,授業科目表

に記載され、単位が認定される講義、演習、文献講読、論文指導（全学教育科目の「論文指導」など）、実験、実習、その他などをいいます。助手の教員の担当する実験・実習も含まれます。教職課程科目、H U S T E Pの担当もここに記入してください。

なお、学内非常勤担当科目も、ここに記入してください。

科目名（実働単位数）

科目名はカリキュラム上の分類で記入してください。

実働単位数は次の方法で計算して記入してください。

計算方法

授業の担当形態は、単独、分担、チーム担当など様々です。ここでは授業に参加し、学生に接している時間を記入してください。授業の準備に要した時間、休講時間及び代講してもらった時間は算入しません。

授業時間は、便宜上、授業科目の種類にかかわらず、90分授業15回を2単位として計算します。

15回又は、その年度の授業全体に参加したときは2単位とします。

他は「参加授業(90分授業)回数×2÷15」で計算します。

小数点第2位を切上げで記入してください。

例えば1回参加は「 $1 \times 2 \div 15 = 0.14$ 」で、「0.2単位」と記入します。

科目区分

全学教育、専門教育のいずれかを○印で囲んでください。

担当教員

担当教員数を記入してください。

クラスサイズ

成績を評価する学生総数を記入してください。

授業形式

授業形式を下記から選択し、記号を記入してください。

A：講義，B：演習・ゼミ，C：実験・実習・技術演習・実技調査指導，

D：小グループ(チュートリアル)，E：その他(H U S T E Pなど)

授業内容キーワード

内容に関するキーワードを、必要であれば記入してください。

総科目数を記入してください(③)。

2) 担当授業科目の内訳、総実働単位数

担当授業科目の内訳を実働単位数で記入してください。

複数教員担当の場合も実際の参加時間で計測し、研究・診療の見学への対応は、実際の学生に対面した時間で計算します。計算方法は、1)のと同じです。

総実働単位数を記入してください。(④)

3) 卒業論文指導

所属する学部により異なりますが、学生に対する卒業論文指導について、指導に直接要した時間(年間対面指導総時間)(⑤)と年間指導人数(⑥)を記入してください。

なお、大学院の論文指導は別に扱います。

4) セミナー等

カリキュラム上の授業科目になっていないセミナー等について記入してください(7)。

5) 学生指導

正規の授業の範囲を超えて学生を指導したことがあれば、下記の各項目について記入してください。なお、時間数は年間の総時間数を記入してください。また、合計時間数を記入してください(8)。

クラス担任

クラス担任として費やした時間及び内容を記入してください。

留学生の指導

留学生の指導に費やした時間及び内容を記入してください。

就職のための指導

就職のための指導に費やした時間及び内容を記入してください。

授業外の補講，個人学習等

授業外の補講，演習林個人学習指導，学習グループのボランティア的指導等に費やした時間及び内容を記入してください。

病院臨床実習の指導等

安全指導等

教育実習，工場見学，社会見学，調査への引率

修学，生活，クラブ活動への指導

～ の内容について特記すべき事項があれば記入してください。

3 大学院教育の実績

1) 担当授業科目

担当授業科目について、学部と同じ要領で、以下の各項目を記入してください。

なお、学内非常勤担当科目も、ここに記入してください。

科目名(実働単位数)

科目名はカリキュラム上の分類で記入してください。

実働単位数は次の方法で計算して記入してください。

計算方法

授業の担当形態は、単独，分担，チーム担当など様々です。ここでは授業に参加し、学生に接している時間を記入してください。授業の準備に要した時間，休講時間及び代講してもらった時間は算入しません。

授業時間は、便宜上、授業科目の種類にかかわらず、90分授業15回を2単位として計算します。

15回又は、その年度の授業全体に参加したときは2単位とします。

他は「参加授業(90分授業)回数×2÷15」で計算します。

小数点第2位を切上げで記入してください。

例えば1回参加は「 $1 \times 2 \div 15 = 0.14$ 」で「0.2単位」と記入します。

課程

修士又は博士のいずれかを 印で囲んでください。いずれにも該当するときは、両方を 印で囲んでください。

担当教員

担当教員数を記入してください。

クラスサイズ

成績を評価する学生総数を記入してください。

授業形式

授業形式を下記から選択し、記号を記入してください。

A：講義，B：演習・ゼミ，C：実験・実習・技術演習・実技調査指導，D：その他

授業内容キーワード

内容に関するキーワードを、必要であれば記入してください。

総科目数及び総実働単位数を記入してください(⑨)，(⑩)。

2) 担当大学院学生数

大学院の指導は、各大学院生の研究テーマと関連して直接指導した者のみについて、研究指導学生数及び学位取得人数を記入してください(⑪ ~ ⑭)。研究指導学生数とは、在籍している研究指導学生の総数をいい、学位取得の有無を問いません。

また、特別研究学生とは、他大学の大学院に在籍している学生で、本学の大学院又は研究所等において研究指導を受けようとする学生のことです。

(人)には留学生数を、内数で記入してください。

3) 論文博士取得のための研究指導

論文博士取得のため直接指導した卒業生、社会人、他大学学生等の総数を記入してください(⑮)，(⑯)。

(人)には留学生数を、内数で記入してください。

4) 論文審査の数

主査又は副査として論文審査を行った数を記入してください(⑰ ~ ⑳)。

(人)には留学生数を、内数で記入してください。

4 附属病院における研修医等の指導の実績

附属病院における研修医等の指導の実績を記入してください(㉕)，(㉖)。

5 学外非常勤講師等の実績(実働単位数)

北海道大学以外の高等教育機関における学部教育・大学院教育の実績を記入してください(㉗)。

実績は、学部教育・大学院教育と同様の方法で計算した実働単位数で記入してください。

なお、学内非常勤講師については、「2 学部教育の実績」及び「3 大学院教育の実績」の欄に記入してください。

6 その他の教育の指導に係る業績

該当するものがありましたら、記入してください(㉘)。

レポートの評価及び添削，教材作成などの補助業務も，ここに合計時間数および内容を記入してください。

B 教育の改善に係る業績

北海道大学における教育の質の向上に対する積極的行動を評価します。

専門分野の教育の質の向上及び機関としての教育の質の向上に対する観察可能な姿勢，すなわちファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を評価するものです。

Facultyは教員個人，教員の集団，学部等を指し，FDは，一般に，教育資質の改善への行動を指し，教授法の改善，カリキュラムの改善及び教育組織の改善に積極的に参加し，実際に改善していくことを意味します。

ここでは大学における教員として関連の教育行動を具体的に改善する努力のデータを記入することになります。北海道大学におけるすべての活動を記入してください。

1 授業用教科書等の執筆

1) 教科書

2) 翻訳書

講義・演習等で使用するために執筆した教科書，翻訳書等を記入してください(②9)，(③0)。文献については，本学の『研究活動一覧』の書式(著者名，書名(雑誌名)，総ページ数(頁(最初-最後))，発行所，発行場所，発行年等)で記入してください。複数の場合は各々記入してください。

3) 教材の作成

電子メディア，プリント，OPH，テープ，地図，模型等で一般的に使用できるものを，タイトルを付して記入してください(③1)。

2 教育改善に関する著書，論文，啓蒙文等

教育改善に関して執筆した著書，論文，啓蒙文等を記入してください(③2)。新聞等への執筆もここに記入してください。

3 FDの企画・運営等

1) 教育活動に関する講演，発表

教育活動に関する講演，発表等について，論題，会の名称，主催，開催日，開催地，対象者，参加者規模(人数)等を記入してください(③3)。

2) 教育活動に関する研修会(FD)の担当

研修会の企画，講師等について，対象となる大学・学部名，対象者，参加人数，内容，企画実施(主催に参加した場合)等を記入してください(③4)。

3) 教育活動に関する研究

題名，参加人数等について記入してください(③5)。

4) 教育活動に関する研究補助金の取得

題名，金額等について記入してください(③6)。

5) 教育活動に関する受賞

受賞名について記入してください(37)。

6) その他

1)~5)以外にFDに関わったことがありましたら,記入してください(38)。

4 FDへの受講参加

教育改善に関する様々な集会(FDを目的とした研修会,講演会,研究会,セミナー,シンポジウム,ワークショップ,新任教員研修会,専門分野の教育学会,例えば工学教育学会,医学教育学会,語学教育学会等)への参加について記入してください(39)。

5 その他の教育の改善に係る業績

該当するものがありましたら,記入してください。個人的に行っている教授法の工夫なども,ここに内容を記入してください(40)。

管理運営の業績

ここでは,北海道大学における管理運営への貢献を記入してください。

1 部局長等

学部長,研究科長,研究所長,センター長,施設長,言語文化部長,附属病院長,附属農場長,附属演習林長,評議員等の職にあった場合は,職名及び任期を記入してください。

なお,任期については,平成12年4月から平成14年3月までが任期の場合は「平成12年4月~14年3月」と記入してください。

2 全学的委員会,専門委員会,ワーキンググループ等

全学的委員会等の総件数,名称及び役職(委員,委員長,小委員長,ワーキンググループ座長等)を記入してください(41)。

ただし,公表できないものは記入しないでください。

総件数には,名称を公表できないものも含めてください。

3 所属部局等における管理運営の実績

研究科,学部,研究所,研究センター等における委員会等(学科長,講座責任者等を含みます)の総件数,名称及び役職(委員,委員長,小委員長,ワーキンググループ座長,世話人,責任者等)を記入してください(42)。

4 その他の管理運営の業績

その他で負担が顕著なものがありましたら,記入してください(43)。

社会貢献の業績

1 審議会,委員会等の実績

専門分野に関連して兼職している審議会,委員会等の総件数,名称,役職(委員,会長,部会長,委員長,小委員長等)及び年間開催回数を記入してください(44)。

ただし,公表できないものは記入しないでください。

総件数には,名称を公表できないものも含めてください。

2 国家試験委員等の実績

各種の国家試験等の出題委員，採点委員等に就任したことがあれば，総件数及び名称を記入してください（45）。

ただし，公表できないものは記入しないでください。

総件数には，名称を公表できないものも含めてください。

3 上記以外の公的社会活動の実績

上記以外に，国際機関，国，地方公共団体，学術団体及びその他の公的団体からの委嘱を受け，本学の下承を得てなされた活動で，専門分野に関連して積極的に社会貢献したと思われるものがありましたら，総件数，名称及び活動の内容を記入してください（46）。

4 学会，学術団体等への貢献

1) 学会，学術団体等

学会，学術団体等（学術会議を含む。以下同じ）の理事長，会長，部会長，理事，監事，運営委員，企画委員等に就任したことがあれば，総件数，名称及び役職を記入してください（47）。

2) 学会，学術団体等に対するその他の貢献

学会，学術団体等において，特別の企画・運営（国際シンポジウムの開催，学会の特別検討委員会の委員，改革委員会座長等），機関紙・雑誌の編集，論文の査読及びその他の重要な職務に携わったことがあれば総件数，名称及び内容を記入してください（48）。

5 診療等による貢献

社会に対して高度先端医療を担う本学の附属病院・保健管理センターにおける診療等について記入してください（49）。特定の患者に対する症例検討会以外の研究会に要した時間は算入しないでください。医師養成の卒後教育のための時間は，教育業績の欄に記入してください。

6 社会人学習等への貢献

1) 公開講座，講演会等

高校生・一般社会人等を対象とする公開講座，講演会等の講師を担当したことがありましたら記入してください（50）。

2) 大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成への参画

大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成にあたり，企画・編集等で積極的に貢献したことがありましたら記入してください（51）。

3) 高校生を対象とした学部体験入学等への参画

大学，学部，学科又は学会等の主催する高校生対象の学部体験入学等の企画，準備，引率，講演，模擬授業等で積極的に貢献したことがありましたら記入してください（52）。

4) その他，社会人学習等に貢献した事項

該当するものがありましたら，記入してください（53）。

7 専門分野に関連して作成した作品

文芸作品，芸術作品，建築作品，化石モデル等，該当するものがありましたら記入してください（54）。

8 以上の他に，専門分野に関連した社会貢献の事項

該当するものがありましたら記入してください（55）。また，外部の団体（企業，民間団体を含む）からの要請による研究会，講演会等への参画で，貢献が顕著なものもここに記入してください。

「平成13年度 教育，管理運営，社会貢献業績調査票」

(平成12年4月～平成13年3月の業績)

所属部局： _____ (1)

(部局名を記入して，記入要領のコード表によりコード番号を右欄に記入願います。)

職 名： 1教授，2助教授，3講師，4助手 (該当する番号を右欄に記入願います。)(2)

研究分野： _____

氏 名： _____ (ふりがな _____)

年 齢： _____ 歳

教育の業績

A 教育の指導に係る業績

1 教育の経験

1) 在籍年数 _____ 年 _____ 月

(助手 _____ 年 _____ 月，講師 _____ 年 _____ 月，助教授 _____ 年 _____ 月，教授 _____ 年 _____ 月)

2) 北海道大学以外の高等教育機関での教育経験年数 _____ 年 _____ 月

3) 1)～2)に該当しない場合で，高等教育機関での非常勤講師の経験年数 _____ 年 _____ 月

2 学部教育の実績

1) 担当授業科目

科目名(実働単位数)	科目区分	担当教員	クラスサイズ	授業形式	授業内容キーワード
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		
()	全学教育 専門教育	人	人		

(3) 総科目数 _____

2) 担当授業科目の内訳，総実働単位数

講義()	演習()	実験・実習()	その他()
-------	-------	----------	--------

(4) 総実働単位数 _____

3) 卒業論文指導

年間対面指導総時間	⑤	時間	年間指導人数	⑥	人
-----------	---	----	--------	---	---

4) セミナー等

対 象	1 学部学生のみ	2 大学院学生と合同
年 間	⑦	単位相当

5) 学生指導

クラス担任	時間	内容：
留学生の指導	時間	内容：
就職のための指導	時間	内容：
授業外の補講，個人学習等	時間	内容：
病院臨床実習の指導等	時間	内容：
安全指導等	時間	内容：
教育実習，工場見学，社会見学，調査への引率	時間	内容：
修学，生活，クラブ活動への指導	時間	内容：
内容について，特記すべき事項があれば記入してください		

⑧ 合計時間数 時間

3 大学院教育の実績

1) 担当授業科目

科目名(実働単位数)	課 程	担当教員	クラスサイズ	授業形式	授業内容キーワード
()	修 士	人	人		
()	博 士	人	人		
()	修 士	人	人		
()	博 士	人	人		
()	修 士	人	人		
()	博 士	人	人		
()	修 士	人	人		
()	博 士	人	人		
()	修 士	人	人		
()	博 士	人	人		

⑨ 総科目数

⑩ 総実働単位数

2) 担当大学院学生数

修士課程	研究指導学生数	人()	学位取得人数	人()
博士課程	研究指導学生数	人()	学位取得人数	人()
研究生	研究指導学生数	人()	学位取得人数	人()
特別研究学生	研究指導学生数	人()	学位取得人数	人()
合計人数	⑪	人, ⑫()	⑬	人, ⑭()

() 人)には留学生数を,それぞれ内数で記入してください。

3) 論文博士取得のための研究指導 ⑮_____人, ⑯()人

() 人)には留学生数を,内数で記入してください。

4) 論文審査の数

主査	修士課程 ⑰	人, ⑱()	博士課程 ⑲	人, ⑳()
副査	修士課程 ㉑	人, ㉒()	博士課程 ㉓	人, ㉔()

() 人)には留学生数を,それぞれ内数で記入してください。

4 附属病院における研修医等の指導の実績

指導研修医等の人数	年間指導時間	内容
⑳ 人	㉑ 時間	

5 学外非常勤講師等の実績(実働単位数)

講義()	演習()	実験・実習()	その他()
-------	-------	----------	--------

㉒ 総実働単位数

6 その他の教育の指導に係る業績

㉓ 総件数 件

B 教育の改善に係る業績

1 授業用教科書等の執筆

1) 教科書

②⑨ 総件数 件

2) 翻訳書

③⑩ 総件数 件

3) 教材の作成

③① 総件数 件

2 教育改善に関する著書，論文，啓蒙文等

③② 総件数 件

3 F Dの企画，運営等

1) 教育活動に関する講演，発表

③③ 総件数 件

2) 教育活動に関する研修会（F D）の担当

③④ 総件数 件

3) 教育活動に関する研究

③5 総件数 件

4) 教育活動に関する研究補助金の取得

③6 総件数 件

5) 教育活動に関する受賞

③7 総件数 件

6) その他

③8 総件数 件

4 FDへの受講参加

会名				主催		
規模	参加者約名	開催日	月日	開催地		
会名				主催		
規模	参加者約名	開催日	月日	開催地		

③9 総件数 件

5 その他の教育の改善に係る業績

④0 総件数 件

管理運営の業績

1 部局長等

職 名	任 期
	平成 年 月 ~ 年 月
	平成 年 月 ~ 年 月

2 全学的委員会，専門委員会，ワーキンググループ等

1) 総件数

④① 件

2) 主なもの3つ以内

委員会等の名称	役 職

公表できない委員会等の名称は記入しないでください。

3 所属部局等における管理運営の実績

1) 総件数

④② 件

2) 主なもの3つ以内

委員会等の名称	役 職

4 その他の管理運営の業績

④③ 総件数 件

社会貢献の業績

1 審議会，委員会等の実績

1) 総件数

④④ 件

2) 主なもの3つ以内

審議会，委員会等の名称	役職	年間開催回数
		回
		回
		回

公表できない審議会，委員会等の名称は記入しないでください。

2 国家試験委員等の実績

1) 総件数

④⑤ 件

2) 主なもの3つ以内

委員等の名称

公表できない委員会等の名称は記入しないでください。

3 上記以外の公的社会活動の実績

1) 総件数

④⑥ 件

2) 主なもの3つ以内

団体，機関等の名称	活動の内容

4 学会，学術団体等への貢献

1) 学会，学術団体等

総件数

④7 件

主なもの3つ以内

団 体 等 の 名 称	役 職

2) 学会，学術団体等に対するその他の貢献

総件数

④8 件

主なもの3つ以内

団 体 等 の 名 称	実施した企画等の内容，役割	開 催 地

5 診療等による貢献

機 関 名	診 療 科	週平均時間	年間時間
		時間	時間
		時間	時間

④9 年間総時間数

6 社会人学習等への貢献

1) 公開講座，講演会等

主催者		対象者		参加人数	人
講座等名					
講義題名					
主催者		対象者		参加人数	人
講座等名					
講義題名					
主催者		対象者		参加人数	人
講座等名					
講義題名					

⑤0 総件数 件

2) 大学・学部・学科紹介パンフレット等の作成への参画

⑤1 総件数 件

3) 高校生を対象とした学部体験入学等への参画

⑤2 総件数 件

4) その他，社会人学習等に貢献した事項

⑤3 総件数 件

7 専門分野に関連して作成した作品

⑤4 総件数 件

8 以上の他に，専門分野に関連した社会貢献の事項

⑤ 総件数 件

平成13年度教育,管理運営,社会貢献業績調査に係る主な意見

1) 評価に関する意見

各分野によって強い点,弱い点があり,全てを評価対象とすべきではないと思います。むしろ,この分野,機関には何を強く望むかを大学側が示し,特徴をもったユニークな分野,機関づくりをすべきであろう。研究所は,研究をして初めてその評価が認められるものであるから,その評価は,論文のインパクトファクターで充分であろう。

良い研究は必ず良い大学づくり,そして良い地域社会への貢献に結びつくと考えている。

産学連携を含む社会貢献を,教育,研究と並ぶ大学の第三の柱とするならば,社会貢献に関する実績を,さらに具体的に調査すべきであると考えます。先端研では,年間200件に近い技術相談に対応し,一部は適切な教官との共同研究形成に運び,また経済産業局,北海道,札幌市,北海道経済連合,北海道中小企業家同友会等と産学連携機構のあり方,構築法等の議論に継続して参加し,学内研究シーズの紹介等を行っている。このような活動は,先端研の教官以外でも多くの教官により行われているが,本調査ではその一部しか反映されないと思われる。

「FDに多く参加している教官が,教育成果を上げた教官である。」などという発想が,もしこの調査にあるとすれば,きわめて遺憾である。このような調査は広く,浅く,様々なことを手がけている人々が,ハイポイントになり,狭く,深く集中して取り組んでいる人々は,ローポイントになる傾向を生むのではないか。

例えば,五つの委員会を引き受けている教官は,一つの委員会しか引き受けていない教官より働いている。というのは,一般的には正しいが,例外も山ほどあろう。

教育,管理運営,社会貢献に関わる業績評価には,米国の大学で一般化されているポートフォリオの形式に学ぶところが多い。説明をデータでうろろうしながら掲示することになる。また,学生による授業評価も教育業績の一部に用いられる。管理運営には,大学で誰が何をしているか,どのような貢献をしているかが,個人名を伴ってつたわる仕組みが重要である。これによって,真に力のあるリーダーシップが育つ。また,この早い対応の求められる時代には,実力主義で対応すべきである。

だから,実力がみえる情報化が重視される。ひとつは,このような報告書もかわった人物が,事務も含めて最初に出てから本分に入るような意識改革が必要である。

本形式では,名前だけの参加,貢献と,本当にやっている者の区別ができない。点検評価というのは本当に業績があり,大学のパワーになる部分を評価するためにあるのであって,

評価が欲しい人のためにやるのではない。自己申告制には、その点で限界があるだろう。もう再三にわたりこの形をやったのだから、第三機関による冷静な評価が欲しい。大学の良心というものは、善悪を世間に示すという点で存在価値がある。それは、大学という我が身において示すことも含まれるはずである。正当な評価を行い、それを世に示すことなくして評価委の目的は果たせまい。現状は「点検評価をした」実績をとりあえず残して、体制を整える為に、やっているとしたかと思えない。

国家経済の現状を踏まえる限り、長年にわたって実社会から隔離された世界を満喫してきた我々国立大学もまた、姿勢を正す時代を迎えている。しかし、業績評価という面から、国立大学の姿を点検する場合、ある程度客観的に評価可能な研究の面はともかく、教育面で教官個々を点検評価するのは問題がある。その代わり、教育面での社会的評価は学科単位なり、学部単位で行われるのが望ましい。更にいうなら、教育面の点検評価は卒業する学生達と、その学生が就職した先の関係者によって行われるべきであり、現在学内で行われている自己点検評価法には疑問を覚える。

私は講師という立場ですが、現在私一人で、博士3名、修士4名、学部4年6名、3年3名、論博希望者1名を指導しています。また、本調査にも述べましたように、大学の部活動、公的社会活動、学会活動を積極的に実施しています。しかしながら、このようなことは研究費や給与には反映されず、この調査も活動をしている者の負担が増えるだけとなっています。ぜひとも、活動をしている者、そしてそれをちゃんと報告している者が、報われる体制をとっていただきたい。現状では、点検も評価もできていないのではないのでしょうか。

2) 調査への反対あるいは疑問

毎年指摘しているのですが、実験等の場合、卒業論文指導等における「年間対面指導総時間」は実験指導を含めるとすると、実験にも用する時間に入ってきて膨大な時間になるのです。このような件は、記入する側にしたら非常に困難で、正確な時間を把握するには指導的内訳を毎回記入しておくという無駄な時間がかかります。

このような調査を毎年行う事は、本当に時間の無駄であると考えます。分析する側にとっても、大変な時間の損失であると考えます。3年に1度くらいでよいのではないかと。

卒論研究等は、毎日夜遅くまで常に顔をあわせ乍ら行っているのですが、画一的には何時間というようには答えられない。これをどのように評価するのか。最前線での研究、教育は、結局論文の内容と数で評価されるべきであり、これがレフリーもいて最も客観的ではないか。教育と称して、結果が客観的方法で出てこない状態で評価されると、結局のところ研究レベルが低下し、いわゆる論文が年一報程度でも教授になるような状態を招くのではないかと。これではまさに、競争的資金導入による活性化と、反対方向に向かう可能性があるかと危惧する。

次世代の研究者を研究成果を通しての教育を行い養成することで、本学は社会に貢献して

いる。あまり近視眼的な調査は，時間とエネルギーの無駄である。

調査には諸々のエネルギーコストが必要です。投下コストに見合う出力は何ですか？

H12の批判的意見にも見られるように，この調査を何に使われるのですか。理念よりも評価過程とその出力（利便的価値）を示さなければ，今後調査精度は限りなく劣化すると思います。一人が10分を費やして書けたとしても（ふつう一時間はかかるのでは？）この調査で逸失する総労力時間は全学でどれ程になりますか？意義があるなら「教官能力」の査定基準に明確に盛り込むべきです。

本調査への協力依頼文を読んでも，本調査を行う具体的な目的がはっきりしない。全学の教官，事務職員の方々に多大な労力と時間を費やさせるような調査が近頃多すぎる。

調査結果を数値化して，その数値の多少で個人を評価しようとすることは，共通一次試験で真に能力のある学生を選抜できにくいという我々の経験と反省に逆行することを，行おうとしているように思えてならない。

全学部を同じ土俵にのせて，貢献度を比較するのは困難。医学部に在籍し，附属病院での勤務が主たる業務の人間にとっては，努力の結果や業績に表れる部分は，微々たるものである。

3) 調査の項目

大学院生の指導の項目に，学位論文以外の論文指導の項目を追加すべき。ある意味では，学位論文よりも学術誌掲載論文の方が価値が高く，指導にもその分時間と労力を取られるのだから。

担当大学院学生数は，主たる指導教官と，副の指導教官の扱いをどうすればよいか，わかりにくい。

担当授業科目は，シラバス等の資料から明らかであろう。

Bについて，3，F Dの項目をなぜ別にするのか，その理由が理解できない。

したがって，B - 2とB - 3 - 3)，6)の区別が理解できない。

単年度ごとの業績だけでなく，例えば毎年更新されていくシステムの最初の企画，立上げに参画したといった，過去の業績がある場合には，それも何らかの形でカウントできるような方法の工夫をお願いします。

教育指導の実績の項（Aの3又は6)のあたりに，日本学術振興会特別研究員の指導実績の項目を入れるか，あるいは，6に記入するように説明をつけるか，した方がいいと思います。

「2 学部教育の実績 5) 学生指導」に対応する項目が「3 大学院教育の実績」にはないので、院生についての学生指導は、どこに記載すればいいのか迷います。

3にも項目を設けるか、2-5)を「院生への指導も含む」とするか、明確にされた方が良いと思われます。

他学部、他の講座から来る教官、研究者への研究指導についての項目がない。

学術誌の論文審査(ピアレビュー)も、かなり時間がとられる作業ですので、これも入れる必要があるのではないのでしょうか。

国際的な社会貢献項目がないのはおかしい。研究活動による社会貢献を評価すべきである。

指導学生のカウントについて、10月入学の留学生のカウントの仕方、10月に修士から博士へなった時のカウントの仕方を明確に指示して欲しい。

学生の年間指導時間は、客観的に考えにくい。又、大学院生の指導時間に多くの時間を割いているのに、学部学生の指導時間のみ記入させるのは、片手落ちである。

日常的な学生、院生の世話は、この調査表の項目では評価しきれないものがある。我々助手が、多くの時間と労力をさいていることをしっかりと、評価してほしい。また、各専攻内で様々な委員や、役割をしていることも、しっかりと評価すべきである。

医学研究科においては、臨床系大学院に所属する大学院生が、基礎系大学院の各教室で研究を行っている場合が非常に多い。しかも博士論文の指導も基礎系大学院の教官が行っている。従って、担当大学院生の数は少ないが、実質的には5~10人受け入れており、これが教育実績として反映されていない。これに関する項目が作られるべきと考えます。

入試関係の業務については、覆面がたてまえとなっているので、この種の調査には書けない。英語の場合、聞き取り試験が導入されてから、問題作成の労力が倍以上になっている感があるが、その労働量はどこにも表れないことになる。この種の匿名性を必要とする業務は、他にもおそらくあって、不公平感を抱いている人はいるのではないだろうか。

国際交流科目は、授業を英語で行うため、科目を提供している教官はその準備と学生のレポート評価に、多くの時間を費やしている。このことを正しく評価する項目を設けてほしい。国際交流科目に限らず、英語を使用言語とする授業の提供という設問にしても良いかと思う。農学研究科、工学研究科ですでに導入されているし、今後も授業の英語化は、増える傾向にあると思われる。

4) 調査の対象者及び対象期間

役職別にアンケートの内容を吟味する必要があると思われる。助手、講師、助教授には、論文審査の権限を与えていないのに、質問するのはおかしい。受け持つ講義に関しては、事務方で把握しておくべき問題ではないか。こういうアンケートのたびに回答するのは、時間の無駄。

1年間、留学しており、該当項目がありません。今回の調査結果（調査票）では、私は1年間全く何も行っていないこととなります。数少ない事例かもしれませんが、私のような留学（出張・研究旅行）等のご配慮をお願い致します。

本年度のことを聞いているのか、これまでの実績を聞いているのか、よく分からないものが多かった。管理運営の部局長のところでは、明らかに過去の実績を聞いている。（任期の年月日欄があるから）。他のところはどうなのか。

5) 調査の方法

教育実績などの情報は、全学、専門を通じて教務にある資料で把握できるはず。研究業績にしても同じ。その情報をもとに、修正、加筆を求める方が効果的と考える。昨年度の資料を探しだし、計算機片手に行う作業にかかる時間的コストは、よほど閑人でもない限り、調査の質を左右しかねない。これに割く時間は、ほとんどないのが現状である。今後の検討をお願いします。

他と重複が多すぎる。DBとリンクすべき。個別の貢献に不十分な項目設定。

多岐にわたる活動を1年以上もさかのぼって記入するのは、正確性に欠ける。今後も調査を継続することが必要なのであれば、調査項目を公表し、各位の記録等の準備を促すことが必要と思われる。

6) その他

報告書は、同窓会誌のように古本屋で売買されたり、想像しなかった利用のされ方を思う。点検評価委員会の個人情報に関する考え方を明示していただきたい。

このような調査は、3月末から4月上旬迄に行って欲しい。8月では遅すぎて、昔の事を思い出したり、資料を探すのに時間がかかる。これでは「組織の効率的な管理運営」に支障をきたす。

教育，管理運営，社会貢献活動一覧を出版されたのを見て，驚きました。このようなものは紙にせず，インターネット上にのみ公表したらいかがでしょうか。なお，このようなものは，事務員が少ない今，教官個人でしなければならず，時間をとられ，研究活動，および教育活動の妨げになりかねない。研究で評価してほしい人，教育実績で評価してほしい人，管理運営で評価してほしい人，社会貢献で評価してほしい人にわけて（本人の希望で）調査してはいかがでしょうか。

第2章 学生による「授業アンケート」について

(平成12年度後期および平成13年度前期)

はじめに

この授業アンケートは、各授業の授業力を高め、各学部、大学全体の教育力を向上するための組織的取り組みである。アンケート結果は各教員にフィードバックされ、さらに組織として授業改善していくための根拠ともする。授業改善は、個人プレーから団体プレーへの転換が求められている。すなわち、授業改善が各教員個人のレベルに止まることなく、教員の集団である学部や大学全体の教育力向上へ結びつく方策をとること、団体力となるような方策が求められ、授業評価の総体が活用される必要がある。

北海道大学の点検評価委員会は、平成4年に設置され、「学生による授業評価」を平成5年に試行、平成6年には全教員の授業を対象に本実施した。平成7年には、学生の授業評価に対する教員のレスポンスをアンケート調査した。ここでは、学生による授業評価は、授業改善に有効であり、2から3年に1度は実施すべきであると結論された。

一方、点検評価委員会では発足の当初から、教員の教育業績評価の必要性、教育に関する教員研修の必要性が議論されてきた。教育業績評価のフォーマットは、平成8年に提案され、平成10年に委員会で再検討して、平成11年から毎年実施することとなった。一方、学生側からの評価ということで、平成11年度前期の授業について学生による授業評価として「授業アンケート」を実施し、その詳細な解析結果は年次報告書に印刷された。平成12年度には、平成11年度前期、12年度前期の「授業アンケート」結果を比較して授業改善がなされたかを解析した。このアンケートの結果は、各教員にフィードバックされ、各自の評点で、全学、所属学部での位置づけ、順位がわかるようにした。さらに、各教員のデータは公表の方向で検討され、各教員の所属部局長に渡された。部局によっては、これをさらに解析し、教育改善の指針を得たところもあった。また、自らの授業に客観性をもたせるために、自分の授業を学生の立場から評価する自己評価も行い、学生の反応と比較できるようにした。

今年度は、1年分のデータを解析できる状況となった。すなわち、前年度の後期と今年度の前期を集計すると、1年分の授業についてのデータを解析でき、北海道大学の授業の総体について論ずることができるようになったからである。

さらにつぎの方針でデータを解析した。

- 1) 学部別に、講義・演習、必修・選択を区別し、集計する。また、それぞれの授業数、比率も比較する。
- 2) 授業法・授業形態も解析する。たとえば、全学教育についてのさらに細かい分類(教養科目の各分野、一般教育演習など)、学生に発言を促す工夫、宿題およびその種類、視聴覚教材の利用とその種類、試験回数、評価方法などである。
- 3) 自由意見を授業ごとに区切り、各授業内容をいくつかのキーセンテンスでまとめる。
- 4) 公表についてさらに検討する。

- 5) 公表に際して、教員は授業の内容、目標、工夫、所見などを説明する。すなわち、難しくても仕方がない科目もあるので、教員側からの説明を可能にしておく。
- 6) ランキングについてさらに解析する。すなわち、総体的教育業績を客観的に判定する方法も考える。

各授業は、以下に分類し、解析した。

- ・ 授業形態：講義，演習
- ・ 科目区分：全学教育，専門教育
- ・ 必修，選択の別
- ・ 受講登録学生数（クラスサイズ），アンケート提出率（授業出席率）

設問について

アンケートの設問は、前回と同様に以下のように設定した。

- A 「シラバスとその内容」
- B 「教員の授業法」
- C 「学生参加」
- D 「難易度」
- E 「学生の満足度・達成度」
- F 「出席・態度」
- G 「自由意見」

アンケートの設問は、教育の基本にしたがって、次のように構造化されている。

各教員はその教育機関において必要とされる授業科目を担当する。ここには必要理由があり、その目標達成のために授業が設計される。目標は学生中心に表現される。授業は、その目標にしたがって、事前に周到に設計され、そのシナリオに沿って施行される必要がある（A）。授業は、教師がいかに行うかにかかっている（B）。授業は学生の参加をうながし、これに対応していく必要がある（C）。内容は、授業の受け手である学生が理解できないものでは意味がない（D）。授業の成果は、受け手である学生の満足度、達成度ではかることができる（E）。学生の出席の程度は、授業の質によっても変化し、また、学生の意欲によっても異なる（F）。個別の授業に対する設問以外の意見、および教育環境、授業環境に対する意見は、自由意見にあらわれる（F）。

アンケートは、これらの授業の基本について、どのように設計され、実施され、その効果はどうであったかを、授業の受け手である学生から評価される。学生の意見では、試験や成績評価についての設問もほしいというが、アンケートの回収率をあげ、学生の総体の意見ができるように、期末試験前の一連の授業の最後のあたりで実施することにしたため、試験や成績評価についての設問はいれていない。

また、学生が自由な意見も書けるように無記名とした。責任ある意見を書いてもらうためには記名にするべきであるという教員の意見もあるが、試験、成績評価を控えている状態では記名させることはフェアでなく、学生教員間に信頼関係の無いことを前提にするアンケートともいえるためである。

各項目での設問は、経年変化を解析するために、以下のように前回と全く同様にした。

A 「シラバスとその内容」

シラバスと授業

- ・シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。
- ・授業は体系的に行われていた。

B 「教員の授業法」

B 1 教員と授業

- ・教官の熱意が伝わってきた。
- ・教官の話し方は聞き取りやすかった。
- ・授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。

B 2 メディア（教育媒体）

- ・黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。

B 3 「負担」

作業量・負担

- ・授業の進行速度は適切であった。
- ・授業で要求される作業量（レポート、宿題、自習など）は適切であった。

C 「学生参加」

学生との相互反応

- ・教官は効果的に学生の参加（発言、自主的学習、作業など）を促した。
- ・教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。

D 「難易度」

- ・授業内容の難易度は適切であった。

E 「学生の満足度・達成度」

- ・授業により知的に刺激された。
- ・授業の履修目標を達成できた。
- ・授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。
- ・授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。

F 「出席・態度」

- ・この授業の自分の出席率は（ ）%程度であった。
- ・質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。

G 「自由意見」

H 「授業内容についての説明」

I 「アンケート公表についての調査・意見」

以上の設問に対する「授業アンケート」は別紙のようにし、各学部に依頼した。アンケートは平成12年度後期および平成13年度前期授業の最後の授業でおこない、そのアンケート用紙は、直接に総務部企画室へ送付するという方法で回収した。この授業アンケートは各教員が担当科目のうち適当な1科目を選択して実施した。

アンケート実施依頼書

平成13年6月

教授・助教授・講師 殿

点検評価委員会教員業績評価専門委員会
委員長 畠山 武道

学部学生による授業アンケート及び教官自己評価アンケート調査について（依頼）

本学では、平成4年度から行ってきました全学の点検評価において、平成11年度からは教官の総合的業績評価に資するために、各教官の教育に関わるデータの調査、及び学生による授業アンケート調査を実施しております。これらのアンケートは本学の教育の改善を目的としています。

学生による授業アンケートは、授業の受け手である学生の意見を授業改善にフィードバックするためのものです。ご協力方よろしくお願い申し上げます。

「授業アンケート実施方法」

- 1) 担当の授業（講義・演習）について、できるだけ最後の授業で実施してください。
- 2) 少なくとも1年間に一つの授業について調査願います。
今回は前期の授業について調査します。複数の授業を担当されている場合は、一つの授業について自分で選択してください。特に希望される場合には、講義と演習の二つの授業についても調査できます。
- 3) もし、アンケート用紙が不足する場合には、各部局の教務担当掛に申し出てください（両面コピーでも結構です。）。
- 4) 教官は、「授業アンケート（教官自己評価用）」及び「アンケート提出票（教官用）」をご記入ください。
- 5) 「学生が記入したアンケート用紙」は、その場で回収し、「授業アンケート（教官自己評価用）」、「アンケート提出票（教官用）」、「アンケート分析結果返信用封筒（所属部局・氏名を記入）」とともに「総務部企画室（点検・評価担当）行」の封筒に密封し、7月末日までに学内便で総務部企画室へお送りください。
- 6) 授業のアンケート分析結果は、後日、各教官にお知らせいたします。
全体的分析結果は、平成13年度点検評価委員会年次報告書にとりまとめる予定です。

付 記

- 1) このアンケートは、各教官にフィードバックされますので、趣旨に沿う授業を選んで調査願います。
- 2) 授業によっては、各回の授業に複数の教官が参加するチーム担当授業、あるいは複数の教官で担当する統合講義、総合講義形式の授業となっている場合があります。このような場合には、その教官が責任をもって行っている授業、その教官が中心となっている授業について、授業全体及びその教官について学生の意見を求めます。この様な授業でアンケート調査をする場合には、学生にその旨説明してください。
- 3) 授業アンケートは、学生と教官の信頼関係で成り立ちますが、評価される教官が立ち会うことに問題があるとお考えの場合には、回収を学生に依頼することも結構です。

（裏面に続く）

「教官自己評価」アンケートの実施について

学生による「授業アンケート」の大きな目的は、授業改善にあります。「授業アンケート」の分析に際し、各設問に係る学生と教官の認識を比較することも大きな意味があります。

つきましては、「授業アンケート」を実施する際に、各教官に対しても学生のアンケートと同内容の「教官自己評価用アンケート」も実施いたします。

- 1) このアンケートは、各教官が担当授業に対してどのような認識をしているかを問うものです。各教官の担当授業に対する意識を調査するものではなく、教官が学生の立場に立って自分自身の授業について認識を問うものです。
- 2) 学生による「授業アンケート」結果と、「教官自己評価用アンケート」結果を比較・分析することにより、「授業アンケート」の実施によって得られるものがより充実したものとなります。
- 3) 本アンケートは、学生の「授業アンケート」提出時に一緒に提出願います。

その他

不明の点等は下記に照会願います。

アンケート内容等	医学研究科	阿部和厚教授（内線5033）
事務担当	総務部企画室	西田又は笹原（内線3600）

アンケート提出票（教官用）

北海道大学点検評価委員会

コード番号

所属部局 _____

--	--

（部局名を記載し，下表のコード表によりコード番号を記載してください。）

職 名 1教授，2助教授，3講師（該当する番号に 印を付けてください。）

氏 名 _____（ふりがな _____）

授業の形態 1講義，2演習（該当する番号に 印を付けてください。）

科目区分 1全学教育科目，2専門科目（該当する番号に 印を付けてください。）

必修・選択 1必修，2選択（該当する番号に 印を付けてください。）

科目名 _____

受講登録学生数 _____人（不明の場合は概数でも結構です。）

アンケート提出枚数 _____枚

部局コード番号

部 局 名	番号	部 局 名	番号
文学研究科・文学部	01	遺伝子病制御研究所	18
教育学研究科・教育学部	02	触媒化学研究センター	19
法学研究科・法学部	03	スラブ研究センター	20
経済学研究科・経済学部	04	大型計算機センター	21
理学研究科・理学部	05	アイソトープ総合センター	22
医学研究科・医学部	06	機器分析センター	23
歯学研究科・歯学部	07	留学生センター	26
薬学研究科・薬学部	08	量子集積エレクトロニクス研究センター	27
工学研究科・工学部	09	エネルギー先端工学研究センター	28
農学研究科・農学部	10	高等教育機能開発総合センター	29
獣医学研究科・獣医学部	11	先端科学技術共同研究センター	30
水産科学研究科・水産学部	12	情報メディア教育研究総合センター	31
言語文化部	13	総合博物館	32
地球環境科学研究科	14	北方生物圏フィールド科学センター	35
国際広報メディア研究科	15	保健管理センター	33
低温科学研究所	16	体育指導センター	34
電子科学研究所	17		

研究科，学部の附属施設に所属する教官は，研究科・学部のコード番号を記載してください。

裏面に当該授業科目の内容などについて記入欄を設けていますので，ご協力ください。

（裏面に続く）

【授業の実態について】

各教官の授業改善の参考、および各「授業アンケート」結果の解釈に資するために、当該科目の授業意図や実態に関する以下の事項にご回答くださいますようお願いいたします。

1. 当該科目の授業をすすめるうえでの抱負、意図、工夫など

2. 学生に発言を促す工夫など双方向性の推進

3. 宿題：1) ある 2) ない（該当する番号に を付けてください。）
ある場合、宿題とその種類（レポート、練習問題、読書指導、文献要約、調査など）、頻度など

4. 授業資料：1) ある 2) ない（該当する番号に を付けてください。）
ある場合、教科書・参考書の提示、プリント、問題集などの授業資料：種類と量、内容など

5. 視聴覚教材：1) ある 2) ない（該当する番号に を付けてください。）
ある場合、視聴覚教材の利用状況とその種類（ビデオ、テープ、CDなどの音声、コンピュータ、インターネット、その他）、頻度など

6. 試験の形式、時期と回数、成績に算入・非算入など

7. 成績評価の方法（最終成績判定の方法）

8. 授業での学生の態度・反応、授業の成果について

ご協力ありがとうございました。

「授業アンケート」

北海道大学点検評価委員会

このアンケートは、授業改善を目的として実施するものです。あなたの意見は今後の授業改善に生かされます。

アンケートの回答によりあなたが不利益を被ることはありませんので、率直な回答をお願いします。

設問は全てで17問あります。裏面には自由意見欄がありますので、この授業に対する自由な意見を述べてください。アンケート記入後は、授業担当教官に提出願います。

この授業（講義・演習）について、以下の各設問に対してどう考えますか。

それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号又は記号に を付けてください。

5 4 3 2 1の評点は、「強くそう思う・そう思う・どちらともいえない・そうは思わない・強くそう思わない」の順とします。ただし、設問の12と16については、各設問に（ ）書きで付記している評点基準とします。

- | | |
|---|-----------|
| 1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。 | 5 4 3 2 1 |
| 2 授業は体系的に行われていた。 | 5 4 3 2 1 |
| 3 教官の熱意が伝わってきた。 | 5 4 3 2 1 |
| 4 教官の話し方は聞き取りやすかった。 | 5 4 3 2 1 |
| 5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。 | 5 4 3 2 1 |
| 6 授業により知的に刺激された。 | 5 4 3 2 1 |
| 7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 8 教官は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。 | 5 4 3 2 1 |
| 9 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 5 4 3 2 1 |
| 10 授業の進行速度は適切であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 11 授業で要求される作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 12 授業内容の難易度は適切であった。 | A B C D E |
| (「極めて難しい、難しい、適切、やさしい、極めてやさしい」の順) | |
| 13 授業の履修目標を達成できた。 | 5 4 3 2 1 |
| 14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。 | 5 4 3 2 1 |
| 15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。 | 5 4 3 2 1 |
| 16 この授業の自分の出席率は()%程度であった。 | A B C D E |
| (ほぼ「100,80,60,40,20%」の順) | |
| 17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。 | 5 4 3 2 1 |

裏面に自由意見欄を設けていますので、この授業に対する意見がありましたら書いてください。

(裏面に続く)

ご協力ありがとうございました。

自由意見欄：この授業に対する意見がありましたら書いてください。

「授業アンケート」

【教官自己評価用】

北海道大学点検評価委員会

このアンケートは、学生に対して実施しているものと同じ内容のものです。

アンケートを実施した授業クラスの学生側の視点から、あなたの授業について客観的に自己評価願います。

なお、設問16及び設問17は学生の状況を問います。

設問は全てで17問あります。裏面には自由意見欄などがありますので、アンケートに対する自由な意見を述べてください。アンケート記入後は、実施されました「学生アンケート」と一緒に提出願います。

あなたの授業（講義・演習）について、以下の各設問に対してどう考えますか。

それぞれについて、該当するものを1つ選んで番号又は記号に を付けてください。

5 4 3 2 1の評点は、「強くそう思う・そう思う・どちらともいえない・そうは思わない・強くそう思わない」の順とします。ただし、設問の12と16については、各設問に（ ）書きで付記している評点基準とします。

- | | |
|--|-----------|
| 1 シラバスでは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示した。 | 5 4 3 2 1 |
| 2 体系的に授業を行った。 | 5 4 3 2 1 |
| 3 学生にああなたの熱意が伝わった。 | 5 4 3 2 1 |
| 4 学生にとってあなたの話し方は聞き取りやすかった。 | 5 4 3 2 1 |
| 5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすい授業を行った。 | 5 4 3 2 1 |
| 6 知的に刺激される授業だった。 | 5 4 3 2 1 |
| 7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等を理解の促進に効果的に使用した。 | 5 4 3 2 1 |
| 8 効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。 | 5 4 3 2 1 |
| 9 学生の質問・発言等に適切に対応した。 | 5 4 3 2 1 |
| 10 授業の進行速度は適切であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 11 授業で要求した作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。 | 5 4 3 2 1 |
| 12 授業内容の難易度は適切であった。 | A B C D E |
| (「極めて難しい、難しい、適切、やさしい、極めてやさしい」の順) | |
| 13 授業の目標を達成できた。 | 5 4 3 2 1 |
| 14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解させることができた。 | 5 4 3 2 1 |
| 15 授業により、学生は、新しい知識、考え方、技能を習得し、さらに深く勉強したくなった。 | 5 4 3 2 1 |
| 16 この授業の学生の出席率は()%程度であった。 | A B C D E |
| (ほぼ「100,80,60,40,20%」の順) | |
| 17 学生は、質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した。 | 5 4 3 2 1 |

裏面に自由意見欄などを設けていますので、アンケートに対する意見がありましたら書いてください。

(裏面に続く)

ご協力ありがとうございました。

自由意見欄：アンケートに対する意見がありましたら書いてください。

アンケート結果の公表について

アンケート結果の公表については、さまざまな危惧からくる慎重意見のあることを承知しています。一方、授業アンケートは学生と教員の信頼関係において成り立ちます。アンケートの結果が公開されず、学生の意見が授業改善に参考とされることがみえないならば、学生はまじめに応えなくなる可能性があります。他との比較および学生と教員との協調から授業を改善していくために、このアンケート結果を公表していく必要があると考えてます。

ここでの公表とは、科目区分、必修・選択の別、講義・演習の別、クラスサイズなどとともに、各設問への評価平均などの数値データの公表です。学生の自由意見は公表しません。

公表にあたっては、授業評価の数値は、学問の内容や授業方法、そのほか上記の多様な要素で変動するものであり、総点が単純にランキングを示すものでないことの説明を加えることとなります。

以上をふまえて以下にお答え願います。

1 公表について、以下のいずれかの番号に○を付けてください。

- 1) 担当教官名、科目名をいれて公表してよい。
- 2) 科目名のみをいれて公表してよい。
- 3) 公表に反対である。

2 公表に対して意見がありましたら書いてください。

調査対象の解析

アンケートに応じた授業は、全学で、平成12年後期・13年前期で合計984科目となり、講師以上の教員の70.4%（平成13年5月教授，助教授，講師数1,397名に対し）が対応した。前年1年間の合計1019科目，教員1,468名中69.4%と同様であった。

全学教育科目の比率

どの学部がどの程度の比率で全学教育を行っているかを、314科目からみると、つぎのようになった。

文29(9.2%) 教1(0.3%) 法3(1.0%) 経9(2.9%) 理86(27.4%) 医2(0.6%) 歯2(0.6%) , 薬1(0.3%) , 工20(6.4%) , 農3(1.0%) , 獣医1(0.3%) , 水産0(0%) , 言語80(25.5%)

全学教育科目担当の教員数を多くもつ責任部局は、文学部，理学部，法学部，言語文化部であり，とくに理学部と言語文化部で多い。また，責任部局でない学部では，工学部で増加した。

ただし，これはアンケートに応じた数であり，教員の担当するすべての科目が登録されたわけでないので，実際の授業担当率としては正確でない。しかし，大まかな傾向はうかがうことができる。

講義と演習の比率

講義と演習の比率は以下のものであった。

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
講義	69.5	94.1	67.3	77.8	90.4	92.3	95.5	96.8	90.5	97.1	61.1	98.3
演習	30.5	5.9	32.7	22.2	9.6	7.7	4.5	3.2	9.5	2.9	38.9	1.7

理学部，医学部，歯学部，薬学部，工学部，農学部，水産学部では，大多数が講義であった。一方，文系学部，獣医学部は演習が多かった。なお，理系学部では演習は少ないが，そのかわり実習が多いはずである。

以上は，アンケートの評価に密接に関係すると考えられる。

必修と選択の比率

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
必修	8.6	17.6	1.8	25.0	37.3	96.2	90.9	38.7	59.2	32.9	94.4	44.1
選択	91.4	82.4	98.2	75.0	62.1	3.8	9.1	61.3	40.8	67.1	5.6	55.9

必修と選択の比率は以下のものであった。

文系学部は選択が多い。とくに文学部は選択が多かった。一方，医学部，歯学部，獣医学部など専門職業性の強い教育を行っている学部はほとんどが必修であった。

以上は，アンケートの評価に密接に関係すると考えられる。

授業の実態について

授業アンケートを実施するにあたって、平成13年度前期には、授業の実態を調査した。これには403科目が対応した。ここに、1) 教員が担当の授業について、説明、アピールすること、2) どのような授業を行っているかを知ること、の二つの目的があった。

授業の説明は、とくに授業の工夫に注目し、今後のポートフォリオにおける自己アピールを意識した。

以下、データを概観する。

1) 授業の工夫

授業の工夫で一番多いのは、学生へ質問すること(23%)であった。その他、小テスト、電子メールの使用、実験・実習、意見や感想文を書かせること、討論、現場での体験学習、クイズ、アンケート、最近の話題をいれること、宿題をだすこと、グループ学習、事例紹介、他との関連づけ、ゲストスピーカーの起用などがあった。

また、学生参加型授業は7.5%で実施していた。クラスサイズが小さいほど学生参加が多く、一方、100人以上では学生参加型はなかった。

2) 宿題

約半数の授業(53%)が宿題を出していた。宿題の内容は、レポート(42%)、練習問題(29%)、調査(7%)、文献要約(5%)、文書指導(4%)、その他に感想文、試験問題作成、レジメや教材作成があり、さらに発表準備、グラフ作成、製図、作文などがあった。

宿題の回数は、1から4回が多く、6回以上もみられた。文書指導はほとんどが6回以上であった。

3) 授業資料

授業資料は大部分の授業(94%)で用意され、その内容は、プリント(51%)、教科書・参考書の提示(37%)、問題集(4%)、その他に自作資料・テキスト、新聞記事、ビデオ(29%)、コンピュータ(15%)、音声テープ(9%)、OHP利用(9%)、インターネット(7%)、スライド利用(5%)などであった。その他に、資料提示装置、映画も用いられた。

4) 試験

試験形式では、期末試験・定期試験が最も多い(36%)。続いて毎回あるいは頻回の小試験(26%)、中間試験(大多数は、1, 2回)(10%)、成績評価用レポート(多くは1, 2回)(8%)、頻回のレポート(4%)であり、これらの40%は、結果を成績評価に参入していた。

5) 成績評価

成績評価は、期末試験・定期試験が最も多い(31%)。続いて出席(出欠の程度)(22%)、成績評価用レポート(15%)、頻回の小試験(7%)、頻回のミニレポート(6%)であった。さらに、授業態度、発表、平常点、宿題、発言、課題なども評価に組み入れられていた。

6) 学生の授業態度・反応、成果

プラス意見が60%、マイナス意見が25%であり、学生を好意的にみている教員が多かった。

プラス意見では、反応態度良好、熱心、真面目、出席率がよい、静かで私語が少ない、興味を示した、質問がある、積極的であるなどであった。その他に、6割の学生はやる気がある、遅刻が少ない、前向き、積極的意欲的でアットホーム、授業しやすい、授業へ参加して

くる、面白い発表がある、予習をするなどがあつた。

マイナス意見では、反応が無い・弱い、好奇心・意欲の欠如、質問がない、欠席や中途退席、受け身、無関心などであつた。

また、真面目と不真面目の両極化がみられるという意見もあつた。

現代の学生に対するマイナス意見が聞こえるなかで、むしろプラス意見が多いことは、注目に値する。

アンケート結果と解析

ここでは各設問の内容、解析結果、解釈について述べる。評点は、よい方から順に5,4,3,2,1となり、3は普通である。解析結果では、評点4と5を合計した比率を中心に解釈を進める。また、4と5の合計がほぼ半数、1と2の合計が約10%以下を高い評価、あるいは良好な評価とみなす。

集計は、平成11年前期、平成12年前期、平成12年後期と13年前期とを比較した。矢印はこの3年間での変動を示す。

円グラフは全授業での各評点がえた比率を示す。

棒グラフは評点平均を示す。この際、3.00が中央値であり、それよりよいものがプラスの評価、それよりよくないものはマイナスの評価である。これがわかるようにグラフの基線を3.00とした。

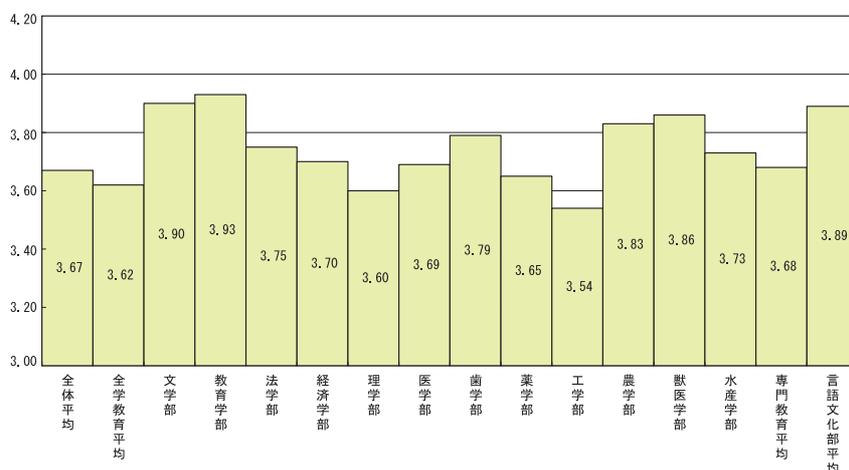
授業評価の総合評価

最初に設問1から15までの総合評価をみることにする。設問1から15までの評価指数の平均値であらわした。

総合評価に関して、難易度については、極めて難しい・極めてやさしいを1、難しい・やさしいを3、適切を5として計算した。

その結果、総合点は、以下ようになった。

	平成11前	12前	12後・13前
全体	3.41	3.53	3.67
全学教育	3.41	3.48	3.62
専門	3.41	3.56	3.68
言語	3.66	3.67	3.89



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.60	3.49	3.62	3.67	3.40	3.47	3.31	3.45	3.27	3.35	3.45	3.35
平成12年前期	3.83	3.78	3.64	3.67	3.45	3.51	3.67	3.49	3.50	3.71	3.76	3.50
平成12年後期・13年前期	3.90	3.93	3.75	3.70	3.60	3.69	3.79	3.65	3.54	3.83	3.86	3.73

総合点は、いずれも明らかに改善している。

以上の数値で明らかなように、すべての項目、学部で改善している。各学部の差は大きくはない。授業評価では各評価項目の評点で授業の内容を表し、設問1から15までの総合評価を評価指数であらわすことは、あまり意味がないという意見があったが、全体を総合的に表現できる指数は有用である。今回でも総体的改善はこの数値の増加として端的に表現できた。

以下、各設問群の評価について解析する。ここでも多くの設問で数値が改善していることは注目に値する。

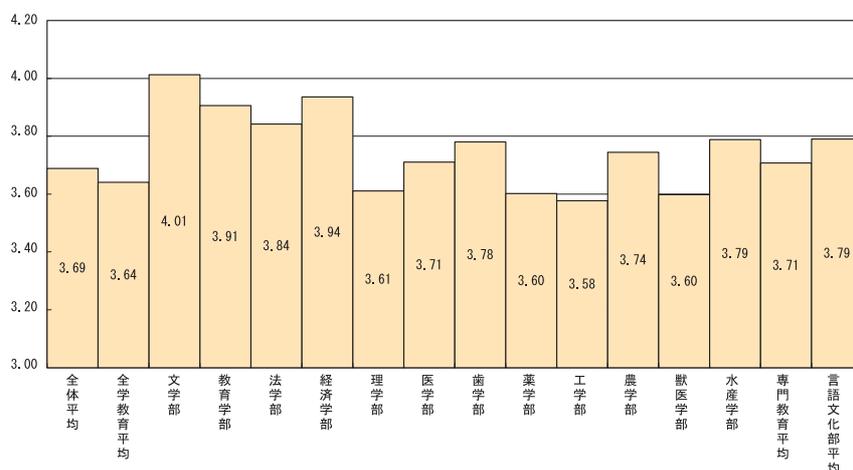
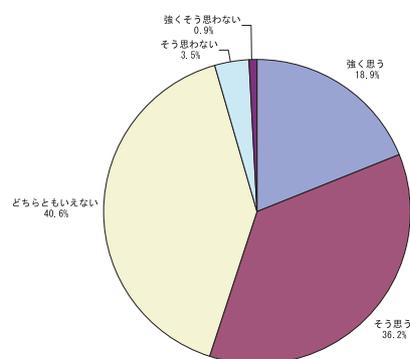
A 「シラバスとその内容」

シラバスと授業

- ・シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。

シラバスは授業の総体を表現する。各科目は各部局での必要性により存在し、必要理由は、目標として表現され、その目標到達のための授業内容、評価方法ははじめから設計されていなければならない。そしてこのことが学生につたわり、学生はこれを活用して学習できなければならない。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	46.0%	49.9%	55.1%	7.8%	6.0%	4.3%
全学教育	48.2%	48.9%	53.7%	3.0%	8.2%	6.7%
専 門	43.9%	49.5%	55.7%	4.2%	4.7%	3.3%
言 語	57.2%	57.6%	61.2%	6.6%	4.9%	3.9%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.69	3.46	3.82	3.78	3.34	3.50	3.50	3.48	3.37	3.31	3.25	3.27
平成12年前期	3.86	3.62	3.76	3.80	3.49	3.61	3.68	3.58	3.53	3.66	3.50	3.65
平成12年後期・13年前期	4.01	3.91	3.84	3.94	3.61	3.71	3.78	3.60	3.58	3.74	3.60	3.79

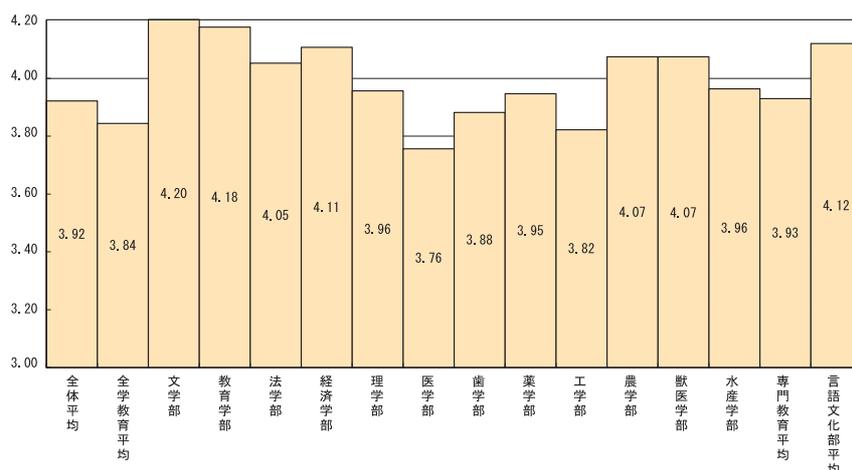
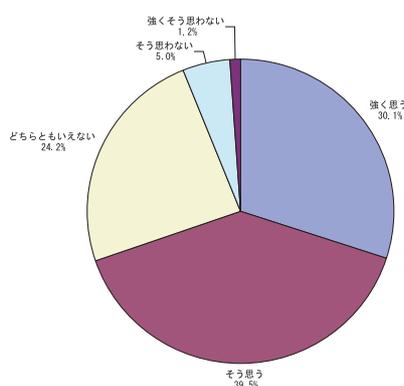
全体的に評価は改善している。

授業では、はじめにシラバスによって授業計画を立てる必要がある。シラバスは授業の内容、進行等を明確に示すもので、授業で有効に活用すること、シラバスを片手に授業進行することで、シラバスが授業に有効に生き、授業改善があるとみなされる。

北海道大学のシラバスは、平成13年度に、全学ですべての科目が同じ形式で表現され、電子化され、ホームページ上に公開されるようになった。評価の改善は、シラバスに対する認識の改善、利用度の増加によるとみなされる。

- ・ 授業は体系的に行われていた。
- ・ 授業は整理された内容が必要である。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
	63.0%	65.4%	69.6%	9.3%	8.1%	6.2%
全 体	63.0%	65.4%	69.6%	9.3%	8.1%	6.2%
全学教育	61.6%	62.3%	66.3%	3.0%	9.8%	7.6%
専 門	62.2%	67.2%	70.6%	2.2%	7.2%	5.7%
言 語	70.1%	72.6%	77.3%	1.8%	6.6%	3.6%



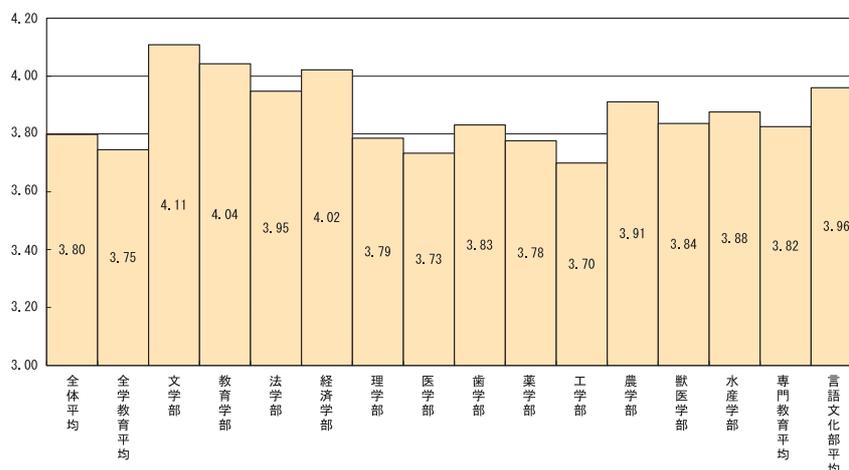
学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.94	3.73	4.05	3.97	3.79	3.59	3.54	3.81	3.63	3.61	3.88	3.59
平成12年前期	4.12	4.07	4.08	4.06	3.81	3.69	3.87	3.78	3.78	4.04	3.96	3.78
平成12年後期・13年前期	4.20	4.18	4.05	4.11	3.96	3.76	3.88	3.95	3.82	4.07	4.07	3.96

全学的により評価である。本学の学生は、教員に対して好意的評価をしている。

また、全体的に改善がみられる。

これらの総評でも、全体的に、評価は文系でやや高く、理系で低い傾向があるが、全体的に平均化されている。



学部別評点平均

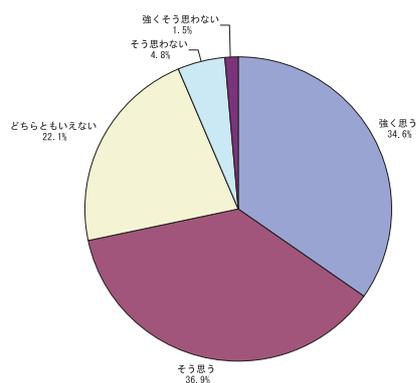
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.81	3.59	3.93	3.88	3.57	3.55	3.52	3.65	3.50	3.46	3.57	3.43
平成12年前期	3.99	3.85	3.92	3.93	3.65	3.65	3.78	3.68	3.65	3.85	3.73	3.72
平成12年後期・13年前期	4.11	4.04	3.95	4.02	3.79	3.73	3.83	3.78	3.70	3.91	3.84	3.88

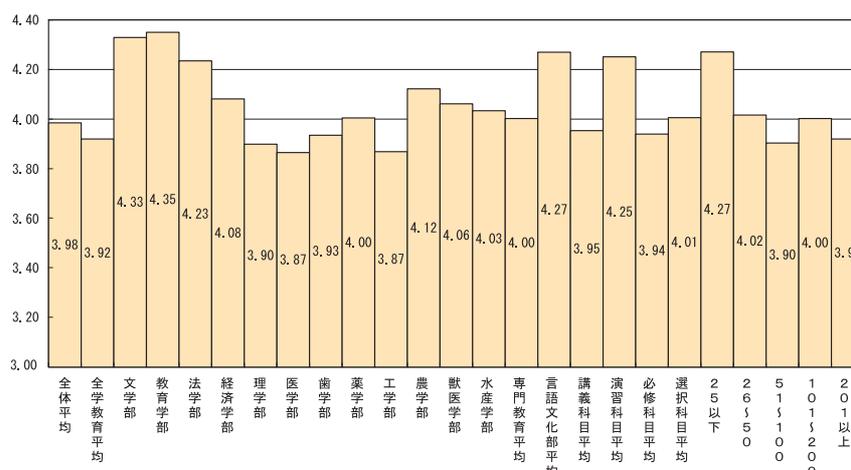
B 「教員の授業法」

B 1 教員と授業

・教官の熱意が伝わってきた。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全体	64.2%	67.3%	71.6%	10.0%	8.8%	6.3%
全学教育	63.0%	65.2%	68.7%	10.9%	10.8%	8.4%
専門	64.8%	68.5%	72.4%	2.6%	7.6%	5.5%
言語	76.2%	73.4%	82.4%	1.4%	7.0%	3.5%
講義	63.3%	66.4%	70.4%	2.9%	9.1%	6.6%
演習	75.9%	77.8%	81.7%	1.7%	5.6%	4.4%
必修		65.0%	69.4%		9.7%	7.4%
選択		70.5%	72.8%		7.6%	5.6%





学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	4.00	3.99	4.22	4.11	3.81	3.73	3.53	3.89	3.63	3.70	3.84	3.66
平成12年前期	4.33	4.34	4.11	3.99	3.87	3.69	3.91	3.88	3.83	4.08	3.96	3.80
平成12年後期・13年前期	4.33	4.35	4.23	4.08	3.90	3.87	3.93	4.00	3.87	4.12	4.06	4.03

評価はいずれも改善している。

一般には熱意の伝わる授業が多い。全体的に大きな差はないが、文系の授業で熱意が伝わっている。

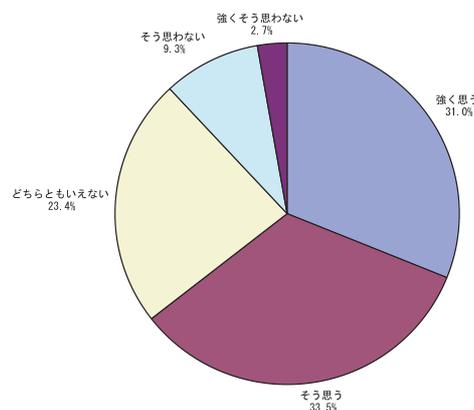
講義と演習では、予想されるように演習で熱意が伝わりやすい。

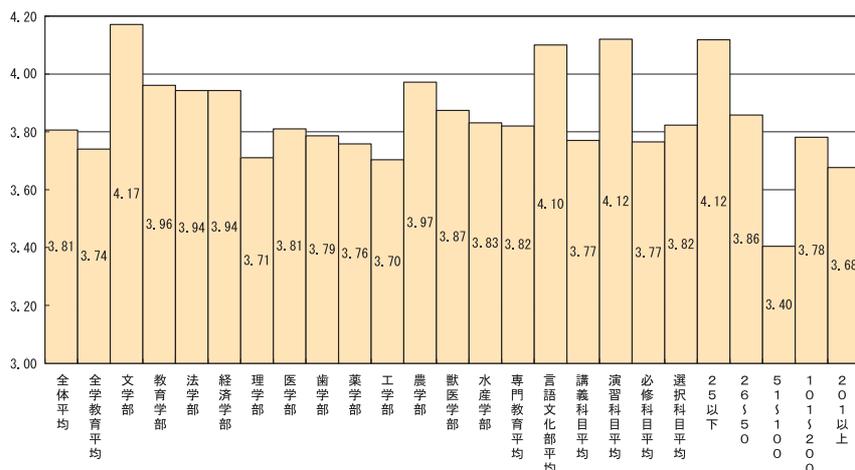
クラスサイズで見ると、100人以下ではクラスサイズの小さい方が熱意が伝わっている。一方、200人以上の授業では熱意の伝わる授業があるとなっている。

・教官の話し方は聞き取りやすかった。

授業法の中では、教員のパフォーマンスとして最も基本的要素である。授業媒体の主体は、言語であり、言語を通じて教員から学生へのコミュニケーションが可能である。学生の意見でも教員の話し方、聞き取りやすさは授業、とくに講義形式の授業の基本的な事項であることがわかる。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	56.9%	60.2%	64.5%	17.8%	14.9%	12.1%
全学教育	56.9%	59.1%	62.4%	18.0%	17.3%	14.6%
専 門	57.6%	60.9%	70.5%	2.6%	13.4%	5.7%
言 語	72.4%	67.1%	76.2%	1.4%	13.6%	8.1%
講 義	55.6%	65.9%	63.1%	2.9%	15.5%	12.8%
演 習	72.3%	70.5%	77.2%	1.7%	9.4%	6.5%
必 修		64.9%	62.8%		16.9%	12.8%
選 択		70.4%	65.3%		12.5%	11.9%





学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.87	3.63	3.97	3.96	3.54	3.60	3.30	3.59	3.49	3.46	3.30	3.49
平成12年前期	4.19	3.83	3.74	3.89	3.51	3.61	3.78	3.69	3.69	3.88	3.69	3.66
平成12年後期・13年前期	4.17	3.96	3.94	3.94	3.71	3.81	3.79	3.76	3.70	3.97	3.87	3.83

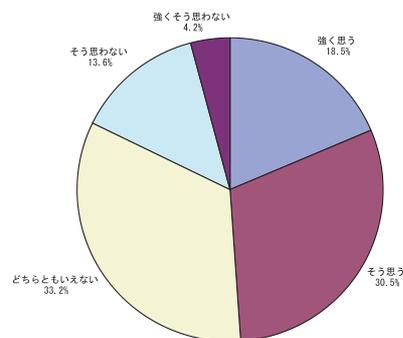
全体的に評価はよく、やや改善している。とくに演習は聞き取りやすいという評価が高い。授業が受け手の反応を見て展開しなければならないことによる。また、言語関連の授業でも肯定的評価の比率が高い。これも話し方、聞き取りやすさ自体が授業の本体であることによるのであろう。

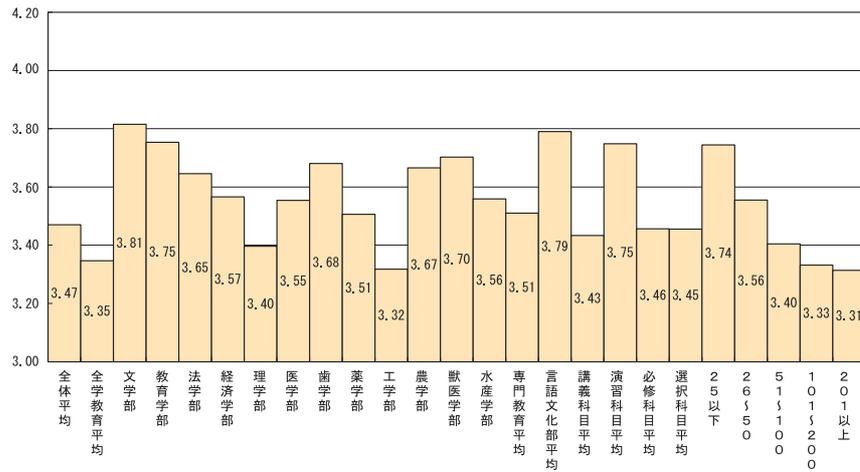
また、100人以下ではクラスサイズは小さいほどよい。しかし、100人、200人以上でも前年度と同様に比較的よい。

ここでも一般に文系が理系よりもよい。学術文化や教育観の違いがありそうである。理系では、論理的に理解することを要求され、そこに聞き取りにくいという心理がはたらいているのかもしれない。

- ・ 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。
わかりやすく伝えることは授業で最も重要なことである。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
	4	5	合計	1	2	合計
全 体	41.4%	46.2%	49.0%	24.1%	20.0%	17.8%
全学教育	41.1%	43.2%	45.3%	26.6%	23.7%	22.3%
専 門	41.7%	37.9%	50.9%	22.5%	13.7%	15.6%
言 語	58.0%	57.2%	62.2%	12.7%	12.1%	9.0%
講 義	40.2%	35.1%	48.1%	24.8%	20.7%	18.3%
演 習	55.4%	45.1%	60.3%	16.5%	13.1%	11.8%
必 修		44.0%	49.0%		21.3%	17.4%
選 択		49.1%	49.1%		18.2%	18.2%





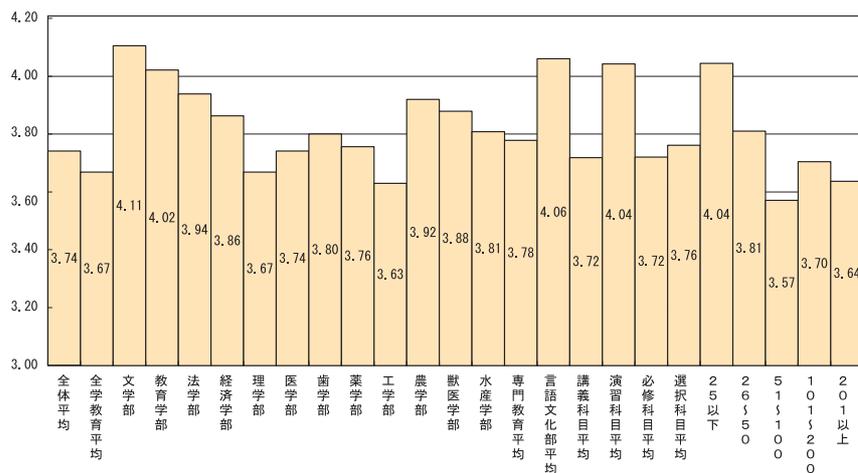
学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.56	3.35	3.67	3.65	3.23	3.36	3.10	3.21	3.03	3.25	3.25	3.20
平成12年前期	3.81	3.38	3.63	3.61	3.16	3.42	3.62	3.26	3.34	3.64	3.65	3.41
平成12年後期・13年前期	3.81	3.75	3.65	3.57	3.40	3.55	3.68	3.51	3.32	3.67	3.70	3.56

全体的に改善している。

一般に文系で高い。言語文化部ではとくに高い。一方、理系で低い。とくに、理学部、工学部では評価が低い。理系では論理を展開する授業が多いことによると考えられる。

講義と演習では演習が高い。選択、必修では差がない。また、少人数であるほどよい値となっている。論理的内容の授業には大人数授業はふさわしくないことを示す。



学部別評点平均

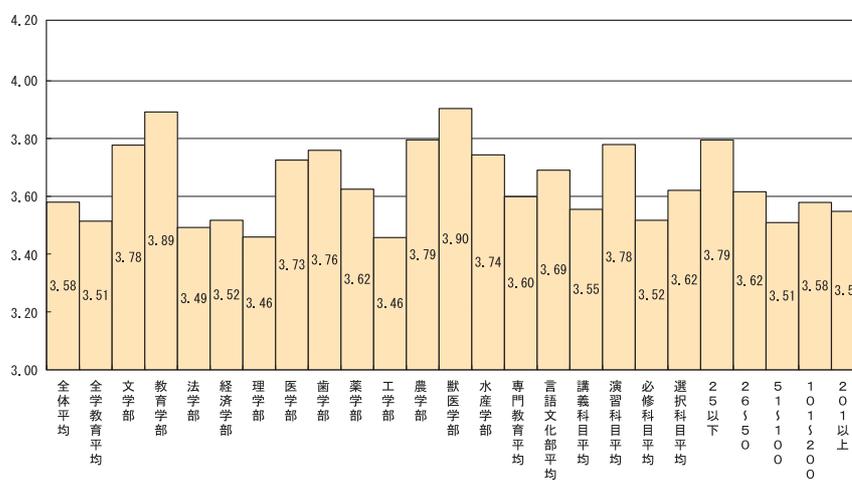
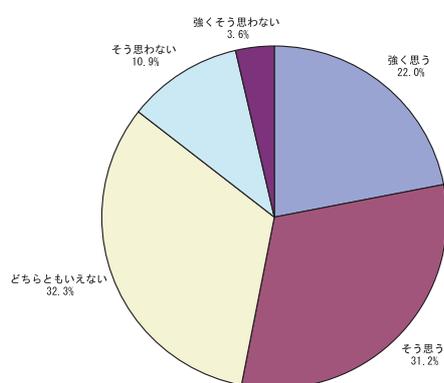
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.81	3.66	3.95	3.91	3.52	3.56	3.31	3.56	3.38	3.47	3.46	3.45
平成12年前期	4.11	3.85	3.83	3.83	3.51	3.57	3.77	3.61	3.62	3.87	3.77	3.62
平成12年後期・13年前期	4.11	4.02	3.94	3.86	3.67	3.74	3.80	3.76	3.63	3.92	3.88	3.81

B 2 メディア（教育媒体）

・黒板，スライド，OHP，ビデオ，教科書，プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。

授業は，教授者から学習者への情報伝達により成り立つ。広い意味では，話しことばも授業の媒体（メディア）である。ここでは，授業に用いられる話しことば以外のメディアについて質問した。一般に，メディアについては，とくに近代の情報テクノロジーによる機器，視聴覚機器について尋ねている。しかし，とすればこれらを駆使することがよい授業であるような錯覚に陥っている傾向がある。ここでは，重要なことは効果であるという視点でとらえることにした。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	44.2%	48.5%	53.2%	21.4%	17.9%	14.5%
全学教育	42.7%	44.7%	50.9%	22.7%	22.1%	17.6%
専 門	45.1%	50.7%	54.3%	20.6%	15.5%	13.0%
言 語	49.0%	49.9%	56.9%	16.1%	17.7%	12.4%
講 義	43.8%	47.9%	52.5%	21.9%	18.4%	14.8%
演 習	49.8%	53.9%	62.0%	15.6%	13.5%	11.1%
必 修	44.5%	50.4%		19.5%	15.0%	
選 択	53.4%	55.8%		16.1%	14.1%	



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.45	3.39	3.36	3.62	3.42	3.57	3.11	3.40	3.13	3.31	3.61	3.42
平成12年前期	3.66	3.69	3.46	3.63	3.36	3.58	3.61	3.44	3.41	3.79	3.90	3.50
平成12年後期・13年前期	3.78	3.89	3.49	3.52	3.46	3.73	3.76	3.62	3.46	3.79	3.90	3.74

全体的にかなり改善されている。

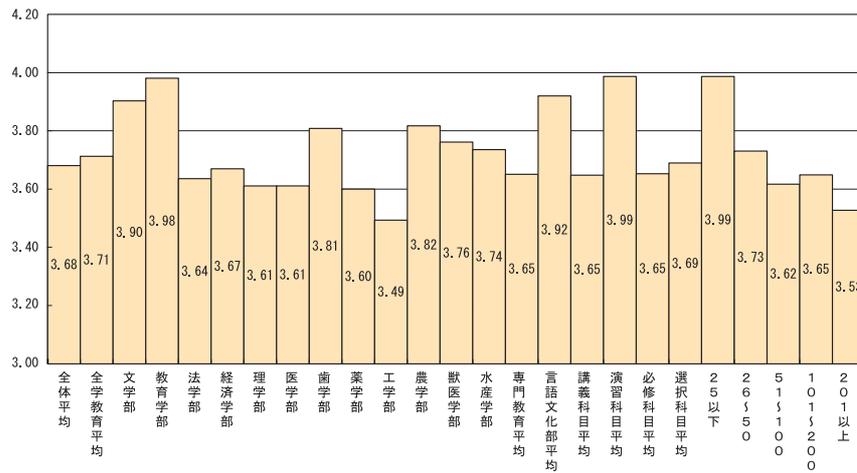
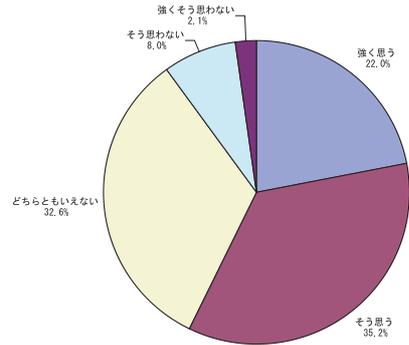
評価は，学部によっておおきな差があり，文系，理系の差は明瞭でない。講義演習では，演習がよい。必修，選択では，選択がよい。

B3「負担」

作業量・負担

- ・授業の進行速度は適切であった。
 一方的知識伝授，教員中心授業は授業の進行が早くなる傾向がある。
 意見欄でも，これに関して学生による多くの指摘があった。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
	2011	2012	2013	2011	2012	2013
全体	52.8%	44.2%	57.3%	14.4%	12.8%	10.1%
全学教育	54.1%	55.3%	59.8%	14.0%	13.7%	10.3%
専門	51.9%	53.7%	56.0%	14.7%	12.2%	10.0%
言語	67.0%	62.1%	68.9%	10.4%	13.8%	8.8%
講義	51.8%	53.3%	56.4%	14.7%	13.0%	10.4%
演習	65.6%	63.5%	69.5%	10.1%	10.5%	6.5%
必修		51.5%	56.4%		14.0%	10.7%
選択		57.4%	58.2%		11.3%	9.6%



学部別評点平均

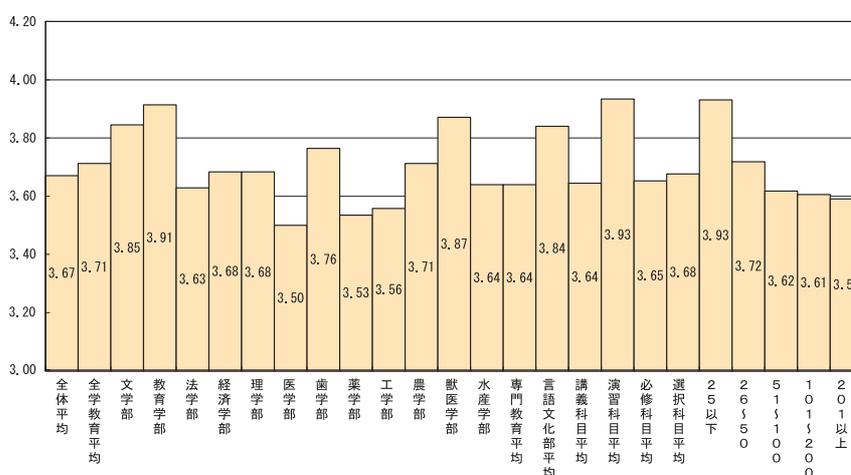
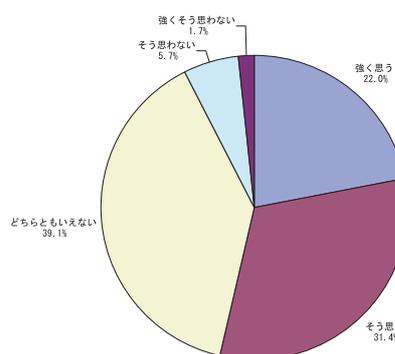
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.79	3.73	3.60	3.70	3.42	3.50	3.51	3.54	3.33	3.46	3.41	3.47
平成12年前期	3.83	3.84	3.69	3.76	3.46	3.61	3.78	3.23	3.49	3.75	3.81	3.54
平成12年後期・13年前期	3.90	3.98	3.64	3.67	3.61	3.61	3.81	3.60	3.49	3.82	3.76	3.74

全体的には評価は改善した。講義と演習では演習がよい。また，少人数であるほどよい。

- ・授業で要求される作業量（レポート，宿題，自習など）は適切であった。

科目における単位があらわす学習時間では，授業時間以外に相当量の予習，復習が要求されている。単位の上限の設定は，授業時間外での学習時間を確保するためのもので，授業は宿題を出すことが前提となる。しかし，日本の学生の自習時間は一般に極端に少ない。ここでは，自習量の適切さよりは，自習を課せられることに対する学生の満足度と関連しているのかもしれない。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	47.6%	50.8%	53.5%	9.8%	8.9%	7.4%
全学教育	51.2%	53.4%	57.0%	8.9%	9.4%	8.7%
専 門	45.5%	49.5%	51.7%	10.3%	8.5%	6.8%
言 語	63.3%	62.6%	64.4%	7.9%	8.6%	9.0%
講 義	46.7%	49.8%	52.5%	9.6%	8.6%	7.5%
演 習	59.5%	60.6%	67.1%	11.5%	8.7%	6.7%
必 修		49.5%	53.1%		9.2%	8.0%
選 択		52.3%	53.9%		8.5%	6.9%

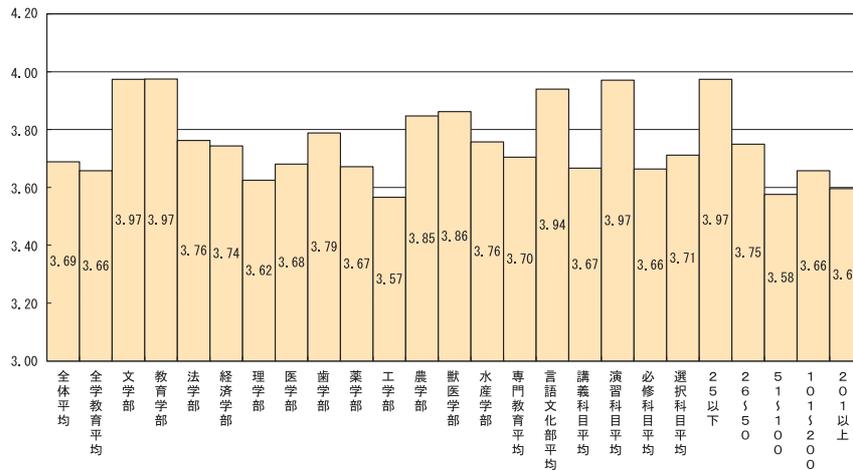


学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.73	3.62	3.53	3.59	3.51	3.36	3.54	3.44	3.36	3.39	3.63	3.47
平成12年前期	3.88	3.96	3.59	3.71	3.55	3.43	3.68	3.40	3.55	3.68	3.77	3.48
平成12年後期・13年前期	3.85	3.91	3.63	3.68	3.68	3.50	3.76	3.53	3.56	3.71	3.87	3.64

全体的に改善がみられた。学部によって差が大きい。講義と演習では演習がよい。また、少人数であるほどよい。

以上の授業総合視点でも、改善は明瞭である。学部間の差は全体的には大きくはない。一方、演習で少人数であるほどよい。



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.73	3.62	3.72	3.77	3.49	3.52	3.35	3.51	3.33	3.43	3.50	3.45
平成12年前期	3.86	3.90	3.64	3.73	3.51	3.52	3.73	3.31	3.52	3.71	3.79	3.51
平成12年後期・13年前期	3.97	3.97	3.76	3.74	3.62	3.68	3.79	3.67	3.57	3.85	3.86	3.76

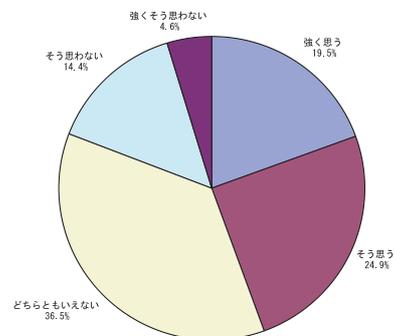
C 「学生参加」

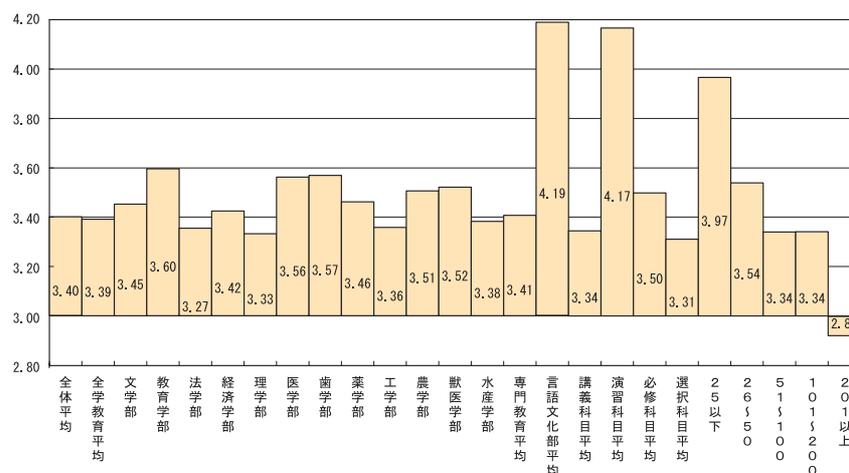
学生との相互反応

課題探求能力の育成など、教員と学生との相互反応、学生同志の相互反応を重視し、学生を効果的に参加させる学生中心授業が奨励されている。ここでは授業が学生参加型になっているかを問う。

- ・教官は効果的に学生の参加（発言，自主的学習，作業など）を促した。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	32.8%	39.2%	44.4%	30.7%	23.0%	19.1%
全学教育	34.5%	38.4%	46.4%	33.7%	28.4%	23.3%
専 門	31.8%	39.6%	43.3%	29.1%	20.2%	16.9%
言 語	67.5%	67.1%	77.4%	10.3%	10.2%	4.1%
講 義	29.9%	36.3%	42.1%	32.5%	24.5%	20.1%
演 習	68.5%	70.2%	75.3%	10.1%	7.3%	5.3%
必 修	40.8%	48.1%		21.5%	15.8%	
選 択	37.2%	40.9%		24.8%	22.1%	





学部別評点平均

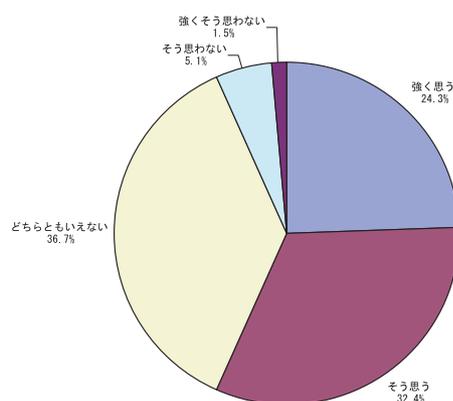
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.08	3.21	3.02	3.42	2.94	2.94	3.01	3.19	2.97	2.97	2.89	2.89
平成12年前期	3.47	3.43	3.19	3.39	3.19	3.39	3.43	3.32	3.29	3.40	3.57	3.14
平成12年後期・13年前期	3.45	3.60	3.27	3.42	3.33	3.56	3.57	3.46	3.36	3.51	3.52	3.38

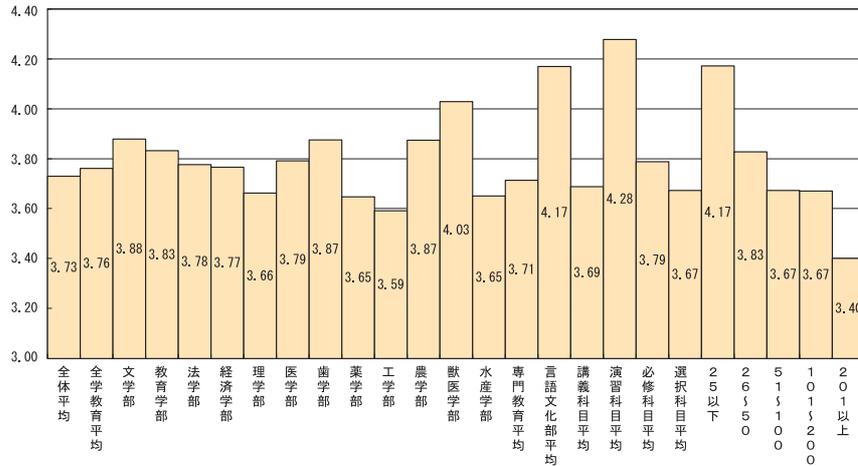
明瞭な評価の改善がある。

演習，言語文化学部授業がとくに高く，参加型となっている。クラスサイズでは，サイズの小さいほど学生参加型となっていて，大人数クラスは参加型となっていない。

・教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全体	47.3%	51.9%	56.7%	10.4%	8.2%	6.6%
全学教育	46.0%	52.3%	59.2%	12.5	10.2%	8.1%
専門	47.7%	51.8%	55.4%	9.2%	7.2%	5.8%
言語	73.3%	69.3%	77.3%	3.6%	5.2%	3.0%
講義	44.5%	49.6%	54.8%	11.0%	8.6%	6.9%
演習	80.5%	76.2%	81.2%	3.0%	3.7%	2.4%
必修		52.5%	59.9%		8.1%	6.0%
選択		50.9%	53.7%		8.5%	7.2%





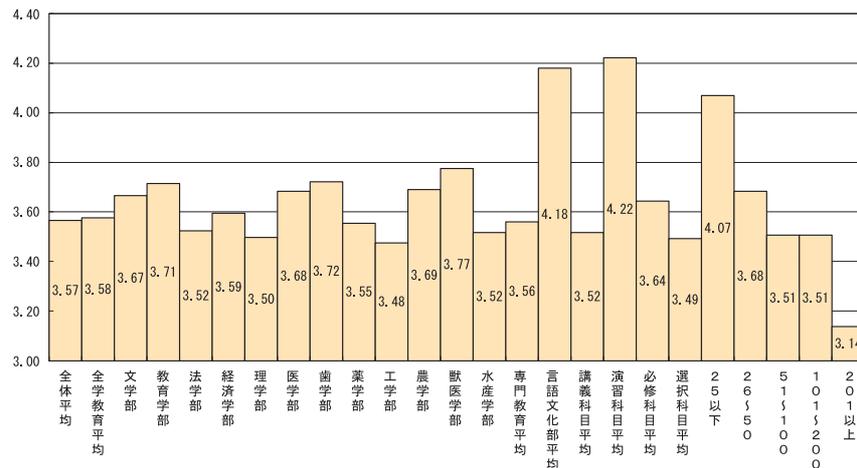
学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.61	3.48	3.71	3.76	3.53	3.74	3.51	3.64	3.40	3.41	3.46	3.43
平成12年前期	3.89	3.84	3.76	3.71	3.59	3.75	3.82	3.45	3.54	3.77	3.90	3.46
平成12年後期・13年前期	3.88	3.83	3.78	3.77	3.66	3.79	3.87	3.65	3.59	3.87	4.03	3.65

全体として大きく改善している。教員は適切な対応をしているといえる。さらに前年より改善している。

演習と言語文化部授業で高い。クラスサイズでは、小さいほどよく、大きいほどよくない。大人数講義は一方通行であることが明らかである。

学生参加の総合評価も、同様であった。



学部別評点平均

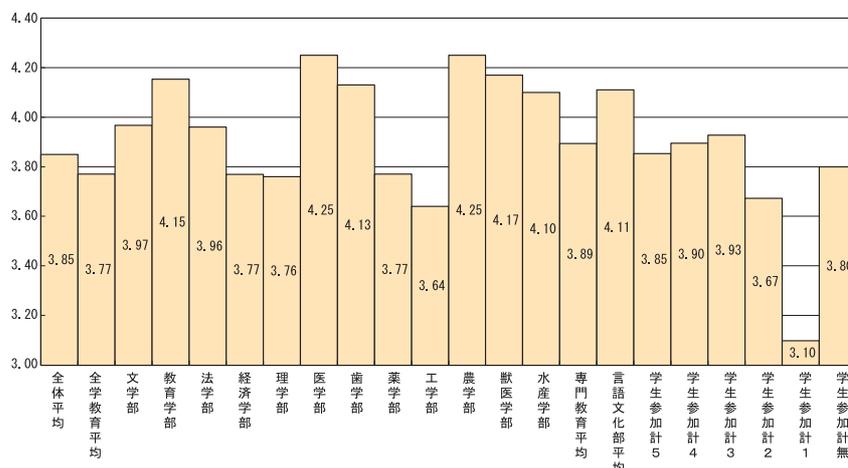
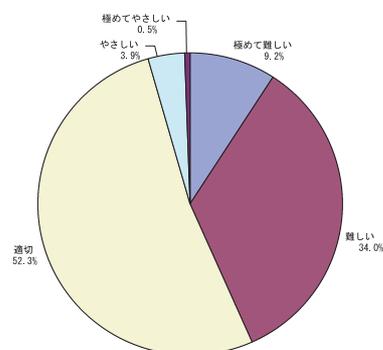
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.34	3.35	3.36	3.59	3.23	3.56	3.26	3.41	3.19	3.19	3.18	3.16
平成12年前期	3.68	3.63	3.47	3.55	3.39	3.57	3.62	3.39	3.41	3.58	3.74	3.30
平成12年後期・13年前期	3.67	3.71	3.52	3.59	3.50	3.68	3.72	3.55	3.48	3.69	3.77	3.52

D 難易度

- ・授業内容の難易度は適切であった。

授業の難易度は、学生が理解できない、ついていけないほど難しいのは問題がある。極めて難しいには、一方通行、教員中心で教授錯覚に陥っていることが多い。しかし、適度に難しいのもよいとされている。

全 体				
極めて難しい	6.6%	9.4%	9.2%	
難しい	26.6%	32.6%	34.0%	
適切	63.8%	53.5%	52.3%	



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	4.24	4.32	4.42	4.24	4.19	4.34	4.22	4.19	3.95	4.37	4.24	4.24
平成12年前期	4.00	3.81	3.96	4.04	3.62	4.33	4.14	3.67	3.74	4.24	4.29	4.00
平成12年後期・13年前期	3.97	4.15	3.96	3.77	3.76	4.25	4.13	3.77	3.64	4.25	4.17	4.10

全体的には難易度は、適切といえる。一般に、文系、理系の差はないが、理学部、工学部では難しいとしている学生が多い。

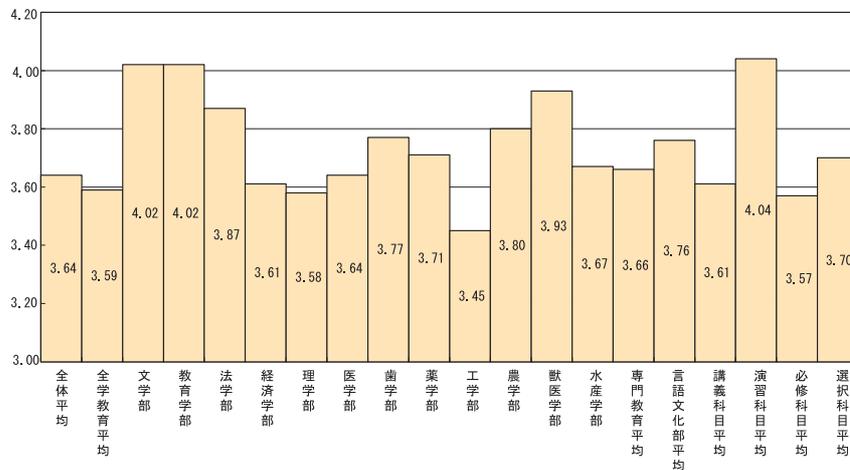
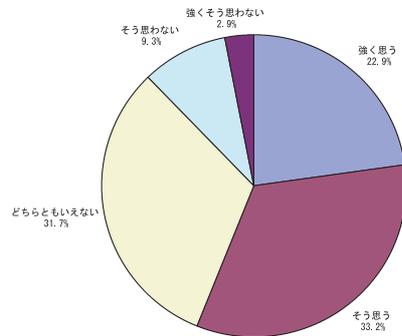
難易度と学生参加、教員との相互作用をみると、学生の参加・教員との相互作用がよいほど適切であると応える学生が多い。相互作用により授業内容の理解が得られることがわかる。

E 学生の満足度・達成度

学生の満足度は、それ自体が総体的授業評価をあらわす。ここでは、第三者が観察でき、客観的に評価が可能であるという原則にはあてはまらないが、学生の主観を質問している。

・授業により知的に刺激された。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	47.3%	51.5%	56.1%	19.0%	15.9%	12.2%
全学教育	48.1%	49.8%	54.6%	19.3%	19.1%	14.8%
専 門	46.8%	52.5%	56.9%	18.8%	13.9%	10.9%
言 語	56.2%	55.5%	61.5%	13.6%	15.7%	9.2%
講 義	45.8%	50.2%	54.9%	19.8%	16.4%	12.7%
演 習	66.9%	64.7%	72.2%	9.4%	9.8%	5.8%
必 修	48.6%	53.1%		17.2%	13.2%	
選 択	55.0%	58.9%		14.1%	11.3%	



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.75	3.58	3.79	3.71	3.37	3.45	3.23	3.52	3.12	3.40	3.45	3.29
平成12年前期	4.09	3.90	3.70	3.66	3.43	3.49	3.71	3.58	3.42	3.75	3.89	3.47
平成12年後期・13年前期	4.02	4.02	3.87	3.61	3.58	3.64	3.77	3.71	3.45	3.80	3.93	3.67

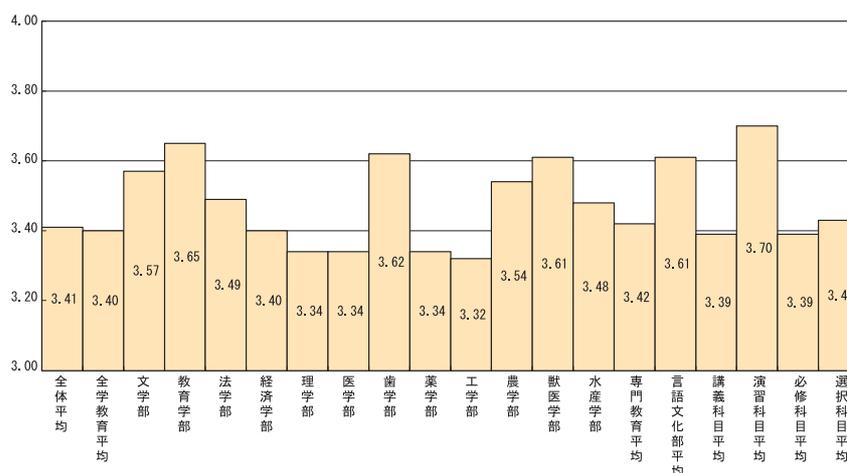
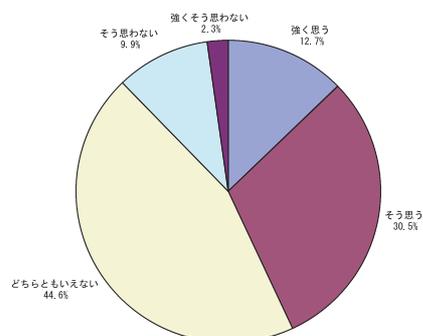
一般的に、知的に刺激されたと評価していて、全体的に改善がみられるが、理学部、工学部で低い。講義より演習がきわだって高い評価となっている。必修選択では、選択が高い。一方、言語は授業法では高い評価であったが、知的刺激という満足度は平均よりは高いが、演習よりは低い。言語教育はリテラシー科目であることが反映されているとみなされる。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが25人以下でよい。

- ・授業の履修目標を達成できた。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	34.9%	39.9%	43.2%	17.5%	14.3%	12.2%
全学教育	37.5%	40.1%	43.5%	17.1%	15.6%	13.5%
専 門	33.3%	39.7%	43.0%	17.7%	13.5%	11.6%
言 語	44.9%	49.9%	52.5%	13.7%	11.7%	8.4%
講 義	33.5%	38.4%	42.1%	18.0%	14.7%	12.6%
演 習	52.5%	53.4%	57.5%	11.4%	10.5%	8.0%
必 修		37.9%	41.9%		15.3%	12.6%
選 択		42.1%	44.4%		13.1%	11.9%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.39	3.17	3.43	3.45	3.16	3.16	3.27	3.02	3.10	3.18	3.23	3.18
平成12年前期	3.52	3.66	3.39	3.39	3.12	3.25	3.57	3.14	3.33	3.46	3.60	3.33
平成12年後期・13年前期	3.57	3.65	3.49	3.40	3.34	3.34	3.62	3.34	3.32	3.54	3.61	3.48

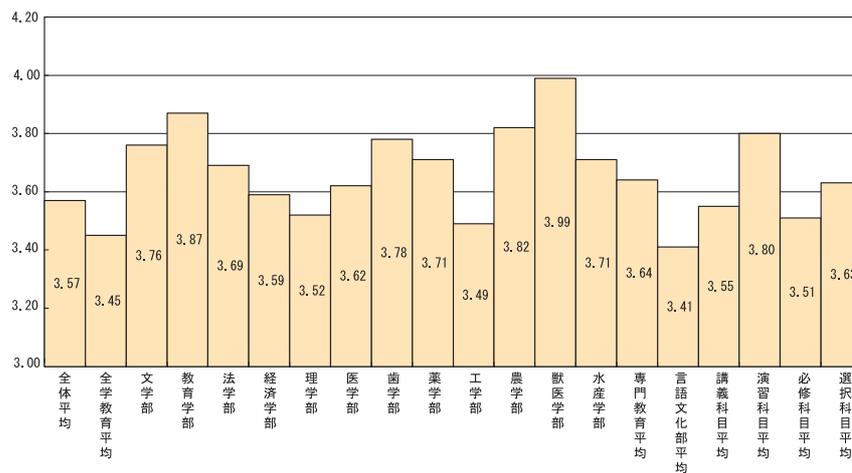
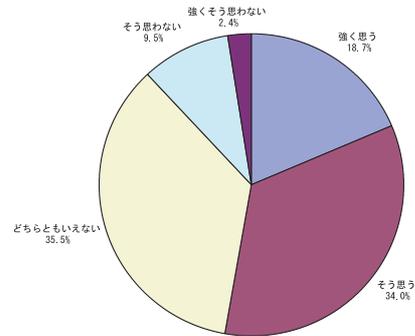
達成感は、全体的にはそう高くないが、全体的に改善している。このなかで、講義にくらべて演習が効果的である。学部別では、達成度の改善は一般には改善しているが、低下しているものもあり、一定していない。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが25人以下でよい。

- ・授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	37.7%	48.6%	52.7%	21.4%	15.0%	11.9%
全学教育	33.3%	42.8%	47.3%	23.6%	19.7%	16.2%
専 門	40.3%	51.7%	55.5%	20.0%	12.3%	9.6%
言 語	32.4%	40.5%	43.0%	21.7%	18.8%	14.5%
講 義	36.9%	48.0%	52.1%	21.9%	15.3%	12.1%
演 習	48.7%	55.4%	61.3%	14.6%	11.6%	9.0%
必 修		44.7%	49.8%		15.7%	13.0%
選 択		50.9%	55.4%		13.8%	10.8%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.29	3.35	3.48	3.44	3.20	3.38	3.16	3.30	3.11	3.29	3.50	3.23
平成12年前期	3.78	3.88	3.53	3.59	3.35	3.51	3.62	3.57	3.46	3.71	3.90	3.51
平成12年後期・13年前期	3.76	3.87	3.69	3.59	3.52	3.62	3.78	3.71	3.49	3.82	3.99	3.71

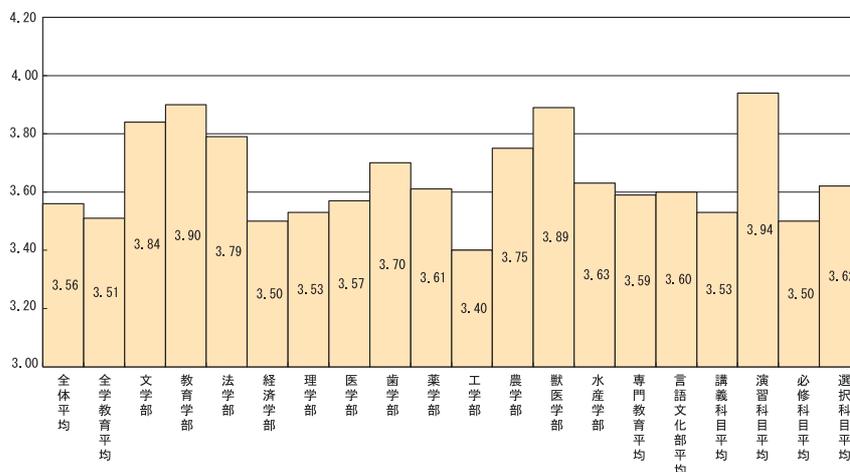
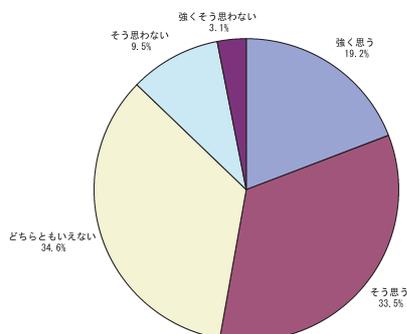
全体的にはよくないが、明確に改善している。ここでも演習はよい。学部別でも改善は明瞭である。

クラスサイズとの関連

25人以下のクラスで最も効果的である。

・授業により，新しい知識，考え方，技能を習得でき，さらに深く勉強したくなった。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	44.2%	48.6%	52.7%	9.4%	16.0%	12.6%
全学教育	43.9%	47.6%	51.6%	20.5%	19.3%	15.8%
専 門	44.4%	49.0%	53.3%	18.7%	14.2%	11.0%
言 語	47.6%	51.9%	54.4%	17.4%	16.0%	11.7%
講 義	42.9%	47.1%	51.5%	20.0%	16.6%	13.1%
演 習	62.6%	62.5%	68.9%	10.8%	11.5%	7.1%
必 修		45.6%	49.6%		17.2%	13.3%
選 択		51.9%	55.6%		14.5%	12.0%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.60	3.49	3.70	3.61	3.35	3.40	3.26	3.45	3.09	3.38	3.57	3.29
平成12年前期	3.92	3.84	3.64	3.52	3.37	3.41	3.67	3.52	3.35	3.66	3.85	3.40
平成12年後期・13年前期	3.84	3.90	3.79	3.50	3.53	3.57	3.70	3.61	3.40	3.75	3.89	3.63

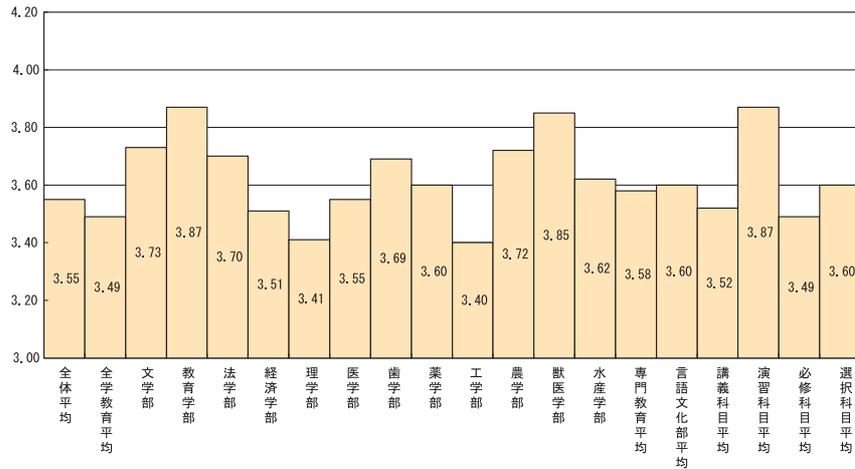
全体では比較的良好で，ほとんどが改善している。また，改善も明瞭である。とくに演習がよい。一方，学部別でも改善が明瞭であるが，理学部，工学部ではよくない。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが25人以下でよい。

満足度の総合

満足度の総合は学生による評価ともいえる。学部間であまり大きな差はなくなった。ただ演習はよい。



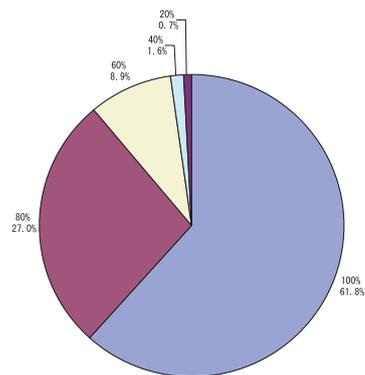
学部別評点平均

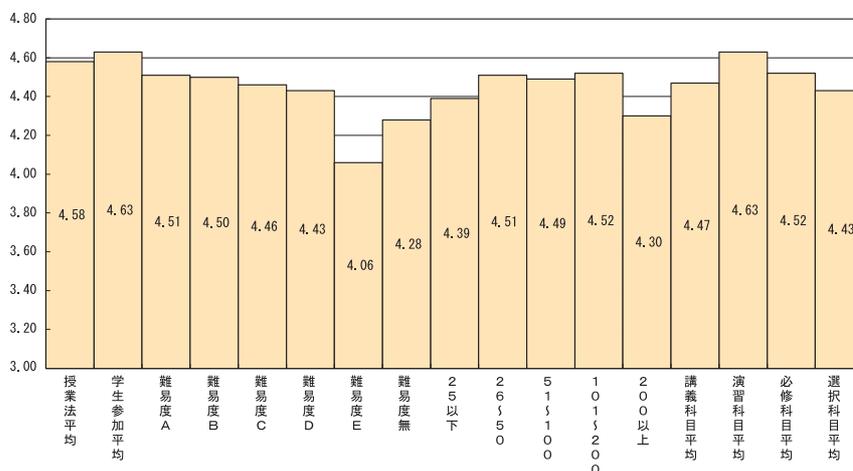
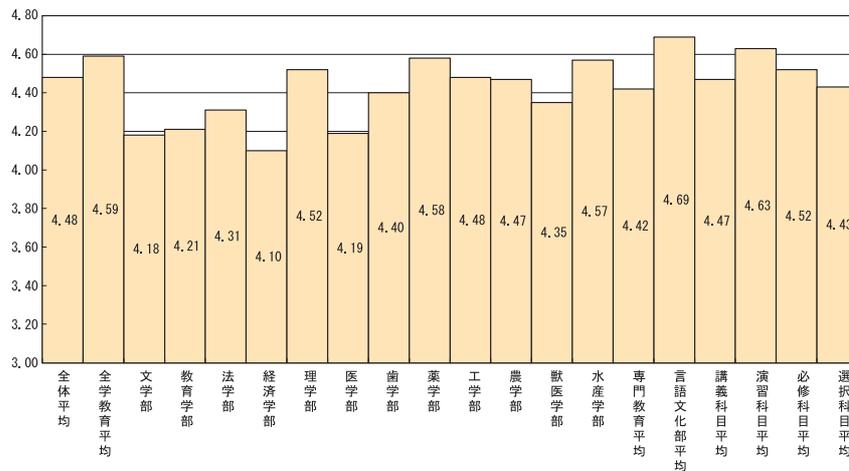
	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	3.51	3.40	3.60	3.55	3.27	3.35	3.23	3.32	3.11	3.31	3.44	3.25
平成12年前期	3.83	3.82	3.57	3.54	3.32	3.42	3.64	3.45	3.39	3.65	3.81	3.62
平成12年後期・13年前期	3.73	3.87	3.70	3.51	3.41	3.55	3.69	3.60	3.40	3.72	3.85	3.62

F 出席・態度

・この授業の自分の出席率は()%程度であった。

	80と100%の合計			20,40と60%の合計		
全 体	86.0%	87.5%	88.8%	14.0%	12.5%	11.2%
全学教育	89.6%	90.4%	91.8%	10.4%	9.6%	8.2%
専 門	83.6%	85.6%	87.3%	16.4%	14.4%	12.7%
言 語	93.7%	94.4%	95.9%	6.3%	5.6%	4.1%
講 義	85.4%	86.8%	88.4%	14.6%	13.2%	11.6%
演 習	91.3%	93.2%	94.8%	8.7%	6.8%	5.2%
必 修	87.9%	90.1%		12.1%	9.9%	
選 択	86.7%	87.7%		13.3%	12.3%	





学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	4.14	4.11	4.14	3.98	4.40	4.06	4.47	4.59	4.38	4.38	4.44	4.38
平成12年前期	4.18	4.48	4.31	4.09	4.40	3.92	4.48	4.60	4.45	4.45	4.44	4.42
平成12年後期・13年前期	4.18	4.21	4.31	4.10	4.52	4.19	4.40	4.58	4.48	4.47	4.35	4.57

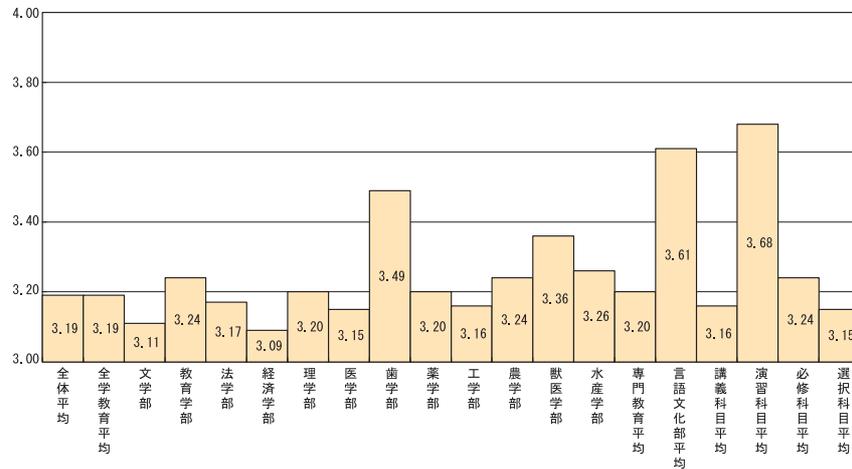
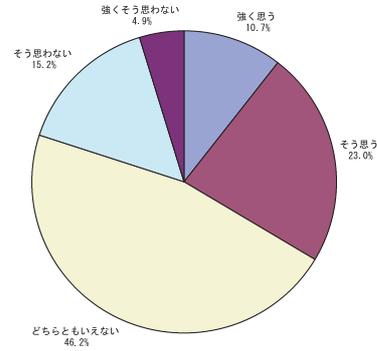
全体には、多くが6割以上出席したと答えている。講義より演習が出席がよい。語学の授業も出席がよい。

これは、学生は自分にあまく評価するということであろう。選択、必修に差はない。わずかの改善がうかがえる。

学部別では文系の出席は理系よりよくない。

・質問，発言，調査，自習などにより，自分はこの授業に積極的に参加した。

	そう思う (評点の4と5の合計)			そうは思わない (評点の1と2の合計)		
全 体	23.9%	30.1%	33.7%	31.0%	23.3%	20.1%
全学教育	26.7%	31.1%	35.1%	29.7%	25.7%	22.3%
専 門	22.1%	29.4%	32.9%	31.7%	22.0%	19.0%
言 語	41.0%	45.2%	53.8%	18.6%	16.0%	10.8%
講 義	21.8%	27.8%	31.9%	32.2%	24.3%	20.9%
演 習	49.0%	51.7%	57.1%	15.4%	12.1%	9.6%
必 修		30.7%	35.7%		22.6%	18.4%
選 択		29.1%	31.8%		24.0%	21.7%



学部別評点平均

	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産
平成11年前期	2.86	2.85	2.95	3.07	2.86	2.93	2.98	3.01	2.82	2.84	2.70	2.82
平成12年前期	3.06	3.11	3.01	3.02	2.98	2.96	3.48	3.03	3.14	3.21	3.26	3.08
平成12年後期・13年前期	3.11	3.24	3.17	3.09	3.20	3.15	3.49	3.20	3.16	3.24	3.36	3.26

全体的に積極的に参加していないと自己批判している。前年に比べて改善している。必修，選択では差がない。

学部別でも共通して積極性に欠けていることは明瞭である。とくに理系では，積極的に参加したという学生は少ない。そのなかで，歯学部では積極的参加となっている。

クラスサイズとの関連

クラスサイズが小さいものは積極的参加が多い。

学生による評価と教官自己評価との比較

フィードバック用の集計表では、各教員は、自分の授業の各項目の学生による評点を各評価項目評点平均と総合評価指数で、全体平均、全学教育平均、専門教育平均、当該部局専門教育平均、講義科目平均、演習科目平均、必修科目平均、選択科目平均と比較することになる。また、自己評価の評点を学生による評点平均と比較する。

各教官あて通知内容

「平成13年度(平成12年度後期及び平成13年度前期実施分)授業アンケート」集計表

部局名:

氏名:

授業の形態:講義

科目区分:専門科目

必修・選択:選択 科目名:

提出枚数/登録学生数(提出率)

23/110(20.91%)

設 問 内 容	5 (%)	4 (%)	3 (%)	2 (%)	1 (%)	無回答 (%)	平均	全体平均	全学教育平均	専門教育平均	専門教育平均(当該部局)	講義科目平均	演習科目平均	必修科目平均	選択科目平均
1. シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた。	17.39	47.83	30.43	4.35	0.00	0.00	3.78	3.69	3.64	3.71	3.84	3.67	3.88	3.64	3.73
2. 授業は体系的に行われていた。	4.35	60.87	34.78	0.00	0.00	0.00	3.70	3.92	3.84	3.93	4.05	3.90	4.10	3.88	3.94
3. 教官の熱意が伝わってきた。	47.83	30.43	13.04	8.70	0.00	0.00	4.17	3.98	3.92	4.00	4.23	3.95	4.25	3.94	4.01
4. 教官の話し方は聞き取りやすかった。	21.74	43.48	30.43	4.35	0.00	0.00	3.83	3.81	3.74	3.82	3.94	3.77	4.12	3.77	3.82
5. 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。	30.43	39.13	30.43	0.00	0.00	0.00	4.00	3.47	3.35	3.51	3.65	3.43	3.75	3.46	3.45
6. 授業により知的に刺激された。	39.13	30.43	26.09	4.35	0.00	0.00	4.04	3.65	3.59	3.66	3.87	3.61	4.04	3.57	3.70
7. 黒板、スライド、OHP、ビデオ、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的であった。	52.17	17.39	30.43	0.00	0.00	0.00	4.22	3.58	3.51	3.60	3.49	3.55	3.78	3.52	3.62
8. 教官は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。	0.00	34.78	47.83	17.39	0.00	0.00	3.17	3.40	3.39	3.41	3.27	3.34	4.17	3.50	3.31
9. 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。	8.70	39.13	47.83	4.35	0.00	0.00	3.52	3.73	3.76	3.71	3.78	3.69	4.28	3.79	3.67
10. 授業の進行速度は適切であった。	26.09	43.48	26.09	4.35	0.00	0.00	3.91	3.68	3.71	3.65	3.64	3.65	3.99	3.65	3.69
11. 授業で要求される作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。	18.18	31.82	45.45	4.55	0.00	4.35	3.64	3.67	3.71	3.64	3.63	3.64	3.93	3.65	3.68
12. 授業内容の難易度は適切であった。	13.04	13.04	69.57	4.35	0.00	0.00	4.13	3.86	3.77	3.89	3.96	3.85	3.84	3.86	3.85
13. 授業の履修目標を達成できた。	26.09	26.09	30.43	17.39	0.00	0.00	3.61	3.42	3.40	3.42	3.49	3.39	3.70	3.39	3.43
14. 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。	30.43	52.17	17.39	0.00	0.00	0.00	4.13	3.59	3.45	3.64	3.69	3.55	3.80	3.51	3.63
15. 授業により、新しい知識、考え方、技能を修得でき、さらに深く勉強したくなった。	34.78	52.17	8.70	4.35	0.00	0.00	4.17	3.57	3.51	3.59	3.79	3.53	3.94	3.50	3.62
平均値	24.71	37.50	32.56	5.23	0.00	0.29	3.87	3.67	3.62	3.68	3.75	3.64	3.97	3.64	3.68
平成12年度(前期)平均値(科目名:)															
平成11年度(後期)平均値(科目名:)	25.84	28.68	33.34	9.56	2.58	0.77	3.66	3.58	3.61	3.58	3.70	3.57	3.78	0.00	0.00
平成11年度(前期)平均値(科目名:)	34.93	36.01	20.53	6.93	1.80	0.00	3.96	3.47	3.46	3.47	3.72	3.44	3.83	0.00	0.00
16. この授業の自分の出席率は()%程度であった。	39.13	30.43	21.74	8.70	0.00	0.00	4.00	4.47	4.59	4.42	4.31	4.47	4.63	4.52	4.43
17. 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	8.70	13.04	52.17	26.09	0.00	0.00	3.04	3.20	3.19	3.20	3.17	3.16	3.68	3.24	3.15
平均値							3.52	3.83	3.89	3.81	3.74	3.81	4.15	3.88	3.79
平成12年度(前期)平均値(科目名:)															
平成11年度(後期)平均値(科目名:)							3.60	3.67	3.54	3.64	3.55	3.65	4.04	0.00	0.00
平成11年度(前期)平均値(科目名:)							4.02	3.65	3.60	3.59	3.55	3.61	4.02	0.00	0.00

教官自己評価

設 問 内 容	自己評価点	全体平均	全学教育平均	専門教育平均	専門教育平均(当該部局)	講義科目平均	演習科目平均	必修科目平均	選択科目平均
1. シラバスでは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示した。	3.00	4.02	3.98	4.04	3.76	4.03	3.97	4.02	4.03
2. 授業は体系的に行った。	3.00	4.16	4.13	4.17	4.07	4.18	4.05	4.16	4.16
3. 学生にあなたの熱意が伝わった。	4.00	3.91	3.89	3.91	4.04	3.88	4.06	3.88	3.92
4. 学生にとってあなたの話し方は聞き取りやすかった。	3.00	3.65	3.71	3.63	3.54	3.63	3.82	3.67	3.64
5. 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすい授業を行った。	4.00	3.83	3.75	3.86	3.71	3.82	3.87	3.83	3.82
6. 知的に刺激される授業だった。	4.00	3.85	3.76	3.88	3.91	3.80	4.06	3.70	3.95
7. 黒板、スライド、OHP、ビデオ、プリント等を理解の促進に効果的に使用した。	4.00	3.75	3.69	3.79	3.33	3.75	3.77	3.72	3.78
8. 効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した。	2.00	3.43	3.56	3.39	3.00	3.32	4.19	3.52	3.37
9. 学生の質問・発言等に適切に対応した。	2.00	3.95	4.05	3.92	3.72	3.91	4.28	4.05	3.89
10. 授業の進行速度は適切であった。	3.00	3.61	3.64	3.60	3.61	3.58	3.80	3.62	3.61
11. 授業で要求した作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。	2.00	3.61	3.59	3.61	3.40	3.56	3.87	3.59	3.62
12. 授業内容の難易度は適切であった。	3.00	4.05	4.02	4.05	3.91	4.06	3.93	4.05	4.03
13. 授業の目標を達成できた。	4.00	3.78	3.83	3.76	3.65	3.75	3.91	3.76	3.79
14. 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解させることができた。	3.00	3.73	3.55	3.80	3.65	3.71	3.83	3.60	3.81
15. 授業により、学生は、新しい知識、考え方、技能を修得し、さらに深く勉強したくなった。	4.00	3.60	3.55	3.62	3.67	3.55	3.87	3.50	3.67
平均値	3.20	3.80	3.78	3.80	3.67	3.77	3.95	3.78	3.81
平成12年度(前期)平均値(科目名:)									
平成11年度(後期)平均値(科目名:)									
16. この授業の学生の出席率は()%程度であった。	2.00	3.84	4.02	3.76	3.42	3.78	4.24	4.00	3.72
17. 学生は、質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した。	2.00	3.19	3.39	3.10	3.24	3.10	3.78	3.24	3.16
平均値	2.00	3.51	3.71	3.43	3.33	3.44	4.01	3.62	3.44
平成12年度(前期)平均値(科目名:)									
平成11年度(後期)平均値(科目名:)									

評点については次のとおりとする。

設問1-11,13-15,17: 「5-4-3-2-1」は、「強く思う-そう思う-どちらともいえない-そう思わない-強く思わない」を意味する。

設問12: 「5-4-3-2-1」は、「A極めて難しい-B難しい-C適切-Dやさしい-E極めてやさしい」を意味する。なお、各教官の設問1-15の平均値を算出するために「C 5-BD 3-AE 1」として計算した。

設問16: 「5-4-3-2-1」は、ほぼ「100%-80%-60%-40%-20%」を意味する。

学生による評点平均と自己評価評点平均を全評価科目の全体平均と比較すると、「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示した」「授業は体系的であった」「授業は難解な概念、理論があっても、わかりやすかった」「授業により知的に刺激された」「教官は効果的に学生の参加を促した」「教官は学生の質問・発言に適切に対応した」「黒板・スライド・OHP・ビデオ・プリント等を理解の促進に効果的に使用した」「授業内容の難易度は適切であった」「授業の目標を達成できた」「授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた」など、一般に学生による評価が、0.1から0.4ほど低く評価していた。一方、全体平均の「教官の話し方は聞き取りやすかった」「授業の進行速度は適切だった」は学生による評点の方がよかった。総合評価指数も、学生の方が0.1ほど低かった。また、全学教育平均、専門教育平均、当該部局専門教育平均、講義科目平均、必修科目平均、選択科目平均でも0.1ほど学生によるものが低かった。

このように学生による評価と教官自己評価との比較では、両者におおきなずれがなく、学生は授業をむしろ肯定的にとらえていることがわかる。一般には高く評価している。この点は前年より改善し、ここにも授業がよくなったことが反映されている。

評定平均の度数分布

各自の総合評価指数の位置づけを知るために、度数分布と順位を示した。すなわち、評価を受けた科目全体、全学教育科目、専門科目、当該部局専門科目の総合評点度数分布、最高値と最低値、該当科目数のうちの順位、たとえば、評価を受けた科目全体の数 中 位 と して、位置づけを明確にした。これにより各教員は、自らの位置づけを明確に把握できた。

度数の幅は評点平均 0.1でグラフとした。幅の取り方と関連して、多少の凹凸があるが、全体的には正規分布のグラフとなっていた。各部局の専門科目のグラフは、ときに科目数が少なく、度数分布としては形が悪いが、それでも全体での位置づけを見るには十分であった。また、各部局の専門教育科目に対する評価も平均点のみによるよりは、含まれる情報が多かった。

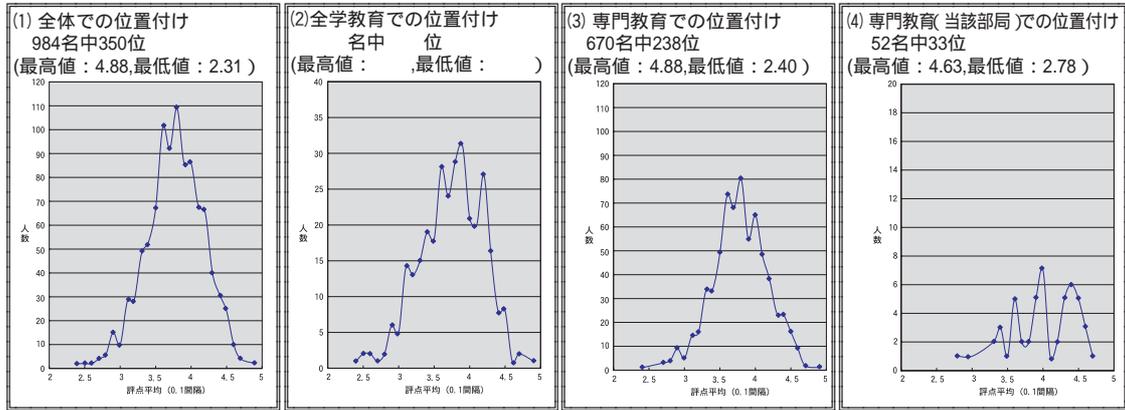
「平成13年度(平成12年度後期及び平成13年度前期実施)授業アンケート」

評点平均の度数分布図

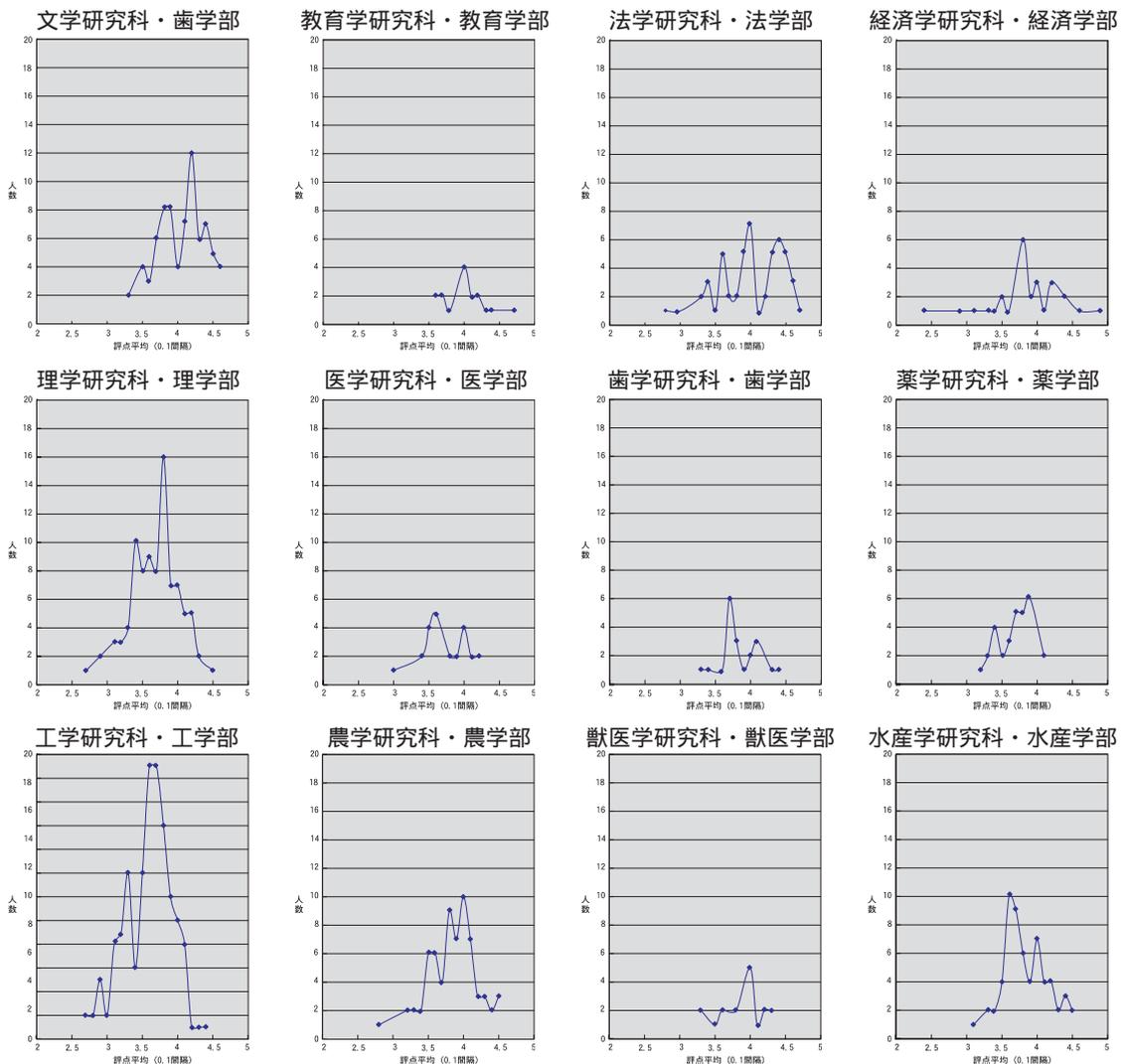
部局名: _____ 氏名: _____ 提出枚数/登録学生数 (提出率)
 授業の形態:講義 科目区分:専門科目 必修・選択: _____ 選択 科目名: _____ 23/110(20.91%)

1.あなたの評点平均: 3.87

2.評点平均の順位



部局ごとの専門教育科目の度数分布図



自由意見の解析

平成11年度の授業アンケートでは、述べられた学生の自由意見から一般化できる点を抽出し、その解析結果を授業の改善法として報告書に記載した。さらに詳細な解析は、「高等教育ジャーナル」に「学生アンケートによる授業改善の提案、とくに講義の改善と学生参加型授業」としてその解析結果を記載した。さらに、高等教育機能開発総合センターのホームページに「学生が提案する授業改善法」として公開した。このホームページ(<http://socy0.high.hokudai.ac.jp/HowtoL/Howto0.html>)は、授業とくに講義の授業改善の要素がほとんどすべて網羅されている。これは、本学の学生が提起した形であり、教員の視点、教員の理論から提案しているものと比較して、特徴があり、評価される。活用が望まれる。

一方、平成11年度の各意見は境なしに羅列されていたので、授業を特定できない形であった。ここでは同じ授業に対しては、同じような意見が羅列されるはずであるので、平成12年度は授業別に意見を区分けして整理した。意見を授業別に分けることで、その授業の性格が具体的にみえてくる。授業の現場が具体的にイメージされ、評価の参考になることがわかった。

平成13年度は、北海道大学の授業の性格を知るために、各授業別の意見をできるだけ3つのキーセンテンスでまとめ、各授業の特徴を表現することにし、アンケート質問項目と関連して分類した。

授業に対する自由意見の数は、授業によって異なっていた。ほとんど無いものから50、60意見のあるものまで様々であった。このなかで、その科目固有の意見は取り上げず、一般的意見を取り上げ、その代表と見なされる意見から3種をえらびキーセンテンスで表現した。どうしても重要なら1、2加えてもよいとし、3種に満たないものはそのままとした。実際には、1種あるいは2種のものもあった。これをアンケートの項目種別に分類し、マイナス意見とプラス意見に分けた。授業改善ということで、マイナス意見に視点があつたが、特徴的なものはプラス意見も採り上げた。

以下に集計の結果を示す。下記のように意見の数は科目あたり、1から3個で平均2個である。キーセンテンスの割合は北海道大学の授業科目の性格を表す改善の方向を示している。

サンプル数(984科目中意見のある965科目から、抽出キーセンテンス総計1,865、平均1.93個/科目)

A. シラバスとその内容 123キーセンテンス(6.6%); うちプラス意見(15): マイナス意見(108)

- ・シラバスの内容が体系的でよい。
- ・授業構成が不明瞭。
- ・複数教官間で内容にだぶつきがある。
- ・授業回数を再考して欲しい(不足)。
- ・採点評価基準が不明確。
- ・シラバスにまとまりがない。
- ・シラバスと授業が合っていない。
- ・他の授業との連携を明示してほしい。

- ・授業日程を明示してほしい。

B1. 教員と授業 745 (39.9%); うちプラス意見 (289) : マイナス意見 (456)

- ・教官の熱意を感じる。
- ・教官が魅力的。
- ・授業の進め方がうまく、聞き取りやすい。
- ・話すスピードが速すぎる、声が小さすぎる。
- ・教師の態度が尊大、一方的。
- ・セクハラまがいの内容あり品位を疑う。
- ・休講が多すぎる。
- ・時間にルーズ(遅刻・延長)。
- ・プリント/教科書の棒読み授業。
- ・学生を向いて講義をして欲しい(黒板に講義をしている)。
- ・意欲、熱意を感じない、いい加減な進行、場当たりの(教官の予習不足)。
- ・学生に対して威嚇的、暴言。
- ・思想的偏り有り(アジ演説は聴きたくない、授業を聞きたい)。

B2. 教育媒体 372(19.9%); うちプラス意見 (73) : マイナス意見 (298)

- ・板書が見やすく整いわかりやすい。
- ・ビデオ、スライド、OHPが効果的に使用されている。
- ・板書に不満(ない、小さい、汚い、つながりみえない、消すのが速すぎ)。
- ・OHP、スライドの不満(小さく見にくい、切り替え速すぎ、教室を真っ暗にしないでほしい)。
- ・OHP、スライド使用時は、同一内容のプリントを配布して欲しい。
- ・教科書に不満(難解、高価、古い)。
- ・プリントに不満(少なすぎ、多すぎ、まとまりない、要点不明)。
- ・機材の不調で時間を無為につぶす。
- ・情報の流しっぱなし、説明不足。

B3. 負担 179(9.6%); うちプラス意見 (31) : マイナス意見 (148)

- ・授業進度適切。
- ・小テスト、レポートが適切な量で、学習に効果的。
- ・演習問題多すぎる。
- ・レポート、課題の量が多すぎる。
- ・レポート、課題の解答は示すべき。
- ・グループ作業では負担に不公平がある。
- ・進行がバタバタしている。速すぎる。
- ・授業とテストにギャップがある。

C. 学生参加 103(5.5%); うちプラス意見 (50) : マイナス意見 (53)

- ・クラスの人とコミュニケーションがよくなる。
- ・学生の意見がよく反映される。
- ・発表形式 / 討論形式がよい。
- ・自分で学んでみて初めてわかる。
- ・活気がなく、雰囲気が悪い。
- ・人数が少なすぎる。
- ・学生に任せすぎで、手抜きに見える。
- ・体験学習を取り入れるべき。

D . 難易度 160(8.6%); うちプラス意見 (19) : マイナス意見 (141)

- ・わかりやすい。
- ・難しすぎる (大多数) 。
- ・易しすぎる。
- ・同一授業の前期後期で難易度がちがう。

E . 学生の満足感と達成度 153(8.2%); うちプラス意見 (98) : マイナス意見 (55)

- ・知的好奇心が刺激され満足。
- ・適切に評価され、やる気になった。
- ・実践的な内容が盛り込まれ興味深い。
- ・共同作業が有益であった。
- ・研究法の理解、最先端の内容が刺激的。
- ・履修人数が多すぎる (教室が狭い) 。
- ・内容がうすっぺらい、つまらない。
- ・教室が、寒すぎる / 熱すぎる、遠すぎて不便。

F . 出席・態度 30(1.6%); うちプラス意見 (1) : マイナス意見 (29)

- ・出席と発言を同列に評価している。
- ・出席を評価して欲しい。
- ・私語が多い。私語を注意すべき。
- ・出席の取り方に納得できない。

以上のように、授業改善には、教員のパフォーマンスと授業媒体の使い方が最も重要であることを示している。授業改善については、平成11年度報告書、高等教育ジャーナル8号(2000年)および高等教育機能開発総合センターのホームページ(<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/HowtoL/Howto0.html>)を参照にされたい。

米国の大学では、教育業績評価にポートフォリオ(ここでは教育への貢献を示す資料およびその説明文のファイル)が日常的に活用されている。学生の意見は、授業に対する学生の反応の具体的表現例としてポートフォリオに引用できる。

アンケートに対する教員の自由意見

自由意見をのべた340人の意見について解析した。このうち約20%は、アンケートの改善案を提起するものであった。約10%は、このアンケートは参考になるので続けるようにという積極的支持であった。残りの大多数も様々な点で自分の授業を省みるもので、80%はこのアンケートを有効に活用している。

指摘された改善案，問題点で参考になるものを羅列する。

- ・授業の速度については、授業に反映させるためには、遅いか速いかを聞くものにしてほしい。
- ・12回の授業をした。アンケートは8回以上の出席者に限定した。1, 2回しか出ていない学生からの評価は無意味である。
- ・研究業績が公開されている一方で、教育に関する業績が公開されていないのはおかしい。
- ・「授業アンケート」は、教育におけるマーケット(学生)の情報を知るうえで極めて重要である。
- ・厳しく学生を評価する教官が不利になるようには、このアンケートを活用しないでほしい。
- ・担当教官がアンケートを回収するのは不適切である。
- ・メディアについては、黒板以下すべてのメディアを使用することが効果的な授業であるという誤解をまねく。
- ・教官が学生の立場にたって自分自身の授業を評価するという教官の自己評価アンケートは、意味がない。教官は、自分の授業についてプライドがあり、知的授業、学生にとって刺激のある授業をしているという自負があるのは当然である。
- ・授業で出席をとっていないので、最後の授業は普段出席しないものが、試験情報を知るためのみに出ているものがある。こういった学生は授業評価できるのか疑問だ。
- ・無記名のアンケートは無責任な意見、評価をもたらす。とくに出席不良者において、一生懸命授業をやっているものにとって腹立たしい。アンケートを書く資格のある者に書いてもらうことにした。
- ・学生番号や氏名を書かせるべきである。
- ・フィードバックが遅く、改善に生かしくい。
- ・論理、基礎概念、演繹などの基本的な事柄をしっかりと教えているかどうかを問うようにしてほしい。
- ・画一的な項目で測定することにどれだけ意味があるか、疑問である。
- ・アンケートの結果を1年後にもらっても、改善にいかしくい。受け取った程度のことなら半年以内にまとめられるのではないか。
- ・これまで何度もいったが、アンケートの見直しをしてほしい。
- ・実施時期、設問、公表手段などアンケート自身に問題がありすぎる。
- ・全教官が参加できる形で基本的に考え直す必要がある。
- ・自由意見欄に、学生自身の授業への取り組みへの反省を書いてもらったらどうか。
- ・アンケートの質問をときどきかえてみたらどうか。
- ・出席率について出席を強制しているものかどうかにデータがほしい。
- ・アンケートのプラス評価でやる気を高めていくべきである。
- ・メディア、作業量、授業の達成度についてなど、不適切な設問がある。

- ・もう少し具体的なアンケートとできないか。
- ・アンケートを全教官が実施するために義務化するべきである。
- ・学生の授業態度のアンケートが無いと、次にはパスする。
- ・このアンケートは、授業に対する学生の快・不快を知るもので、授業の成果を知るには不適切である。これにより教官の知的要求水準が低下することをおそれる。
- ・無記名アンケートなだけに、無責任な回答が多い。
- ・項目が多い。
- ・公開授業が効果的である。
- ・どうでもよいと思っている学生を見つけるダミー的質問をいれてはどうか。
- ・講義や演習を同じアンケートとするのはおかしい。
- ・高い評価をえても、それが昇進、処遇で活かされないと意味がない。
- ・設問がパフォーマンスにかたよりすぎ。
- ・ランキングを示すものでないといいながら、何位かを示すのは矛盾である。

以上のなかで「現在のアンケートが毎回同じであり、担当授業の内容に応じて、画一的であまり意味がないという意見もみられる。また、評点化、順位づけは問題で、矛盾がある。さらに教員のパフォーマンス中心であり、授業の内容にせまるものではなく、とくに大事な教育成果を評価するものがない。これでは、教員が学生に迎合するものであり、教育の質の低下をまねかかねない」などの意見について考えてみたい。

学生による授業評価には大きく2種類がある。

1) 設問が各教員の授業に即していて、これが各教官にフィードバックされ、その授業改善に役立てようとするものである。その年限りであれば、評点化はあまり意味がない。しかし、これが年を追うごとに、改善しているかをみようとすると、評点化が必要となる。授業改善の目的には、受け手である学生から改善したかどうかのデータをもらうことになる。評点化は必須となる。しかし、授業個々で別の設問では、他との比較ができない。自らの位置づけができるだけ客観的に認識できるためには、多くの科目で比較できるデータを得る共通のアンケートが必要となる。だが授業の種類によって、いくつかの群に分けて、別のアンケートを用意すると、講義、演習、実験、語学などとわけてそれぞれに即したアンケートをとり、分析したいということであろう。データの種類は、現在の4倍となり、解析にも4倍の労力が必要となる。

2) 無理は承知で、全科目を同一のアンケート内容とする。注釈をくわえると、実験も同じ設問でアンケートが可能である。ここでは組織的取り組みとして、さまざまな解析が可能である。科目に固有の要素もかえて明瞭になるであろう。現アンケートはこの形を採用している。組織としての集団力をあげる授業改善が必要であり、成果を根拠に新たなFDも必要となろう。ここでは、演習も注釈つきで同じ設問でアンケートをとることができる。異なる科目、異なる部局、異なる科目群、および年次推移などをここで比較でき、また各授業の特性も明確になる。現在のアンケートはこの方式をとっている。

学生による授業評価は、その授業が学生中心となっているかを評価する。別の視点は、学生による評価、学生参加の評価には適合しない。大学が学生を中心として存在し、機関における教育の目標、カリキュラム設計、科目の目標、方略、評価が学生を中心として設計されるという基本をふまえて、大学教育の根本にたつて評価の内容が構造化され、設計されている。この

内容の理解には、今日、1泊2日で行っているFDにおけると同様の内容の把握が必要である。構造的には、科目はその教育機関の教育目標を達成するためにある、すなわち学生が大学で学ぶ学習目標を把握して設計される。そのため最初に授業計画（シラバス）があり、それを達成するために方略として、教育資源としての教員のパフォーマンス、黒板をふくむ教育媒体としてのメディア、評価としての学生の満足度、授業で取り上げた以外への発展性などに関する設問が配置される。成績評価、試験に関する設問も必要であるが、原則として、アンケートをとって回収率をあげるために試験前の最後の授業で調査するため、成績評価や試験については質問していない。

設問にはきわめて多くの項目が考えられるが、授業について15問、学生の自己評価を2問とした。意見にもあるようにこれでも多いという。実際にこれでも解析のためのデータは膨大である。アンケートは、質問したいことの大半を捨て、核となるものを残して形となる。したがって、すべてを満足する内容とはなりえない。正確なデータをえることも難しい。ある程度の誤差を見越しながら正確なデータをえる努力をすることになる。現在の設問は、標準的な内容である。

あえて3年間同じ設問とした。これもマンネリととらえられるであろう。しかし、1年間としてのデータをようやくえることができた。また、授業が年ごとに改善していく様が明瞭に見えてきた。

教育改善は、教育成果を高めることにある。教育の結果どうなったかの調査がもっとも重要であるとの意見がある。たしかにその通りである。だがこれを学生による授業評価でいかに計測できるか。このためには別のアンケートが必要であろう。学生の自己評価となるが、これを客観的に測ることは難しい。

設問のなかで、学生の満足度、達成度について質問している。これらは、計測できる評価は観察可能な項目で行わなければならないという原則をいれないうで、学生の主観による自己評価でもある。「授業の履修目標を達成できた」という内容でその程度を質問したが、この評価は以外に低い。学生は正直であり、控えめである。

つぎに、「学生は記名をして回答すべきである」との意見も少なくない。「態度のよくない学生と態度のよい学生が一緒でのデータは、意味がない」という意見もある。

設問を決めていく際に、平成5、6年に実施したように、はじめに学生の自己評価、教員の授業を評価するに値するかどうかを自己評価させて、授業評価することについても討論した。しかし、ここには教員中心から学生中心へ、一方的知識伝授から学生の学習中心への変換が、今日の大学の教育改革の中心と認識し、授業評価の前にプレッシャー、バイアスをかけない、教員自身が現状を謙虚に把握し、授業改善に結びつけようという姿勢で望むことにした。態度のよい学生と悪い学生、真面目な学生と不真面目な学生が混在するのが現実であり、これに対応していく努力で授業が改善される。

「メディア・視聴覚機器活用についての設問は問題がある」という異議があった。OHPやビデオ、コンピューターなどの視聴覚機器を使用すればよい授業であるとはとらえていない。これらは使い方を間違うとかえって逆効果となることも認識している。授業は、教師自身のパフォーマンス以外に、黒板などの教育媒体を効果的に用いる。ここでは、黒板もふくめた教育媒体全般について質問している。この質問に問題があるというなら、演説のみの授業が行われているのだろうか。それでも関連の意見は学生からモニターする必要があるだろう。実際には、学

生の自由意見では黒板の使い方など教育媒体の使い方に改善を求めるものが多い。重要な設問項目となる。

設問はすべての科目，すべての教員に適合するということはない。しかし，ここでは個々をこえて集団としての改善へ資するものを意図している。

アンケート結果の公表について

アンケート公表について，意見を求めた。平成13年前期授業アンケートをうけた526名中423名がアンケートの公表について回答した。423名中の内容は，以下のとおりであった。

- | | |
|-------------------------|-------|
| 1) 担当教官名，科目名をいれて公表しても良い | 54.6% |
| 2) 科目名のみをいれて公表してもよい | 27.0% |
| 3) 公表に反対である | 18.4% |

このように，公表に賛成は，81.6%であった。

意見から代表的なものをとりあげると以下ようになる。

上記のアンケートの結果をふまえて，1) 全面賛成，2) 条件付け賛成，3) 反対，4) その他に分け，ほぼ上記の比率で生の意見をとりあげた。

1) 全面的賛成

- ・アンケートの目標は客観的，精度の高い分析方法を開発することではなく，授業改善にある。大いに公表すべきである。
- ・研究業績は公表されているので，教官名，科目名をいれて公表すべきである。これを当該の教官がきめるといのはおかしい。
- ・研究業績が公開されるなかで，教育業績が公開されないのはおかしい。教育における受け手の情報をえるうえで極めて重要である。
- ・すべて公開すべきである。
- ・学生の意見，要望をとりいれた授業が必要である。
- ・賛成だが，教官の意見，弁明も加えるべきである。
- ・アンケートをとるからには公表すべきである。
- ・一気に全教官の集計を公表するのはどうか。全員が意見一致するのを待つと，100年たっても進まない。
- ・公表は当然だ。この評価が給与やボーナスなどの処遇に反映されるものでないと意味がない。
- ・気持ちとしては公表されたくないが，時代の趨勢からして，公表は仕方がない。
- ・公表は義務である。これは学生のレベルでの評価であることに留意する。
- ・授業の公開性では大学はもっとも遅れている。評価があって向上がある。密室性，非公開性は非合理性へ通ずる。ただし，評価方法は硬直化しないように絶えず改善すべきである。
- ・全面公開に強く賛成する。
- ・公平性に疑問はあるが，公表は大切である。

- ・あまりにも悪い教官に猛省を促す手立ても必要である。
- ・教官と学生の両方から授業を改善していくために、積極的に公表されてよい。

2) 条件付け賛成

- ・原則として公開すべきである。
- ・順位は公表しなくても、教官の絶対順位(A, B, C, …など)は、公表したほうがよい。そうでないと悪い授業はいつまでも悪い。
- ・公表の意図は賛成であるが、これは各教官の自主性、美德の問題である。
- ・公表に異論はないが、学生に人気がなくとも少数の優秀な学生を奮起させる講義もある。
- ・公表はかまわないが、それにより何が変わるかが不明である。
- ・全員がアンケートを提出するなら公表もやむをえない。
- ・学生が無記名であると、品性がでる。学生は記名でアンケートすべきである。
- ・科目名から教官名もわかってしまうが、分析、改善には必要である。
- ・「アンケートによる評価平均など数値データの公表」を「アンケート結果の公表」とするのは問題。
- ・共通の場で利用することに意味があるので公表すべきである。

3) 反対

- ・数値が一人歩きしそうで危険である。
- ・改善に結びつくとは考えられない。単位の取り安さの参考にされる。
- ・学生に迎合し、学問の厳しさを伝える授業ができなくなる。
- ・学生がどのような根拠で教官を評価しているか分析なしに、データの公表は一面的なレッテルとなる。
- ・意見がよくても数値は悪くなり、これが公表されるのは不満である。数値化には反対である。
- ・全体的統計データの公表にととめるべきである。単にランキングを示すものでないといっても弊害の方が大きい。
- ・アンケートの成果は各教官に知らせているので、そこで対応できる。教官名、科目名、評価を公表している大学もあるが不見識である。

4) その他

- ・授業改善と公開がどう関係するか不明である。
- ・授業は、先生と生徒の信頼関係からなるものであり、このようなアンケートによる数値化は不愉快である。
- ・視聴覚教材は使わない、学生の発言は求めないことにしているので、アンケートが適切でない。
- ・アンケートは担当教官以外の人物により実施されるべきである。
- ・授業により出席率がふるわないものもある。授業に出席しない学生の意見や行動も解析できるようにしたい。
- ・学生がどれほど予習、復習をしているかを調べ、その結果として授業アンケートをすべき

である。

- ・学生に媚びているアンケートである。教官が授業に費やす努力を学生が積極的に利用するのでなければ意味がない。
- ・学生のレベルにあった授業であればよしとするのでは、大学の意義が薄れる。
- ・まじめでない学生も混じっているデータである。
- ・全員の意見と同時なら、自由意見の公表も受け入れる。
- ・公表してよいが、学生の責任の所在がはっきりしないのでは、教官の人権無視になりかねない。
- ・チーム担当授業なので、公表にあたって、複数の教官全員の名前を公表してほしい。

平成11年度からの北海道大学の「授業アンケート」は、教員の自己申請による教育業績評価と対になっている。教育業績評価を含む総合業績評価の一部とされ、平成11年にはデータの解析、平成12年には印刷物によって公表された。

これらの総合業績評価の基本的考えは、それぞれにかかわるデータの開示である。

一般に、研究業績評価は行われているが、教育業績評価は難しいといわれている。しかし、現在、研究業績評価といっても、大学全体では、いわゆる研究業績リストの提出である。異なる分野間で研究業績を比較しても単純には評点化できないのは明らかである。北海道大学は、平成6年にこのことを確認し、分野や機関によって異なる研究業績は一律には比較できないが、データは開示できるとして、研究業績データのデータベース化をすすめた。平成8年に提案され、平成11年から実施されている教育業績評価も同様の考えによる。

一方、学生による授業評価は、点検評価委員会が発足した平成4年から検討され、平成5年に試行した。そのときも修学態度の悪い学生は正しく評価できないのではないかという議論があり、このような学生と修学態度のよい学生との評価を比較することも行われた。しかし、実際には両群の学生に評価の差がなく（平成5年度北海道大学年次報告書）、平成6年に本実施となった。しかし、それでもまだ、授業評価の前にまず学生の受講態度についての自己評価をさせて、そして教員の授業を評価するというアンケート構造となっていた（平成6年度北海道大学年次報告書）。

平成11年度から毎年実施することになった「授業アンケート」は、学生を信頼することを基本においている。アンケートの最後に学生の授業への出席と授業への積極的参加態度を質問しているが、授業評価の内容を解析するための参考のためである。

学生による評価データの信頼性と授業改善への有効性

公表を論じるとき、今回の意見にもみられたように、常に現代の学生気質が問題とされる。「アンケートに不真面目に答えている、授業態度が悪い、学修の目的意識が希薄である、学修意欲もない、楽しんで卒業することのみ考えている、そんな学生による授業評価には意味がない」などの意見が教員からでてくる。このような学生は少なからずいることは確かである。しかし、このような学生の評価は、全体の集計結果にはあまり大きな影響がなく、これらの授業アンケートは授業改善に有用であるとの結論は、すでに以前の試行、本実施、教員のリスボン調査で明確にできたことである。信頼性を高めるために、学生は記名でアンケートに答えるべきだとの意見が結構ある。しかし、弱者となりうる学生への脅しととられてもしかたがな

い。かえって、信頼性は落ちるであろう。

教員の意見として、マイナス意見も結構あるが、公表賛成が80%にものぼっている。これらは反対意見がたつよく聞こえる中で、賛成意見が意外なほど多いことが明らかとなった。それでも、公表に対する反対の意見はなくなるであろう。公表は慎重な配慮が必要であるが、学生のどんな意見でも参考にできるという学生を信頼する姿勢が重要ではないか。また、教育業績評価をすすめ、教育改善を推進するための表彰制度を取り入れていく際の情報公開へも結びつくであろう。

授業アンケート公表の必要性

現在、大学の社会的責任、納税者への説明責任として、様々な情報が開示される方向となっている。各授業は、大学、学部の社会的責任のひとつである。授業は、担当教官個人に属しているのではなく、大学、学部に属する。どのような授業が行われているかは、社会に公表されることが望ましい。授業内容の公開の一つの方法は、シラバスの公開である。一方、学生による授業アンケートの結果は授業の質を反映し、授業改善のためになる。アンケート結果が公開されず、履修の参考にされないならば、学生はまじめに答えなくなる、授業アンケートに興味を見いだせなくなるという意見もある。全面公開は学生と教員との信頼関係と、授業改善への共同作業が前提となる。各評点を公表することは、その授業の一面を示すデータの公開であり、これにより教員相互、学生と教員による相互作用が生まれ、授業が改善されるのであれば、公表することが望ましい。

公表のメリット

授業アンケート公表にはつぎのようなメリットが考えられる。横並びの公表では、同時に多くの授業の内容も知ることになり、他と対比することで、授業改善の方向付けが明確になってくる。そのため各教員の意識が高まり、授業改善、教育の活性化が生まれる。教員が授業法や教室運営法をより強く意識し、学生と教員とのあるべき関係に対してもより深くかかわるようになる。学生、教員ともに、より真剣に授業にかかわることになる。カリキュラムの改善に結び付く有用なデータとなる。

公表する場合の留意点、問題点

授業アンケートの数値（データ）は、そのみで授業の質、教員の授業力を直接的にあらわすものではない。授業評価の数値は、学問の内容、授業の種類、選択・必修の別、大人数クラスか、少人数クラスかの別、その他多くの要素で異なる。数値のみで異なる授業を比較することは正しくない。データは十分参考になるが、平成11年度後期科目と平成12年度前期科目の各期について、数値での上位10科目、下位10科目を調査したが、大学全体では数値のみの比較でランキングすることは正しくないことが明らかであった。数値のみが一人歩きすることは避けなければならない。したがって、公表にあたっては、誤解のないような説明が必要となる。また、公表ということで、授業アンケートに参加しない教員がふえる可能性もある。しかし、数値は、授業の質の改善でも変化する。同じ授業であれば、数値の変化は授業改善のよい指標となる。また、同じような授業であれば、数値の高い方が質の高い授業といっていよい。

公表の方法

授業アンケートの目的は、組織としての授業力の改善、教育改善にある。北海道大学としては、この調査結果を単に各教員の個人データとして埋もれさせることなく、組織として公開すべきであるという意見もある。公表に際しては、以下のことに留意する必要がある。

- 1) 数値の意味を明記する。数値は多様な要素で変動するものであり、総点が単純にランキングを示すものではないことも説明する。授業の種類、規模も示す。
- 2) 最初の段階としては、授業名でデータを公表する。
- 3) 学部によって授業形態が異なるので、学部別にする。
- 4) 各授業では、各設問に対する平均評点と総合評価指数を公表する。
- 5) 自由意見は、かなり問題の発言、誤解をまねく発言もあるのでそのままは公表しない。しかし、評点の高かった授業に対するプラスの意見のいくつかを積極的に公表するのは授業改善を促進するのに有効であろう。
- 6) 公表に際して、教員がその授業についての短い説明をくわえるのもわかりやすい。
今年度も、各授業のアンケートの結果を担当教官名入りで、各部署長にわたし、その活用は各部署に任せることになる。

まとめと次回への分析の提案

今回の授業アンケートでは、以下のことを明らかにした。

- 1) 授業の実態を明らかにした。教員は、一般には学生の学習状況をよく評価していることがわかった。
- 2) 各設問の評点を解析すると、この3年間でほとんどが改善していた。
- 3) これまでの2回は前期分のみしか解析できなかった。今回は1年分の科目についてデータが解析された。
- 4) 設問に対する評点は年を追うごとに改善していた。
- 5) 評点を度数分布で表現し、その分布内での位置づけをわかるようにした。
- 6) 学生の自由意見から、授業の性格を明らかにした。
- 7) 教員の意見から、このアンケートの問題点を明らかにした。
- 8) 結果の公開についてのアンケートをとった。8割が公開に賛成であった。

今年度は、初めて1年分の授業のデータが得られた。また、授業の実態などが明らかになった。調査は、次年度に行っても、結果が同様とみなされる。授業アンケートを次年度も同様に行うと、1年度分をまとめて、1年間の変化を解析できる。一方、これまでのものを中断して、別のアンケートを実施することも考えられるが、この際、同様のアンケートを再開して1年分のデータを得るには2年が必要である。

一方、このアンケート集計手順と解析作業の進行を検討する必要がある。すなわち、前期分のアンケートは、7月の終わりには終了する。しかし、このデータ集計には12月中旬すぎとなっ

た。報告書印刷発注は、2月末には間に合わせたい。しかし、約1000科目のデータを解析し、報告書の原稿を2月末までに仕上げることは時間的にきわめて困難である。しかしながら、一方、教員は集計結果の速いフィードバックを望んでいる。

以上をふまえて、次年度の活動案を述べる。

1) アンケートの内容は、基本的には、今回と同様の内容として、1年分を集計し、比較する。

ただし、教員の自己評価は行わない。授業の実態はつぎのようにする。

教員個人の教育業績評価の参考にするため次を記入してください。

(1) 当該科目の授業をすすめるうえでの抱負、意図、工夫などについて、自己アピールしてください。

(2) その授業での学生の態度、反応、成績評価その他の教育成果などを述べてください。

これらは、学生による評価を解釈する参考となり、ポートフォリオの重要な要素となる。

2) 授業アンケートの設問は、同様の趣旨であれば、表現を変えてよい。

また、次の設問には注釈をいれる。

・黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使われ方が理解の促進に効果的だった。(黒板のみの場合にも記入してください)

・授業で要求される作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。

(作業が要求されないときには3、授業の成果に資する宿題などがあるときには4、5、かえって逆効果なときには2、1とする)

3) この標準アンケート以外のアンケートがあれば検討する、あるいは実施する。

4) 集計作業について検討する。

(1) 速いフィードバックを要求している。前期と後期の集計は、アンケート回収後1ヶ月以内など迅速に行う。すなわち、前期分と後期分をわけて教員へフィードバックすることを検討する。

(2) 委員が共同で、意思統一しながら作業するために、集まって作業する。

(3) 迅速に集計作業を進めるために、単純集計のために、アルバイトなど支援人員を適宜雇用できるようにする。

5) 公表についてさらに検討する。評点が上位のものを授業内容と評価点を吟味して公表することもすすめられる。公表に際して、教員は授業の内容、目標、工夫、所見などの説明をそえ、評点を解釈する際の参考とする。また、難しくても仕方がない科目もあるので、教員側からの説明を可能にしておく。

6) ランキングについてさらに解析する。授業評価の結果を教員の教育業績にいれようという考えがあるので、公平な比較をどのように行うかが重要となる。教員個人評価となると、担当のすべての科目の授業アンケートも必要であるし、教員がそれぞれの授業をアピールする説明資料(ポートフォリオ)も必要となろう。ポートフォリオは、米国の大学の教育業績評価で一般的となっている。北海道大学の教育業績評価では、授業についてのデータ、教育改善への積極的努力が申請されている。同時に教育についてのアピールを記載するポートフォリオを加える必要があろう。すなわち、ポートフォリオは授業アンケートでなく、教育業績評価資料の一環として扱うのが妥当であろう。また、授業アンケートの結果は、教育業績評価資料の一つに加え、自己アピールの証拠とすることも必要となろう。

7) 授業を積極的によくしようという努力が、「学生による授業評価」の結果によく表れている教員も少なくない。教育改革の中で、各教員の授業改善をすすめていかなければならない現状で、大学は、とくにきわだった教員の努力を評価していく責任がある。また、同様に教育業績評価として、教育改善への貢献を評価していくことも必要となっている。教育業績を評点化し、これを参考に、教育貢献を表彰していくことは今や大学の責任となっている。この実施に向けた検討は緊急課題となっている。

継続的 point 検評価には、各年度がぎりでの point 検評価委員会では対応できないので、教育評価法の研究も行う「高等教育機能開発総合センター・高等教育開発研究部」と連携する必要がある。

関連文献

- ・平成10年度北海道大学年次報告書（1999）
- ・平成11年度北海道大学年次報告書（2000）
- ・平成12年度北海道大学年次報告書（2001）

分析のための全体集計:平成13年度(平成12年度後期及び平成13年度前期実施分)

1「シラバスとその内容」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均														専門 教育 平均	言語 文化部 平均
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産				
1 シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明伏に示していた。	5	18.88	18.44	30.82	23.51	24.47	26.09	16.95	19.27	19.61	12.11	14.25	20.30	16.99	21.56	18.97	23.25		
	4	36.24	35.25	42.90	45.30	39.61	44.63	31.75	37.57	40.66	38.41	33.67	36.32	29.62	39.40	36.73	37.98		
	3	40.56	39.60	23.43	29.46	32.04	26.50	47.43	38.90	38.09	47.39	48.30	41.49	50.63	36.20	41.00	34.88		
	2	3.46	5.34	2.42	1.73	3.36	2.30	3.11	3.42	1.44	1.74	3.03	1.28	1.97	1.95	2.63	3.10		
	1	0.86	1.38	0.44	0.00	0.51	0.49	0.76	0.84	0.21	0.35	0.75	0.61	0.89	0.89	0.67	0.79		
	無回答	1.16	0.81	1.09	0.49	0.70	1.15	2.41	1.51	1.02	2.77	0.99	1.75	2.10	0.68	1.34	0.90		
	平均値	3.69	3.64	4.01	3.91	3.84	3.94	3.61	3.71	3.78	3.60	3.58	3.74	3.60	3.79	3.71	3.79		
2 授業は体系的に行われていた。	5	30.06	27.81	41.57	38.42	37.56	37.01	31.02	23.87	25.13	28.63	24.83	36.12	36.95	30.21	30.45	39.21		
	4	39.54	38.48	40.26	44.58	37.42	42.45	40.00	37.55	43.34	43.76	40.30	39.85	38.70	41.24	40.14	38.06		
	3	24.20	25.90	15.41	13.55	19.06	15.83	23.67	30.40	26.86	22.46	28.26	20.03	19.61	24.24	23.68	19.15		
	2	4.97	6.02	2.40	3.20	4.60	6.85	4.22	6.74	3.97	3.93	5.45	3.34	3.85	3.34	4.57	2.71		
	1	1.24	1.62	0.36	0.25	1.35	1.06	1.09	1.44	0.71	1.22	1.16	0.66	0.88	0.97	1.16	0.86		
	無回答	0.20	0.17	0.36	0.00	0.23	0.08	0.35	0.00	0.10	0.27	0.31	0.16	0.00	0.04	0.21	0.25		
	平均値	3.92	3.84	4.20	4.18	4.05	4.11	3.96	3.76	3.88	3.95	3.82	4.07	4.07	3.96	3.93	4.12		
設問1、2の合計	5	24.21	23.17	36.21	30.99	31.03	31.58	24.06	21.59	22.38	20.47	19.56	28.28	27.08	25.90	24.74	31.26		
	4	37.93	36.90	41.58	44.94	38.51	43.53	35.92	37.56	42.00	41.12	36.99	38.10	34.16	40.32	38.44	38.02		
	3	32.44	32.75	19.40	21.48	25.54	21.13	35.43	34.62	32.45	34.76	38.25	30.68	34.96	30.20	32.29	26.99		
	2	4.31	5.68	2.41	2.47	3.98	2.98	3.67	5.09	2.71	2.85	4.25	2.32	2.92	2.65	3.61	2.91		
	1	1.11	1.50	0.40	0.12	0.93	0.78	0.93	1.14	0.46	0.79	0.95	0.63	0.88	0.93	0.92	0.82		
	無回答	0.68	0.49	0.72	0.25	0.46	0.61	1.38	0.76	0.56	1.52	0.65	0.96	1.05	0.36	0.78	0.57		
	平均値	3.80	3.75	4.11	4.04	3.95	4.02	3.79	3.73	3.83	3.78	3.70	3.91	3.84	3.88	3.82	3.96		

2「教官の授業法」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均														専門 教育 平均	言語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下	26 ~50							51 ~100	101 ~200	20 以上	20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~80	81 ~100		
3 教官の熱意が伝わってきた。	5	34.64	33.89	47.93	49.75	45.38	38.93	31.17	27.87	29.98	32.16	28.51	40.12	38.95	34.34	34.42	49.61	33.13	49.03	33.86	34.61	48.22	36.19	31.45	34.01	31.40	30.00	29.60	32.02	31.00	38.99		
	4	36.92	34.80	39.01	37.19	36.47	37.88	36.40	36.20	38.11	40.37	39.04	36.95	34.04	40.67	37.98	32.77	37.22	32.67	35.49	38.21	34.83	37.29	36.51	38.63	37.64	36.14	37.34	38.34	38.03	35.27		
	3	22.14	22.91	11.39	11.33	14.99	17.19	24.97	31.31	27.85	23.95	24.94	18.88	21.58	20.23	22.12	14.09	23.02	13.93	23.27	21.56	13.43	20.52	24.74	22.04	24.00	22.95	24.96	22.96	24.27	20.00		
	2	4.80	6.11	1.38	1.72	2.51	4.38	6.01	3.79	3.46	2.78	5.79	3.12	5.09	3.47	4.27	2.63	5.03	3.10	5.46	4.37	2.86	4.61	5.48	4.15	5.41	7.50	6.23	5.04	5.20	4.25		
	1	1.50	2.29	0.29	0.00	0.65	1.62	1.44	0.83	0.61	0.75	1.71	0.93	0.35	1.29	1.20	0.90	1.27	1.91	1.25	0.67	1.57	1.82	1.17	1.56	3.41	1.87	1.63	1.51	1.50			
	無回答	0.15	0.12	0.14	0.00	0.05	0.00	0.23	0.07	0.00	0.27	0.26	0.16	0.18	0.12	0.16	0.16	0.14	0.20	0.18	0.12	0.22	0.13	0.14	0.15	0.13	0.90	0.16	0.14	0.17	0.13		
	平均値	3.98	3.92	4.33	4.35	4.23	4.08	3.90	3.87	3.93	4.00	3.87	4.12	4.06	4.03	4.00	4.27	3.95	4.25	3.94	4.01	4.27	4.02	3.90	4.00	3.92	3.82	3.87	3.94	3.92	4.06		
4 教官の話し方は聞き取りやすかった。	5	30.98	30.01	45.14	35.47	37.38	37.96	28.69	24.86	26.73	26.22	25.87	36.95	32.28	30.34	30.39	43.92	29.57	43.47	29.59	31.44	43.37	34.14	16.79	28.12	27.50	22.05	25.29	29.96	28.73	33.54		
	4	33.49	32.36	33.99	34.98	32.88	31.06	31.50	37.53	34.55	36.79	35.35	33.66	35.79	34.45	40.06	32.29	33.51	33.74	33.29	33.85	32.91	32.63	30.26	34.91	31.71	25.88	34.36	34.59	34.27	32.50		
	3	23.44	23.00	14.49	20.20	18.65	20.28	25.30	31.20	30.28	26.42	25.33	20.25	21.93	24.98	23.62	15.69	24.18	16.32	24.45	22.81	17.05	20.98	34.16	26.16	25.34	24.77	24.42	22.78	25.12	22.49		
	2	9.34	10.87	5.58	8.87	8.21	8.68	11.15	5.99	7.42	7.72	10.16	7.88	7.02	8.46	4.56	6.61	9.82	4.96	9.63	9.34	5.52	9.39	14.11	8.52	11.81	20.45	12.17	9.53	9.35	8.79		
	1	2.74	3.76	0.80	0.49	2.88	2.03	3.35	0.41	1.02	2.85	3.29	1.26	2.98	1.77	1.16	1.48	2.94	1.51	3.13	2.57	1.15	2.86	4.68	2.29	3.65	7.05	3.77	3.14	2.52	2.69		
	無回答	0.13	0.12	0.07	0.00	0.00	0.00	0.16	0.14	0.00	0.14	0.28	0.16	0.18	0.08	0.21	0.21	0.12	0.20	0.19	0.08	0.15	0.15	0.13	0.15	0.07	0.90	0.04	0.11	0.15	0.14		
	平均値	3.81	3.74	4.17	3.96	3.94	3.94	3.71	3.81	3.79	3.76	3.70	3.97	3.87	3.83	3.82	4.10	3.77	4.12	3.77	3.82	4.12	3.86	3.40	3.78	3.68	3.35	3.65	3.79	3.77	3.85		
5 授業は、難解な概念、理論があっても、わかりやすかった。	5	18.52	17.55	28.45	24.20	24.97	24.17	18.86	15.83	20.65	13.41	13.93	23.14	23.29	18.94	19.03	27.38	17.77	28.66	18.32	18.74	26.98	21.31	16.79	14.42	16.98	12.27	15.63	17.29	17.16	20.92		
	4	30.48	27.71	35.99	37.53	33.41	30.01	27.79	34.76	36.32	37.87	28.72	33.75	35.38	33.32	31.86	34.79	30.96	31.68	30.63	30.34	33.14	31.67	30.26	28.89	27.23	22.73	26.89	29.65	30.96	31.18		
	3	33.19	32.48	25.69	28.15	26.26	28.22	32.89	39.78	34.79	36.31	37.19	31.95	31.17	34.73	33.56	28.87	33.59	27.83	33.67	32.74	28.91	31.74	34.16	36.40	32.14	35.68	33.12	33.17	34.39	32.05		
	2	13.59	16.32	8.35	9.63	11.88	13.38	15.00	8.26	6.92	10.70	15.43	8.81	8.58	10.72	12.19	7.61	13.90	9.45	13.10	14.01	9.27	11.77	14.11	15.91	17.41	21.36	18.09	14.86	13.61	12.11		
	1	4.23	5.93	1.52	0.49	3.48	4.22	5.46	1.38	1.32	1.69	4.73	2.35	1.58	2.30	3.37	1.36	4.37	2.38	4.28	4.17	1.70	3.51	4.68	4.38	6.24	7.95	6.27	5.04	3.87	3.74		
	無回答	0.15	0.14	0.22	0.25	0.05	0.00	0.12	0.07	0.10	0.14	0.29	0.11	0.00	0.08	0.15	0.29	0.14	0.20	0.18	0.11	0.15	0.16	0.13	0.22	0.07	0.90	0.12	0.18	0.15	0.13		
	平均値	3.47	3.35	3.81	3.75	3.65	3.57	3.40	3.55	3.68	3.51	3.32	3.67	3.70	3.56	3.51	3.79	3.43	3.75	3.46	3.45	3.74	3.56	3.40	3.33	3.31	3.10	3.28	3.39	3.44	3.53		
設問3、4、5の合計	5	27.76	27.15	40.51	36.48	35.91	33.68	26.24	22.85	25.79	23.93	22.77	33.40	31.50	27.87	28.09	40.31	26.83	40.39	27.26	28.26	39.52	30.52	21.68	25.52	25.29	21.44	23.51	26.43	25.63	31.15		
	4	33.65	31.63	36.33	36.57	34.26	32.98	31.89	36.19	36.33	38.34	34.37	34.79	35.07	36.15	34.66	33.25	33.70	32.70	33.11	34.13	33.63	33.84	32.35	34.15	32.19	28.18						

3 「メディア（教育媒体）」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																	専門 教育 平均	言語 文化 科目 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上							20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~81	81 ~100					
			平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均							平均	平均	平均	平均	平均					
7 黒板、スライド、OHP、ビデオ、教科書、プリント等の使用れ方が理解の促進に効果的だった。	5	21.96	22.89	28.13	32.76	21.22	20.73	19.24	22.04	23.32	16.92	17.24	27.11	29.42	25.57	21.49	27.81	21.40	29.45	20.14	23.66	29.14	23.89	19.62	21.07	23.68	15.23	19.88	19.72	20.69	24.51				
無回答	1	3.59	4.83	1.31	1.48	4.42	4.80	4.11	1.24	1.63	1.70	3.80	2.08	2.10	2.02	2.36	3.05	3.68	2.54	3.89	3.29	2.16	3.53	3.78	3.11	4.72	4.32	5.67	3.42	3.66	3.29				
平均値		3.58	3.51	3.78	3.89	3.49	3.52	3.46	3.73	3.76	3.62	3.46	3.79	3.90	3.74	3.60	3.69	3.53	3.78	3.52	3.62	3.79	3.62	3.51	3.58	3.53	3.41	3.41	3.52	3.53	3.65				

4 「作業量・負担」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																	専門 教育 平均	言語 文化 科目 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上							20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~81	81 ~100					
			平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均							平均	平均	平均	平均	平均					
10 授業の進行ペースは適切であった。	5	22.04	24.15	27.69	29.14	23.03	22.66	21.69	18.87	24.64	15.57	15.91	25.19	26.71	23.14	20.96	33.25	20.96	36.57	22.06	22.02	33.78	24.82	19.88	19.71	17.60	13.41	17.03	19.09	20.63	25.70				
無回答	1	2.12	2.44	0.36	0.0	2.28	2.19	2.38	1.31	0.92	1.02	2.83	1.70	2.11	1.53	1.94	1.69	2.20	0.91	2.45	1.77	0.44	2.30	2.24	2.16	2.19	0.00	0.20	0.22	0.28	0.20				
平均値		3.68	3.71	3.90	3.98	3.64	3.67	3.61	3.81	3.60	3.82	3.76	3.74	3.65	3.92	3.63	3.99	3.65	3.66	3.99	3.73	3.62	3.65	3.53	3.28	3.53	3.57	3.66	3.76						
11 授業で要求される作業量(レポート、宿題、自習など)は適切であった。	5	22.05	25.11	27.52	27.72	20.50	22.20	22.29	16.49	23.19	13.53	17.02	23.26	32.04	21.28	20.48	30.30	21.13	34.32	21.97	22.13	33.06	24.27	20.02	19.66	19.47	15.83	17.27	19.06	21.08	25.19				
無回答	1	1.91	2.32	0.62	0.37	1.59	2.11	1.88	1.38	0.92	0.71	2.41	1.26	1.59	1.52	1.68	1.73	1.96	1.13	2.17	1.63	0.69	1.93	2.07	1.93	1.90	4.34	2.51	2.59	1.57	1.70				
平均値		3.67	3.71	3.87	3.95	3.63	3.68	3.64	3.57	3.79	3.57	3.52	3.76	3.82	3.69	3.64	3.88	3.68	3.96	3.65	3.68	3.96	3.72	3.62	3.63	3.56	3.36	3.51	3.58	3.66	3.75				
12 設問10、11の合計	4	33.33	33.77	37.99	42.03	30.33	32.31	31.72	29.83	35.32	34.97	32.93	34.81	31.83	32.92	33.12	34.86	33.38	32.82	32.70	33.99	35.17	33.81	32.96	34.26	31.03	27.85	31.16	32.45	34.01	33.66				
平均値		3.67	3.71	3.87	3.95	3.63	3.68	3.64	3.57	3.79	3.57	3.52	3.76	3.82	3.69	3.64	3.88	3.68	3.96	3.65	3.68	3.96	3.72	3.62	3.63	3.56	3.36	3.51	3.58	3.66	3.75				

「授業についての総体」

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																	専門 教育 平均	言語 文化 科目 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上							20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~81	81 ~100					
			平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均							平均	平均	平均	平均	平均					
設問3、4、5、7、10、11の合計	5	24.89	25.60	34.16	33.18	28.77	27.76	23.66	21.00	24.75	19.64	19.75	29.30	30.44	25.60	24.54	35.39	24.00	36.93	24.32	25.44	35.76	27.41	20.76	22.84	22.77	18.13	20.79	22.86	23.22	28.14				
無回答	1	0.25	0.21	0.37	0.16	0.27	0.08	0.28	0.15	0.10	0.34	0.36	0.29	0.29	0.15	0.26	0.32	0.23	0.23	0.26	0.23	0.29	0.27	0.24	0.22	0.20	0.15	0.22	0.29	0.26	0.22				
平均値		3.69	3.66	3.97	3.97	3.76	3.74	3.62	3.68	3.79	3.67	3.57	3.85	3.86	3.76	3.70	3.94	3.67	3.97	3.66	3.71	3.97	3.75	3.58	3.66	3.60	3.40	3.54	3.63	3.66	3.77				

5 「学生参加」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均																	専門 教育 平均	言語 文化 科目 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上							20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~81	81 ~100					
			平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均							平均	平均	平均	平均	平均					
8 教官は効果的に学生の参加(発言、自習的学習、作業など)を促した。	5	19.52	22.78	23.44	23.89	19.07	19.14	17.28	21.49	18.82	15.05	13.96	21.99	22.85	17.26	17.85	46.90	17.41	47.82	21.53	17.57	40.39	24.20	16.09	16.70	8.39	10.91	10.98	15.67	17.06	25.08				
無回答	1	4.64	6.68	4.06	1.48	5.89	4.06	4.56	0.83	0.61	1.77	3.80	3.06	3.69	3.91	3.59	0.74	4.89	1.23	3.91	5.31	1.59	3.93	4.40	4.65	10.97	8.41	6.62	5.06	4.29	4.32				
平均値		3.40	3.39	3.45	3.60	3.27	3.42	3.33	3.56	3.57	3.46	3.36	3.41	3.19	3.34	4.17	3.50	3.31	3.97	3.54	3.34	3.34	2.88	2.97	3.10	3.28	3.37	3.53							
9 教官は学生の質問・発言等に適切に対応した。	5	24.31	26.99	31.22	28.08	29.37	25.22	21.28	24.38	27.16	17.49	16.98	29.40	36.33	21.15	22.91	43.51	22.40	49.54	26.26	22.41	44.34	27.69	21.31	21.20	13.88	14.45	18.22	20.07	21.95	29.44				
無回答	1	1.48	2.04	0.80	0.74	1.77	1.38	1.06	0.62	0.41	0.75	1.70	0.55	0.71	1.25	1.20	0.37	1.55	0.60	1.35	1.61	0.48	1.07	1.48	1.72	3.40	3.90	2.31	1.64	1.28	1.67				
平均値		3.73	3.76	3.88	3.83	3.78	3.77	3.66	3.79	3.87	3.65	3.59	3.87	4.03	3.65	3.71	4.17	3.69	4.28	3.79	3.67	4.17	3.83	3.67	3.67	3.40	3.39	3.55	3.63	3.70	3.84				
設問8、9の合計	4	28.82	27.92	36.92	31.02	34.19	30.26	26.70	30.65	32.91	32.72	30.84	29.09	29.84	26.82	28.98	32.02	28.55	29.88	30.06	27.29	28.92	29.95	28.85	30.10	20.82	21.92	25.51	27.51	29.65	28.85				
平均値		3.67	3.68	3.67	3.71	3.62	3.59	3.50	3.68	3.72	3.55	3.48	3.69	3.77	3.52	3.56	4.18	3.52	4.22	3.61	3.49	4.07	3.68	3.51	3.51	3.14	3.18	3.32	3.45	3.53	3.69				

6 「難易度」及び「学生参加」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化部 平均	*学生参加 設問8、9の合計					
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	5			4	3	2	1	無回答	
12 授業内容の難易度は適切であった。	A	9.24	10.40	7.25	2.71	7.44	11.03	11.40	3.24	5.40	8.62	11.83	5.03	4.76	6.37	8.64	5.27	16.80	7.19	8.04	12.49	27.56	9.88	
	B	34.00	33.65	32.56	32.27	33.66	33.09	34.66	28.12	29.36	42.20	41.17	22.87	27.16	28.68	34.18	25.81	30.06	36.86	33.50	36.37	31.74	30.50	
	C	52.34	49.78	56.20	60.59	55.51	49.96	49.69	65.95	62.28	47.42	44.22	67.45	64.02	61.60	53.67	61.30	54.18	52.25	54.72	44.29	31.23	53.14	
	D	3.91	5.38	3.70	4.19	3.11	5.43	3.86	2.55	2.45	1.63	2.43	4.54	3.35	2.90	3.16	6.83	4.29	3.40	3.45	5.98	5.92	5.13	
	E	0.50	0.81	0.29	0.25	0.28	0.49	0.39	0.14	0.51	0.14	0.36	0.11	0.71	0.44	0.35	0.78	0.67	0.30	0.29	0.86	3.55	1.35	
	無回答	0.31	0.35	0.14	0.09	0.23	0.00	0.27	0.21	0.30	0.27	0.51	0.11	0.70	0.26	0.28	0.41	0.25	0.22	0.16	0.29	0.58	35.07	
	平均値	3.85	3.77	3.97	4.15	3.96	3.77	3.76	4.25	4.13	3.77	3.64	4.25	4.17	4.10	3.89	4.11	3.85	3.90	3.93	3.67	3.10	3.80	

7 - 1 「学生満足度・達成度」について

		全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均					
				文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産												
6 授業により知的に刺激された。	5	22.88	23.46	36.26	32.76	32.45	23.82	21.63	19.56	22.71	18.93	15.27	27.31	30.88	22.26	22.57	26.63	21.65	39.21	20.32	25.26						
	4	33.22	31.16	37.64	39.90	33.61	30.89	31.01	37.33	38.59	40.23	32.26	35.69	38.25	35.00	34.28	34.90	33.24	32.98	32.79	33.66						
	3	31.71	30.54	18.64	24.38	24.47	30.24	34.65	32.78	32.18	34.33	38.30	28.24	24.56	32.90	32.30	29.26	32.43	22.06	33.72	29.79						
	2	9.26	10.95	6.31	2.22	7.15	12.20	8.88	8.20	5.70	5.83	10.85	6.90	5.26	7.34	8.39	7.07	9.62	4.44	9.77	8.81						
	1	2.94	3.88	1.16	0.74	2.32	2.85	3.83	2.13	0.81	0.68	3.32	1.86	1.05	2.50	2.46	2.14	3.06	1.31	3.40	2.49						
	無回答	0.22	0.18	0.14	0.00	0.09	0.24	0.47	0.14	0.29	0.27	0.31	0.16	0.18	0.16	0.23	0.25	0.22	0.16	0.25	0.18						
	平均値	3.64	3.59	4.02	4.02	3.87	3.61	3.58	3.64	3.77	3.71	3.45	3.80	3.93	3.67	3.66	3.76	3.61	4.04	3.57	3.70						
13 授業の宿修目標を達成できた。	5	12.69	13.30	14.34	19.33	14.22	14.76	11.62	10.97	14.90	7.09	9.92	15.64	16.98	13.13	12.38	18.09	12.04	21.36	12.56	12.83						
	4	30.49	30.24	34.67	37.11	32.89	28.67	28.02	29.21	35.57	31.04	27.29	33.05	37.69	33.28	30.62	34.42	30.06	36.23	29.36	31.60						
	3	44.57	43.00	42.15	38.89	41.57	42.26	43.88	46.77	41.71	52.11	49.20	42.36	36.67	44.10	45.38	39.10	45.32	34.53	45.49	43.63						
	2	9.91	10.37	7.48	4.00	8.91	11.10	12.52	11.31	6.61	8.53	11.28	7.37	7.30	7.88	9.67	7.07	10.16	6.52	10.11	9.20						
	1	2.34	3.10	1.36	0.67	2.41	3.20	3.96	1.75	1.21	1.23	2.31	1.57	1.36	1.62	1.96	1.32	2.42	1.43	2.48	2.79						
	無回答	0.41	0.28	0.65	0.25	0.37	0.16	1.13	0.21	0.30	1.42	0.51	0.55	0.53	0.32	0.48	0.29	0.42	0.28	0.43	0.39						
	平均値	3.41	3.40	3.57	3.65	3.49	3.40	3.34	3.34	3.62	3.34	3.32	3.54	3.61	3.48	3.42	3.61	3.39	3.70	3.39	3.43						
14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。	5	18.71	17.19	23.66	25.11	21.77	20.30	16.21	17.83	22.07	19.55	13.83	25.84	31.98	20.68	19.49	15.08	17.96	28.74	17.19	20.12						
	4	33.98	30.11	34.37	42.44	36.78	31.85	29.99	36.94	38.73	38.50	34.24	37.94	40.27	38.00	35.97	27.89	34.09	32.60	32.58	35.30						
	3	35.46	36.50	30.91	26.67	31.07	34.79	37.00	36.81	33.43	35.87	39.24	29.02	22.67	34.09	34.91	42.56	35.89	29.66	37.21	33.81						
	2	9.45	12.46	9.71	5.11	8.71	9.86	12.30	7.34	4.93	5.60	10.13	5.90	4.40	5.98	7.91	11.91	9.60	7.48	10.22	8.76						
	1	2.40	3.74	1.36	0.67	1.68	3.20	4.51	1.08	0.84	0.47	2.55	1.30	0.68	1.25	1.71	2.55	2.46	1.51	2.79	2.02						
	無回答	0.33	0.35	0.65	0.25	0.19	0.08	0.93	0.21	0.30	0.27	0.43	0.33	0.18	0.32	0.32	0.49	0.32	0.48	0.34	0.32						
	平均値	3.57	3.45	3.76	3.87	3.69	3.59	3.52	3.62	3.78	3.71	3.49	3.82	3.99	3.71	3.64	3.41	3.55	3.80	3.51	3.63						
15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。	5	19.20	19.07	26.55	28.29	25.37	19.24	17.16	18.18	21.44	16.13	12.86	25.17	29.49	19.93	19.27	20.47	18.09	34.06	17.30	20.97						
	4	33.52	32.53	36.96	39.20	36.97	30.89	30.86	34.34	34.39	37.72	31.35	36.24	37.46	35.38	34.03	33.94	33.42	34.86	32.32	34.66						
	3	34.63	32.59	27.03	28.06	27.41	33.38	36.01	37.31	37.19	38.87	41.30	28.62	26.61	34.73	35.68	33.86	35.43	24.02	37.07	32.34						
	2	9.52	11.48	7.70	4.23	6.84	12.11	11.05	8.01	5.68	6.41	10.91	7.83	5.42	7.47	8.51	9.02	9.83	5.38	9.72	9.35						
	1	3.12	4.32	1.75	0.22	2.40	4.38	4.92	2.15	1.30	0.88	3.58	2.14	1.02	2.46	2.51	2.72	3.23	1.67	3.59	2.67						
	無回答	0.39	0.40	0.72	0.49	0.09	0.41	0.97	0.28	0.41	0.34	0.60	0.38	0.35	0.32	0.39	0.45	0.38	0.55	0.43	0.36						
	平均値	3.56	3.51	3.84	3.90	3.79	3.50	3.53	3.57	3.70	3.61	3.40	3.75	3.89	3.63	3.59	3.60	3.53	3.94	3.50	3.62						
設問6、13、14、15の合計	5	18.37	18.26	23.98	26.21	23.66	19.31	15.76	16.62	20.22	15.44	12.90	23.45	27.31	19.00	18.43	20.07	17.44	30.83	16.85	19.80						
	4	32.80	31.01	35.72	39.66	35.07	30.56	29.79	34.44	36.78	36.88	31.26	35.73	38.42	35.42	33.73	32.79	32.70	34.17	31.76	33.80						
	3	36.59	35.66	30.90	29.63	31.16	35.42	38.47	38.45	36.21	40.27	42.11	32.10	27.65	36.46	37.06	36.19	37.20	27.57	38.37	34.89						
	2	9.54	11.32	7.96	3.93	7.90	11.27	11.60	8.72	5.73	6.59	10.79	7.00	5.60	7.17	8.62	8.77	9.81	5.95	9.95	9.16						
	1	2.70	3.76	1.43	0.57	2.20	3.44	4.39	1.78	1.05	0.81	2.93	1.72	1.03	1.96	2.16	2.18	2.79	1.48	3.07	2.35						
	無回答	0.34	0.30	0.54	0.25	0.19	0.22	0.88	0.21	0.30	0.58	0.46	0.36	0.31	0.28	0.36	0.37	0.33	0.37	0.36	0.31						
	平均値	3.55	3.49	3.73	3.87	3.70	3.51	3.41	3.55	3.69	3.60	3.40	3.72	3.83	3.62	3.58	3.60	3.52	3.87	3.49	3.60						

第2章 学生による「授業アンケート」について

7-2 「学生満足度・達成度」について

	授業法 平均	学年 参加 平均	難易度							クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
										25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	20 以下	21~ 40	41~ 60	61~ 80	81~ 100
			A	B	C	D	E	無回答											
6 授業により知的に刺激された。	5	54.00	53.33	22.42	17.63	26.19	24.65	25.27	19.82	32.27	25.27	20.55	20.83	20.92	21.14	22.22	20.68	21.44	25.25
	4	29.78	28.70	18.73	34.98	34.95	31.94	15.93	15.32	28.16	36.39	32.40	34.72	31.58	26.82	31.22	32.33	33.53	33.87
	3	13.41	13.97	27.34	33.95	31.36	28.19	25.27	21.62	16.74	32.87	33.81	31.24	33.48	34.55	31.05	33.21	32.84	30.09
	2	2.17	2.99	18.55	11.24	6.13	11.61	10.99	9.91	18.08	3.82	10.02	10.09	10.99	12.05	11.36	10.77	9.44	8.02
	1	0.63	1.01	12.97	2.20	1.37	3.61	22.53	8.11	4.75	1.65	3.23	3.13	3.02	5.45	4.15	3.01	2.76	2.78
	無回答	0.12	0.15	0.15	0.15	0.14	0.07	0.00	25.23	0.12	0.30	0.20	0.17	0.20	0.00	0.16	0.26	0.23	0.20
13 授業の履修目標を達成できた。	5	31.80	33.63	16.83	7.62	14.77	16.50	33.15	7.21	18.90	13.84	11.65	11.35	10.88	10.45	11.30	10.48	11.54	14.96
	4	36.63	34.90	13.73	29.62	34.09	31.37	17.68	15.32	36.17	32.00	28.94	31.74	27.35	21.82	28.34	27.54	30.29	32.57
	3	26.66	25.72	36.75	49.15	43.55	39.26	27.62	22.52	36.43	42.64	46.52	44.96	46.86	49.55	44.94	48.47	45.98	41.43
	2	3.93	4.51	20.49	11.88	6.70	10.74	7.73	7.21	7.06	9.29	10.41	9.83	11.78	13.41	11.91	10.78	10.10	8.91
	1	0.98	1.24	12.20	1.72	0.89	2.13	13.81	7.21	1.45	2.22	2.48	2.12	3.13	4.77	3.51	2.73	2.10	2.13
	無回答	0.34	0.30	0.27	0.22	0.31	0.50	0.55	40.54	0.33	0.40	0.44	0.35	0.40	0.00	0.37	0.56	0.41	0.36
14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解できた。	5	40.94	42.90	21.27	15.14	20.47	19.40	23.20	14.41	23.91	19.75	17.83	18.28	15.30	19.55	17.66	17.56	18.25	19.76
	4	33.41	30.74	20.31	35.44	35.72	32.62	21.55	11.71	28.25	35.55	33.70	36.31	33.85	30.68	33.08	33.72	34.33	34.05
	3	21.10	20.94	31.80	36.38	35.89	32.20	22.10	17.12	23.69	38.18	36.37	34.17	36.51	33.86	35.88	36.22	35.87	34.73
	2	3.51	4.29	16.25	11.09	6.91	12.37	13.81	11.71	20.63	4.68	9.65	8.79	11.74	11.82	10.37	9.99	9.13	9.28
	1	1.03	1.12	10.38	1.95	1.01	3.41	19.34	7.21	3.52	1.84	2.44	2.44	2.59	4.09	3.01	2.50	2.42	2.18
	無回答	0.23	0.36	0.39	0.19	0.19	0.42	0.55	37.84	0.31	0.41	0.28	0.40	0.33	0.00	0.12	0.38	0.36	0.33
15 授業により、新しい知識、考え方、技能を習得でき、さらに深く勉強したくなった。	5	43.54	45.27	20.69	14.77	21.62	21.43	20.33	16.22	26.85	21.07	17.36	17.70	17.38	18.00	18.16	16.79	18.41	21.16
	4	33.81	31.90	18.41	35.12	35.31	34.21	18.13	9.91	30.57	36.29	32.24	35.40	32.77	28.02	31.96	31.63	33.28	34.99
	3	18.45	18.18	29.29	36.12	35.24	28.53	18.68	18.02	19.06	35.90	37.32	32.56	35.49	36.45	34.61	36.80	35.62	32.77
	2	3.08	3.27	17.53	11.33	6.57	13.06	17.03	10.81	18.41	4.79	9.78	11.19	10.77	11.62	11.47	11.52	9.66	8.14
	1	1.13	1.38	14.08	2.65	1.26	2.77	25.82	8.11	5.11	1.94	3.30	3.14	3.59	5.92	3.80	3.26	3.03	2.94
	無回答	0.27	0.37	0.36	0.30	0.25	0.28	0.00	36.94	0.34	0.45	0.37	0.50	0.27	0.23	0.45	0.38	0.41	0.37
設問6、13、14、15の合計	5	42.58	43.79	20.30	13.79	20.77	20.50	25.48	14.41	25.79	19.89	16.85	17.04	16.12	17.28	17.34	16.38	17.41	20.28
	4	33.40	31.56	17.79	33.79	35.02	32.53	18.32	13.06	30.54	35.01	31.82	34.54	31.39	26.83	31.15	31.31	32.86	33.87
	3	19.90	19.70	31.29	38.90	36.51	32.04	23.42	19.82	23.41	37.48	38.50	35.73	38.08	38.60	36.62	38.67	37.57	34.75
	2	3.17	3.77	18.21	11.39	6.58	11.95	12.40	9.91	16.46	5.70	9.96	9.98	11.32	12.22	11.28	10.76	9.58	8.59
	1	0.94	1.19	12.41	2.13	1.13	2.98	20.39	7.66	3.81	1.92	2.86	2.71	3.08	5.06	3.62	2.88	2.58	2.50
	無回答	0.24	0.30	0.29	0.21	0.22	0.32	0.27	35.14	0.27	0.39	0.32	0.35	0.30	0.06	0.27	0.40	0.35	0.32

8-1 「学生の出席・態度」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産							
16 この授業の自分の出席率は()%程度であった。	100%	61.80	69.39	44.04	41.87	54.32	43.05	65.73	42.39	54.39	66.42	60.30	60.61	50.35	66.63	57.90	73.46	61.28	69.04	64.52	59.27
	80%	27.02	22.39	36.12	40.15	28.86	32.98	23.70	36.91	33.06	26.40	29.38	27.95	38.25	25.45	29.40	22.43	27.11	25.76	25.58	28.39
	60%	8.91	6.39	15.41	15.27	11.71	17.06	7.68	16.76	11.22	6.23	9.06	9.85	8.77	6.59	10.26	3.74	9.26	4.25	8.07	9.68
	40%	1.56	1.13	3.05	2.46	3.49	4.63	2.11	2.77	1.02	0.68	0.90	1.31	1.75	0.97	1.78	0.33	1.63	0.60	1.22	1.88
	20%	0.71	0.71	1.38	0.25	1.63	2.27	0.78	0.97	0.31	0.27	0.37	0.27	0.88	0.36	0.72	0.04	0.74	0.36	0.64	0.78
	無回答	0.29	0.38	0.79	0.00	0.19	0.24	0.66	0.69	0.41	0.07	0.25	0.11	0.18	0.36	0.24	0.37	0.30	0.20	0.29	0.29
平均値	4.48	4.59	4.18	4.21	4.31	4.10	4.52	4.19	4.40	4.58	4.48	4.47	4.35	4.57	4.42	4.69	4.47	4.63	4.52	4.43	
17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	5	10.66	12.14	8.56	9.36	11.34	10.23	10.58	10.77	13.98	6.41	8.18	10.96	14.24	10.66	9.90	20.38	9.80	22.13	11.54	9.80
	4	23.03	23.03	23.15	24.63	22.30	20.70	22.44	21.48	31.73	24.76	22.08	23.34	26.71	23.42	23.02	33.39	22.13	34.96	24.14	22.00
	3	46.23	42.56	44.27	30.49	44.10	42.78	48.13	41.68	45.10	52.59	50.82	48.05	43.23	50.99	48.10	35.49	47.19	33.33	45.97	46.46
	2	15.23	15.91	18.65	12.07	16.82	19.97	14.21	18.30	7.65	14.46	15.13	14.41	12.30	10.98	14.88	8.44	15.81	7.55	13.87	16.54
	1	4.86	6.36	5.37	3.45	5.44	6.33	4.64	4.77	1.53	1.77	3.79	3.23	3.51	3.96	4.09	2.31	5.07	2.03	4.49	5.20
	無回答	0.33	0.33	0.22	0.00	0.19	0.08	0.27	0.41	0.41	0.81	0.43	0.27	0.35	0.28	0.34	0.41	0.34	0.28	0.37	0.31
平均値	3.19	3.19	3.11	3.24	3.17	3.09	3.20	3.15	3.49	3.20	3.16	3.24	3.36	3.26	3.20	3.61	3.16	3.68	3.24	3.15	

8 - 2 「学生の出席・態度」について

	授業法	学生参加平均	難易度						クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					講義科目平均	演習科目平均	必修科目平均	選択科目平均	
			A	B	C	D	E	無回答	25以下	26～50	51～100	101～200	201以上	20以下	21～40	41～60	61～80	81～100					
			25以下	26～50	51～100	101～200	201以上	20以下	21～40	41～60	61～80	81～100											
16 この授業の自分の出席率は()%程度であった。	100%	67.46	70.18	65.90	62.35	61.03	59.35	51.93	51.39	59.65	61.99	62.54	65.22	54.52	51.59	49.84	57.11	61.10	66.79	61.26	69.04	64.52	59.27
	80%	25.05	23.81	23.66	28.01	26.84	28.47	26.52	34.72	27.16	28.51	26.51	24.76	27.93	29.77	30.40	29.35	27.97	24.51	27.11	25.76	25.55	28.39
	60%	5.90	4.74	7.10	7.53	10.13	9.07	7.73	8.33	7.57	8.63	8.92	7.78	12.53	13.18	14.14	10.46	8.96	7.17	9.26	4.25	8.07	9.68
	40%	1.10	0.91	1.98	1.54	1.42	2.34	3.31	1.39	4.02	0.54	1.41	1.60	3.29	4.77	3.63	2.18	1.39	1.06	1.63	0.60	1.22	1.88
	20%	0.50	0.37	1.35	0.57	0.58	0.78	10.50	4.17	1.60	0.34	0.61	0.65	1.73	0.68	2.00	0.90	0.66	0.47	0.74	0.36	0.64	0.78
	無回答	0.19	0.25	1.16	0.09	0.10	0.77	11.71	2.70	0.14	0.27	0.28	0.50	0.30	0.00	0.28	0.27	0.29	0.31	0.30	0.20	0.29	0.29
平均値	4.58	4.63	4.51	4.50	4.46	4.43	4.06	4.28	4.39	4.51	4.49	4.52	4.30	4.27	4.22	4.40	4.48	4.56	4.47	4.63	4.52	4.43	

8 - 3 「学生の出席・態度」について

	授業法	学生参加平均	難易度						クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					講義科目平均	演習科目平均	必修科目平均	選択科目平均	
			A	B	C	D	E	無回答	25以下	26～50	51～100	101～200	201以上	20以下	21～40	41～60	61～80	81～100					
			25以下	26～50	51～100	101～200	201以上	20以下	21～40	41～60	61～80	81～100											
17 質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した。	5	24.46	30.67	16.69	8.05	11.02	12.55	23.33	14.08	18.69	12.16	9.55	8.97	0.18	6.36	7.58	8.75	9.67	13.01	9.80	22.13	11.54	9.80
	4	28.50	30.92	14.73	24.01	23.97	23.12	14.44	12.68	27.43	25.38	22.35	20.67	19.44	18.86	17.24	20.61	22.33	25.79	22.13	34.96	24.14	22.00
	3	35.36	28.97	37.58	45.87	48.72	39.72	21.67	38.03	34.00	46.19	47.88	47.55	50.44	45.23	47.80	47.87	48.14	43.58	47.19	33.33	45.97	46.46
	2	8.40	6.79	18.49	17.53	12.90	18.72	12.78	23.94	9.94	13.97	15.53	17.36	21.21	20.68	19.40	17.64	15.00	13.51	15.81	7.55	13.87	16.54
	1	3.27	2.65	12.51	4.55	3.40	5.89	27.78	11.27	9.94	2.31	4.70	5.45	8.73	8.86	7.99	5.14	4.85	4.10	5.07	2.03	4.49	5.20
	無回答	0.24	0.26	0.33	0.23	0.20	0.21	1.10	36.04	0.21	0.34	0.37	0.40	0.18	0.00	0.28	0.43	0.32	0.33	0.34	0.28	0.37	0.31
平均値	3.62	3.80	3.05	3.13	3.26	3.18	2.93	2.94	3.35	3.31	3.17	3.10	2.81	2.93	2.97	3.10	3.17	3.30	3.16	3.68	3.24	3.15	

分析のための全体集計1

	全体平均	全学教育平均	各学部ごとの専門教育の平均												専門教育平均	言語文化部平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産		
設問1～15の平均値	3.67	3.62	3.90	3.93	3.75	3.70	3.60	3.69	3.79	3.65	3.54	3.83	3.86	3.73	3.68	3.89

分析のための全体集計2

	職(人)			授業の形態(人)		科目区分(人)		必修・選択(人)		受講登録学生数(人)	アンケート提出枚数(枚)	アンケート提出率(%)	
	教授	助教	講師	講義	演習	全学教育科目	専門科目	必修	選択				
全体	535	402	47	843	141	314	670	423	558	57,510	36,269	63.07	
全学教育	163	121	30	259	55	314	0	157	155	17,912	12,315	68.75	
専門教育	372	281	17	584	86	0	670	266	403	39,598	23,954	60.49	
各学部	文	54	48	3	73	32	29	76	9	96	4,363	2,296	52.62
	教育	8	8	1	16	1	1	16	3	14	662	451	68.13
	法	37	16	2	37	18	3	52	1	54	5,716	2,209	38.65
	経済	19	16	1	28	8	9	27	9	27	4,386	1,533	34.95
	理	88	76	13	160	17	86	91	66	111	9,654	6,570	68.05
	医	19	4	3	24	2	2	24	25	1	2,339	1,519	64.94
	歯	17	5	0	21	1	2	20	20	2	1,462	1,077	73.67
	薬	17	13	1	30	1	1	30	12	19	2,287	1,487	65.02
	工	100	79	0	162	17	20	159	106	73	10,694	7,273	68.01
	農	38	32	0	68	2	3	67	23	47	2,551	1,922	75.34
獣医	8	9	1	11	7	1	17	17	1	745	592	79.46	
水産	31	29	0	59	1	0	60	26	33	3,426	2,484	72.50	
言語文化部	31	31	19	69	12	80	1	70	11	2,927	2,439	83.33	

分析のための全体集計(教官自己評価の集計):平成13年度(平成12年度後期及び平成13年度前期実施分)

1「シラバスとその内容」について

	全体平均	全学教育平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門教育平均	言語文化平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産			
1 シラバスでは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示した。	5	26.73	25.54	20.00	7.14	17.39	18.18	23.86	47.37	26.32	37.04	28.28	26.56	50.00	44.64	27.27	34.78
	4	51.90	51.44	54.29	78.57	47.83	54.55	51.14	42.11	47.37	48.15	53.79	50.00	43.75	50.00	52.11	44.93
	3	18.57	18.71	22.86	14.29	28.26	27.27	20.45	10.53	21.05	14.81	16.55	23.44	6.25	5.36	18.51	18.84
	2	2.35	4.32	1.43	0.00	6.52	0.00	2.27	0.00	5.26	0.00	0.69	0.00	0.00	0.00	1.46	1.45
	1	0.45	0.00	1.43	0.00	0.00	0.00	2.27	0.00	0.00	0.00	0.69	0.00	0.00	0.00	0.65	0.00
	無回答	2.83	4.47	0.00	0.00	6.12	0.00	2.22	0.00	5.00	3.57	2.68	1.54	0.00	0.00	2.07	2.82
平均値	4.02	3.98	3.90	3.93	3.76	4.33	3.92	4.35	3.95	4.22	4.08	4.03	4.44	4.39	4.04	4.13	
2 体系的に授業を行った。	5	32.37	31.07	28.57	7.14	26.09	27.27	38.20	52.63	26.32	29.63	32.88	28.13	56.25	44.64	32.96	39.13
	4	52.73	52.50	51.43	71.43	56.52	63.64	48.31	26.32	57.89	66.67	52.74	62.50	37.50	41.07	52.83	43.48
	3	13.46	14.64	17.14	21.43	15.22	9.09	12.36	15.79	10.53	3.70	13.70	9.38	6.25	12.50	12.92	15.94
	2	1.33	1.79	2.86	0.00	2.17	0.00	1.12	0.00	5.26	0.00	0.68	0.00	0.00	1.79	1.13	1.45
	1	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.26	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.16	0.00
	無回答	2.28	3.78	0.00	0.00	6.12	0.00	1.11	0.00	5.00	3.57	2.01	1.54	0.00	0.00	1.59	2.82
平均値	4.16	4.13	4.06	3.86	4.07	4.44	4.24	4.15	4.05	4.26	4.18	4.19	4.50	4.29	4.17	4.19	
設問1、2の合計	5	29.56	28.32	20.62	10.00	22.45	30.65	30.18	47.73	25.00	32.14	31.00	27.61	50.00	44.64	30.12	36.96
	4	52.31	51.97	54.12	73.33	52.04	53.23	51.52	36.36	55.00	58.93	53.19	55.22	41.18	45.54	52.47	44.20
	3	16.01	16.67	21.13	16.67	21.43	16.13	15.24	13.64	15.00	8.93	14.89	16.42	8.82	8.93	15.71	17.39
	2	1.84	3.05	3.61	0.00	4.08	0.00	2.44	0.00	5.00	0.00	0.61	0.75	0.00	0.89	1.30	1.45
	1	0.28	0.00	0.52	0.00	0.00	0.00	0.61	2.27	0.00	0.00	0.30	0.00	0.00	0.00	0.40	0.00
	無回答	2.55	4.12	0.00	0.00	5.77	0.00	3.53	0.00	4.76	3.45	2.66	1.47	0.00	0.00	1.83	2.82
平均値	4.09	4.06	3.91	3.93	3.93	4.15	4.08	4.27	4.00	4.23	4.14	4.10	4.41	4.34	4.11	4.17	

2「教官の授業法」について

	全体平均	全学教育平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門教育平均	言語文化平均	講義科目平均	演習科目平均	必修科目平均	選択科目平均	クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)				
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	25以下							26~50	51~100	101~200	201以上	20以下	21~40	41~60	61~80	81~100	
3 学生にあなた の熱意が伝わった。	5	20.74	21.01	24.64	21.43	30.43	22.73	20.22	47.37	15.79	29.63	16.55	19.05	18.75	10.71	20.62	26.23	20.10	24.60	22.80	19.05	25.95	17.46	23.32	11.32	11.54	28.81	11.76	15.92	19.57	24.46
	4	52.35	49.64	60.87	71.43	47.83	54.55	47.19	42.11	57.89	62.96	51.72	49.21	62.50	64.29	53.57	43.48	51.31	58.73	46.63	56.75	52.43	51.11	50.16	67.92	61.54	52.54	50.00	51.59	53.02	52.60
	3	23.99	27.54	14.49	7.14	17.39	13.64	28.09	10.53	26.32	7.41	26.21	31.75	12.50	21.43	22.40	18.84	25.59	14.29	26.68	22.02	20.54	28.57	23.32	16.98	15.38	16.95	30.88	25.48	25.27	22.02
	2	2.69	1.45	0.00	0.00	4.35	4.55	4.49	0.00	0.00	0.00	5.52	0.00	6.25	3.57	3.25	0.00	2.74	2.38	3.63	1.98	1.08	2.54	3.19	3.77	7.69	0.00	7.35	7.01	1.78	0.92
	1	0.22	0.36	0.00	0.00	0.00	4.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	1.45	0.26	0.00	0.26	0.20	0.00	0.32	0.00	0.00	3.85	1.69	0.00	0.00	0.36	0.00
	無回答	3.04	5.15	1.43	0.00	6.12	0.00	1.11	0.00	5.00	3.57	2.68	3.08	0.00	0.00	2.07	2.82	3.28	1.56	3.50	2.70	2.12	2.48	3.94	1.85	7.14	3.28	2.86	2.48	4.42	2.10
平均値	3.91	3.89	4.10	4.14	4.04	3.89	3.83	4.30	3.89	4.22	3.79	3.87	3.94	3.82	3.91	4.12	3.28	4.06	3.88	3.92	4.03	3.83	3.99	3.87	3.69	4.07	3.66	3.76	3.90	4.01	
4 学生にとって あなたの話し方 は聞き取りやす かった。	5	12.36	14.55	14.49	7.14	10.87	18.18	7.95	26.32	5.26	14.81	10.34	14.29	15.00	5.36	11.38	30.43	11.91	15.08	14.03	11.33	16.30	11.46	12.46	9.43	0.00	13.56	4.41	5.73	13.21	16.26
	4	47.08	46.18	55.07	50.00	45.65	36.36	42.05	63.16	28.32	51.85	49.66	38.10	50.00	57.14	47.48	55.07	45.68	55.56	45.45	48.11	45.65	50.64	44.73	43.40	50.00	44.07	42.65	49.04	45.71	48.77
	3	34.27	34.55	23.19	35.71	32.61	45.45	38.64	10.53	63.16	33.33	33.10	41.27	37.50	28.57	34.15	13.04	35.73	25.40	33.77	34.79	33.70	31.86	36.10	33.96	46.15	37.29	42.65	35.67	36.07	29.75
	2	6.18	4.73	7.26	7.14	8.70	9.00	11.36	0.00	5.26	0.00	6.90	6.35	0.00	8.93	6.83	1.45	6.54	3.97	6.75	5.77	4.35	6.05	6.71	11.32	3.85	5.08	8.82	9.55	5.00	5.21
	1	0.11	0.00	0.00	0.00	2.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00	0.13	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無回答	3.26	5.50	1.43	0.00	6.12	0.00	2.22	0.00	5.00	3.57	2.68	3.08	0.00	0.00	2.23	2.82	3.54	1.56	3.75	2.90	2.65	2.70	3.99	1.85	7.14	3.28	2.86	2.48	4.76	2.40
平均値	3.65	3.71	3.77	3.57	3.54	3.78	3.47	4.15	3.32	3.81	3.63	3.60	3.75	3.59	3.63	4.13	3.63	3.82	3.67	3.64	3.74	3.68	3.63	3.47	3.46	3.66	3.40	3.51	3.67	3.76	
5 授業は、難解 な概念、理論が あっても、わか りやすい授業 を行った。	5	14.88	14.44	20.00	7.14	17.78	9.09	17.98	21.05	10.53	11.11	8.90	12.70	37.50	21.43	15.07	23.53	14.08	19.69	14.77	15.02	19.89	15.82	13.06	7.55	4.00	13.56	11.94	13.38	15.19	16.16
	4	55.70	50.54	52.86	57.14	40.00	54.55	50.56	73.68	57.89	62.96	63.70	57.14	50.00	66.07	58.02	52.94	56.71	49.61	56.48	54.94	49.46	56.96	57.01	62.28	56.00	47.46	40.30	53.50	57.95	59.45
	3	26.40	30.32	24.29	35.71	37.78	36.36	26.97	5.26	31.58	25.93	24.66	28.57	12.50	10.71	24.64	22.06	25.95	29.13	26.17	26.68	29.03	23.73	27.71	24.53	28.00	37.29	43.28	28.66	22.97	22.87
	2	3.02	4.69	2.86	0.00	4.44	0.00	4.49	0.00	0.00	0.00	2.74	1.59	0.00	1.79	2.27	1.47	3.26	1.57	2.59	3.36	1.61	3.42	2.69	1.69	4.48	4.46	3.89	1.89	1.52	
	1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	無回答	2.83	4.81	0.00	0.00	8.16	0.00	1.11	0.00	5.00	3.57	2.01	3.08	0.00	0.00	1.91	4.23	3.16	0.78	3.50	2.32	1.59	2.17	3.68	1.85	10.71	3.28	4.09	2.48	3.74	1.80
平均値	3.83	3.78	3.90	3.71	3.71	3.78	3.82	4.15	3.79	3.85	3.79	3.81	4.25	4.07	3.86	3.99	3.82	3.87	3.83	3.82	3.88	3.85	3.81	3.72	3.52	3.73	3.60	3.76	3.84	3.90	
設問3、4、5 の合計	5	15.99	16.67	17.42	11.11	19.18	15.05	12.55	31.82	11.67	20.24	11.76	15.15	21.57	12.50	15.69	30.10	15.37	19.79	17.20	15.07	20.72	14.92	16.28	9.43	5.19	18.64	9.36	11.68	16.00	18.96
	4	51.72	48.79	51.57	62.22	43.84	51.61	49.18	59.09	48.33	58.33	52.74	47.47	54.90	62.50	53.03	50.49	51.24	54.62	49.52	53.27	49.19	52.91	50.64	57.86	55.84	48.02	44.33	51.38	52.25	53.62
	3	28.21	30.80	25.78	24.4																										

第2章 学生による「授業アンケート」について

7-1 「学生満足度・達成度」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	上	農	獣医	水産							
6 知的に刺激される授業だった。	5	18.14	16.12	31.31	14.29	30.43	22.73	19.16	30.00	10.53	22.22	11.11	12.70	31.25	14.55	18.99	17.65	16.18	29.84	14.16	21.04
	4	50.79	48.35	49.25	61.29	41.30	36.36	50.56	65.00	63.16	48.15	47.92	61.90	43.75	63.64	51.88	39.71	51.18	48.39	46.48	54.11
	3	28.34	31.14	19.40	21.43	17.39	40.91	29.21	5.00	26.32	23.93	40.28	23.81	25.00	20.00	27.17	36.76	29.71	20.16	34.73	23.85
	2	2.49	4.03	0.00	0.00	10.87	0.00	1.12	0.00	0.00	3.70	0.69	1.59	0.00	1.82	1.80	5.88	2.63	1.61	4.44	1.00
	1	0.23	0.37	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00	0.26	0.00	0.26	0.20
	無回答	3.92	6.19	4.29	0.00	6.12	0.00	1.11	0.00	5.00	3.57	3.36	3.08	0.00	1.79	2.86	4.23	4.04	3.13	4.25	3.67
平均値	3.84	3.76	4.12	3.93	3.91	3.78	3.88	4.25	3.84	3.89	3.69	3.86	4.06	3.91	3.88	3.69	3.80	4.06	3.70	3.95	
13 授業の目標を達成できた。	5	12.07	13.57	8.57	0.00	10.87	18.18	12.36	25.00	10.53	14.81	8.97	18.75	12.50	8.93	11.35	18.84	11.69	14.17	12.92	11.42
	4	58.77	60.00	60.00	71.43	50.00	59.09	53.93	53.00	57.89	62.96	64.14	50.00	43.75	57.14	58.33	55.07	57.92	61.57	56.33	60.83
	3	24.02	21.79	27.14	28.57	32.61	18.18	23.60	15.00	31.58	22.22	20.00	29.69	37.50	28.57	24.96	23.19	24.68	19.69	25.32	22.83
	2	5.03	4.64	4.29	0.00	6.52	4.55	10.11	0.00	0.00	0.00	6.90	1.56	6.25	5.36	5.19	2.90	2.60	5.17	5.17	4.92
	1	0.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	0.00	0.13	0.00	0.26	0.00
	無回答	2.51	3.78	0.00	0.00	6.12	0.00	1.11	0.00	5.00	3.57	2.68	1.54	0.00	0.00	1.91	2.82	2.78	0.78	3.25	1.93
平均値	3.78	3.83	3.73	3.71	3.65	3.89	3.69	3.95	3.79	3.93	3.75	3.86	3.63	3.70	3.76	3.90	3.75	3.91	3.76	3.79	
14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解させることができた。	5	13.60	8.66	18.57	14.29	17.39	9.32	12.36	25.00	10.53	11.11	11.81	22.22	25.00	21.43	15.77	2.90	12.78	18.40	10.68	15.81
	4	51.24	45.13	44.29	78.57	41.30	57.14	57.30	65.00	57.89	74.07	51.39	58.73	62.50	48.21	53.52	39.13	50.85	52.89	47.40	53.75
	3	29.55	38.99	27.14	7.14	32.61	33.33	23.60	10.00	31.58	11.11	30.56	17.46	12.50	28.57	25.53	33.73	30.90	22.40	33.85	26.68
	2	5.39	6.86	10.00	0.00	6.52	0.00	6.74	0.00	0.00	3.70	6.25	1.59	0.00	1.79	4.72	8.70	5.22	6.40	7.81	3.56
	1	0.22	0.36	0.00	0.00	2.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.16	1.45	0.26	0.00	0.26	0.20	
	無回答	3.05	4.81	0.00	0.00	6.12	4.55	1.11	0.00	5.00	3.57	3.36	3.08	0.00	0.00	2.23	2.82	3.16	2.34	4.00	2.32
平均値	3.73	3.55	3.71	4.07	3.65	3.67	3.75	4.15	3.79	3.93	3.69	4.02	4.13	3.89	3.80	3.34	3.71	3.83	3.60	3.81	
15 授業により、学生は、新しい知識 考え方、技能を習得し、さらに深く勉強したくなった。	5	9.17	8.03	15.94	7.14	10.87	9.09	9.09	10.53	0.00	14.81	8.39	9.32	12.50	8.93	9.66	1.47	7.51	19.03	6.82	10.96
	4	46.66	45.62	40.58	64.29	52.17	36.36	46.59	68.42	47.37	48.15	41.96	49.21	50.00	50.00	47.14	51.47	45.72	52.38	44.09	48.80
	3	39.30	40.51	36.23	28.57	30.43	54.55	38.64	21.05	17.37	33.33	43.36	39.69	37.50	39.29	38.79	44.12	41.77	24.60	41.99	37.05
	2	4.53	5.47	7.25	0.00	6.52	0.00	3.41	0.00	5.26	3.70	6.29	1.59	0.00	1.79	4.09	2.94	4.61	3.97	6.82	2.79
	1	0.34	0.36	0.00	0.00	0.00	0.00	2.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.40	0.00	0.26	0.40
	無回答	3.81	5.84	1.43	0.00	6.12	0.00	2.22	5.00	5.00	3.57	4.03	3.08	0.00	0.00	2.86	4.23	4.17	1.56	4.75	3.09
平均値	3.60	3.55	3.65	3.79	3.67	3.67	3.57	3.89	3.42	3.74	3.52	3.67	3.75	3.66	3.62	3.51	3.55	3.87	3.50	3.67	
設問6、13、14、15の合計	5	13.24	11.59	18.48	8.93	17.39	14.94	13.24	22.78	7.89	15.74	10.07	15.81	20.31	13.45	13.94	10.22	12.04	20.32	11.14	14.79
	4	51.89	49.82	48.55	69.61	46.29	47.13	52.11	63.29	56.58	58.33	51.39	54.91	50.00	54.71	52.81	46.35	51.44	51.58	48.60	54.39
	3	30.28	33.06	27.54	21.43	28.26	36.78	28.73	12.66	34.21	23.15	33.51	27.67	28.13	29.15	29.10	37.96	31.74	21.71	33.94	27.51
	2	4.37	5.23	5.43	0.00	7.61	1.15	5.35	0.00	1.32	2.78	5.03	1.58	1.56	2.69	3.95	5.11	4.52	3.39	6.06	3.08
	1	0.23	0.27	0.00	0.00	0.51	0.00	0.56	1.27	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.36	0.26	0.00	0.26	0.20
	無回答	3.32	5.15	1.43	0.00	6.12	1.14	1.39	1.25	5.00	3.57	3.36	2.69	0.00	0.45	2.46	3.52	3.54	1.95	4.96	2.75
平均値	3.74	3.67	3.80	3.88	3.72	3.76	3.72	4.06	3.71	3.87	3.66	3.85	3.89	3.79	3.76	3.61	3.70	3.92	3.64	3.90	

7-2 「学生満足度・達成度」について

	授業 法 平均	学生 参加 平均	難易度						クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					
			A	B	C	D	E	無回答	25	26	51	101	201	20	21	41	61	81	
									以下	~50	~100	~200	以上	以下	40	60	80	100	
6 知的に刺激される授業だった。	5	49.88	41.90	39.13	21.02	16.91	6.58	25.00	100.00	27.72	15.81	16.08	15.09	7.69	25.42	14.71	16.03	17.63	18.89
	4	41.53	41.62	39.13	51.53	52.58	43.42	0.00	0.00	52.72	50.65	49.52	52.83	50.00	50.85	42.65	51.28	52.16	51.08
	3	7.64	14.80	17.39	24.07	29.28	42.11	50.00	0.00	17.93	31.61	30.55	28.30	38.46	18.64	36.76	28.21	29.14	27.86
	2	0.95	1.68	4.35	3.05	1.24	6.58	25.00	0.00	1.63	1.61	3.54	3.77	3.85	5.08	5.88	3.85	1.08	1.86
	1	0.00	0.00	0.00	0.34	0.00	1.32	0.00	0.00	0.00	0.32	0.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.64	0.00	0.31
	無回答	0.00	2.72	0.00	0.34	2.02	3.80	0.00	95.65	3.16	3.73	4.60	1.85	7.14	3.28	2.86	3.11	5.44	3.29
13 授業の目標を達成できた。	5	32.48	29.62	30.43	11.56	12.12	5.06	50.00	50.00	15.03	10.00	13.65	7.55	3.85	11.86	10.14	8.97	11.27	14.59
	4	55.61	52.99	43.48	61.56	59.60	50.63	25.00	50.00	60.62	60.00	57.14	58.49	53.85	64.41	56.52	53.21	61.97	58.36
	3	10.28	15.76	13.04	24.15	23.43	31.65	0.00	0.00	18.13	25.48	24.44	32.08	26.92	22.03	24.64	32.69	20.77	22.80
	2	0.93	1.36	13.04	2.72	4.65	12.66	25.00	0.00	6.22	4.52	4.44	1.89	15.38	1.69	8.70	4.49	5.99	4.26
	1	0.70	0.27	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.32	0.00	0.00	0.00	0.00	0.64	0.00	0.00
	無回答	0.00	0.00	0.00	0.68	0.00	0.00	0.00	91.30	1.53	1.90	3.37	1.85	7.14	3.28	1.43	3.11	3.40	1.50
14 授業内容が他領域と幅広く関連することを理解させる ことができた。	5	34.67	26.03	21.74	14.92	13.44	5.19	25.00	50.00	18.92	11.39	14.74	5.66	3.85	11.67	8.70	15.38	15.36	12.54
	4	48.11	53.97	39.13	49.15	53.16	49.35	50.00	50.00	54.05	48.73	52.88	47.17	46.15	56.67	53.62	44.87	52.86	51.07
	3	14.39	15.62	26.09	30.17	29.12	35.06	0.00	0.00	22.16	33.86	26.92	37.74	50.00	26.67	31.88	30.13	26.79	32.11
	2	2.83	4.38	13.04	5.76	4.07	10.39	0.00	0.00	4.86	5.38	5.45	9.43	0.00	5.00	4.35	9.62	4.64	4.28
	1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.20	0.00	25.00	0.00	0.00	0.63	0.00	0.00	0.00	0.00	1.45	0.00	0.66	0.00
	無回答	0.93	0.82	0.00	0.34	0.81	2.53	0.00	91.30	2.12	2.17	4.29	1.85	7.14	1.64				

8 - 1 「学生の出席・態度」について

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化部 平均	講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産							
16 この授業の学生の出席率は()%程度であった。	100%	16.29	26.79	8.57	7.14	20.00	9.09	9.41	10.00	10.53	7.41	12.41	9.38	18.75	17.86	11.76	43.48	13.46	34.65	20.93	13.12
	80%	57.08	53.57	52.86	57.14	22.22	18.18	62.35	65.00	89.47	66.67	64.83	68.75	62.50	64.29	58.50	53.62	57.25	55.12	60.72	53.88
	60%	21.46	15.00	32.86	35.71	40.00	40.91	23.53	20.00	0.00	25.93	19.31	20.31	18.75	16.07	24.35	1.45	23.40	9.45	16.28	25.45
	40%	4.72	3.93	5.71	0.00	15.56	27.27	4.71	5.00	0.00	0.00	3.43	1.56	0.00	1.79	5.07	0.00	5.36	0.79	1.81	6.96
	20%	0.45	0.71	0.00	0.00	2.22	4.55	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	1.45	0.52	0.00	0.26	0.60
	無回答	3.05	3.78	0.00	0.00	8.16	0.00	5.56	0.00	5.00	3.57	2.68	1.54	0.00	0.00	2.70	2.82	3.41	0.78	3.25	2.90
平均値	3.84	4.02	3.64	3.71	3.42	2.78	3.76	3.80	4.11	3.81	3.86	3.86	4.00	3.98	3.76	4.38	3.78	4.24	4.00	3.72	
17 学生は、質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した。	5	6.80	8.93	7.14	0.00	13.04	18.18	6.74	20.00	0.00	3.70	2.74	3.13	18.75	1.79	5.82	8.70	4.27	22.05	4.27	22.05
	4	28.87	40.00	28.57	35.71	26.09	27.27	25.84	55.90	21.05	18.52	15.75	28.13	6.25	19.64	23.91	53.62	26.68	42.52	26.68	42.52
	3	43.81	35.36	42.86	50.00	32.61	36.36	48.31	15.00	57.89	59.26	56.16	43.75	37.50	60.71	47.50	36.23	46.24	28.35	46.24	28.35
	2	17.95	12.86	21.43	14.29	28.26	13.64	15.73	10.00	21.03	18.52	22.60	23.44	37.50	10.71	20.36	1.45	20.08	5.51	20.08	5.51
	1	2.56	2.86	0.00	0.00	0.00	4.55	3.37	0.00	0.00	0.00	2.74	1.56	0.00	7.14	2.42	0.00	2.72	1.57	2.72	1.57
	無回答	2.29	3.78	0.00	0.00	6.12	0.00	1.11	0.00	5.00	3.57	2.01	1.54	0.00	0.00	1.59	2.82	2.53	0.78	2.53	0.78
平均値	3.19	3.39	3.21	3.21	3.24	3.44	3.17	3.83	3.00	3.07	2.92	3.08	3.06	2.98	3.10	3.69	3.10	3.78	3.24	3.16	

8 - 2 「学生の出席・態度」について

	授業 法 平均	学生 参加 平均	難易度						クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	
			A	B	C	D	E	無回答	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~80	81 ~100					
			16 この授業の学生の出席率は()%程度であった。	100%	25.95	27.12	21.74	15.99	16.36	17.72	0.00	33.33	22.28	18.06	13.46	11.76	0.00	13.33					3.08
80%	58.81	54.52	52.17	54.08	58.49	60.76	25.00	66.67	56.99	55.16	63.78	43.14	23.08	45.00	23.08	44.23	70.67	60.06	57.25	55.12	60.72	53.88	
60%	14.05	16.71	8.70	22.79	21.06	20.25	75.00	0.00	15.54	24.84	18.59	29.41	42.31	21.67	50.77	42.95	20.14	6.40	23.40	9.45	16.28	25.45	
40%	0.95	1.64	17.39	6.80	3.48	1.27	0.00	0.00	4.66	1.94	4.17	11.76	30.77	13.33	23.08	8.97	1.06	0.61	5.36	0.79	1.81	6.96	
20%	0.24	0.00	0.00	0.34	0.61	0.00	0.00	0.00	0.52	0.00	0.00	3.92	3.85	6.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.52	0.00	0.26	0.60	
無回答	1.87	0.82	0.00	0.68	1.21	0.00	0.00	86.96	1.03	2.21	4.29	5.56	7.14	1.64	7.14	3.11	3.74	1.80	3.41	0.78	3.25	2.90	
平均値	4.09	4.07	3.78	3.79	3.87	3.98	3.25	4.33	3.96	3.89	3.87	3.47	2.86	3.45	3.06	3.43	3.86	4.25	3.78	4.24	4.00	3.72	

8 - 3 「学生の出席・態度」について

	授業 法 平均	学生 参加 平均	難易度						クラスサイズ(人)					アンケート提出率(%)					講義 科目 平均	演習 科目 平均	必修 科目 平均	選択 科目 平均	
			A	B	C	D	E	無回答	25 以下	26 ~50	51 ~100	101 ~200	201 以上	20 以下	21 ~40	41 ~60	61 ~80	81 ~100					
			17 学生は、質問、発言、調査、自習などにより、この授業に積極的に参加した。	5	16.47	22.95	21.74	9.12	5.45	2.53	0.00	0.00	15.51	5.03	4.13	5.66	0.00	8.47					30.43
4	41.88	44.26	34.78	30.41	28.89	22.78	25.00	0.00	43.85	25.79	24.76	26.42	15.38	40.68	37.68	47.06	44.76	43.33	26.68	42.52	30.75	27.65	
3	28.00	22.68	21.74	42.23	46.26	40.51	0.00	100.00	29.41	48.43	47.30	41.51	50.00	38.98	26.09	21.57	26.22	33.64	46.24	28.35	45.99	41.76	
2	11.76	7.92	17.39	16.22	16.97	29.11	75.00	0.00	10.16	18.24	21.27	20.75	26.92	10.17	4.35	3.92	6.64	8.18	20.08	5.51	14.99	20.39	
1	1.88	2.19	4.35	2.03	2.42	5.06	0.00	0.00	1.07	2.52	2.54	5.66	7.69	1.69	1.45	1.96	3.85	1.52	2.72	1.57	2.07	2.94	
無回答	0.70	0.54	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	91.30	1.06	1.55	3.37	1.85	7.14	3.28	1.43	4.97	2.72	1.20	2.53	0.78	3.25	1.54	
平均値	3.59	3.78	3.52	3.28	3.18	2.89	2.50	3.00	3.63	3.13	3.07	3.06	2.73	3.44	3.91	3.90	3.67	3.59	3.10	3.78	3.24	3.16	

分析のための全体集計

	全体 平均	全学 教育 平均	各学部ごとの専門教育の平均													専門 教育 平均	言語 文化部 平均
			文	教育	法	経済	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産			
設問1~15の平均値	3.80	3.78	3.83	3.79	3.67	3.79	3.79	4.08	3.75	3.89	3.74	3.85	3.96	3.84	3.80	3.94	